

2026年度

# 大学院 履修要項



奈良大学



# 目次

概要	2026年度 学年暦及び行事予定表	2
	建学の精神／教学の理念	4
	教育研究上の目的	5
	学位授与の方針	6
	教育課程編成・実施の方針	7
	カリキュラムマップ	10
	入学者受入の方針	15
履修要項	履修・修了等について	16
	1. 履修	
	2. 学期・授業時間	
	3. 休講・補講	
	4. 試験	
	5. 課程修了要件	
	6. 学位論文	
	7. 最終試験	
	8. 課程の修了	
	修士論文提出要領	19
	修士論文審査基準	21
	奈良大学大学院文学研究科	23
	博士学位取得のためのガイドライン〔課程博士〕	
	専修免許状の取得について	26
	1. 専修免許状の種類	
	2. 基礎資格・所要単位数	
	3. 教科及び教科の指導法に関する科目の単位修得方法	
	G I S 専門学術士取得について	28
	1. 資格の性質	
	2. 申請手続き	
	専門社会調査士取得について	29
	1. 資格の性質	
	2. 取得に必要な科目	
	3. 申請手続き	
	学生生活	30
	1. 研究室の使用について	
	2. 教員のオフィスアワーについて	
	3. 複写機（大学院事務室）の使用について	
	4. 大学院図書・資料室の利用について	
開講科目ガイド	開講科目ガイドについて・科目ナンバリングについて	32
	文学研究科	33
	国文学専攻修士課程	35
	文化財史科学専攻博士前期課程	45
	文化財史科学専攻博士後期課程	73
	地理学専攻修士課程	77
	社会学研究科	87
	社会学専攻修士課程 社会文化研究コース	89
	社会学専攻修士課程 臨床心理学コース	97

# 2026年度 学年暦及び行事予定表

(3月31日現在。諸事情により変更する場合があります。)

## ● 前 期

4月	日	月	火	水	木	金	土	4/1 (水) 学年始 4/2 (木) 入学式 4/3 (金) 新入生・在学生ガイダンス、文学・社会学研究科教員ガイダンス 履修登録期間は別途案内 4/3 (金) ~ 4/15 (水) 修了予定者研究計画提出期間 4/8 (水) 前期授業開始 4/8 (水) ~ 4/10 (金) 健康診断 4/28 (火) 創立記念日 4/30 (木) 休講日												
				1	2	3	4													
	5	6	7	8	9	10	11													
	12	13	14	15	16	17	18													
	19	20	21	22	23	24	25													
	26	27	28	29	30															
5月	日	月	火	水	木	金	土	5/1 (金)、5/2 (土) 休講日 5/1 (金) ~ 5/9 (土) 論文博士予備審査申請書前期受付期間 5/5 (火) こどもの日 (祝日授業実施) 5/6 (水) 振替休日 (祝日授業実施)												
						1	2													
	3	4	5	6	7	8	9													
	10	11	12	13	14	15	16													
	17	18	19	20	21	22	23													
	24	25	26	27	28	29	30													
31																				
6月	日	月	火	水	木	金	土	6/3 (水) ~ 6/5 (金) 修士論文・博士論文題目提出期間												
		1	2	3	4	5	6													
	7	8	9	10	11	12	13													
	14	15	16	17	18	19	20													
	21	22	23	24	25	26	27													
	28	29	30																	
7月	日	月	火	水	木	金	土	7/1 (水) ~ 7/3 (金) 9月修了修士論文提出期間 7/20 (月) 海の日 (祝日授業実施) 7/28 (火) 前期授業終了 (平常授業最終日)  前期最終授業日 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>7/27</td><td>7/28</td><td>7/22</td><td>7/23</td><td>7/24</td><td>7/25</td></tr> </tbody> </table>	月	火	水	木	金	土	7/27	7/28	7/22	7/23	7/24	7/25
	月	火	水	木	金	土														
	7/27	7/28	7/22	7/23	7/24	7/25														
				1	2	3	4													
	5	6	7	8	9	10	11													
	12	13	14	15	16	17	18													
19	20	21	22	23	24	25														
26	27	28	29	30	31															
8月	日	月	火	水	木	金	土	7/29 (水) ~ 8/4 (火) 前期補講期間 8/5 (水) ~ 9/15 (火) 夏期休業 8/20 (木) ~ 8/31 (月) 研究生 (10月入学生) 受付期間												
							1													
	2	3	4	5	6	7	8													
	9	10	11	12	13	14	15													
	16	17	18	19	20	21	22													
	23	24	25	26	27	28	29													
30	31																			
9月	日	月	火	水	木	金	土	9/1 (火) ~ 9/3 (木) 9月修了修士論文口述試問期間 9/25 (金) 後期授業開始 9/30 (水) 9月学位記授与式												
			1	2	3	4	5													
	6	7	8	9	10	11	12													
	13	14	15	16	17	18	19													
	20	21	22	23	24	25	26													
	27	28	29	30																

## ● 後 期

10月	日	月	火	水	木	金	土	10/3 (土) 大学院 (秋季) 入学試験 10/12 (月) スポーツの日 (祝日授業実施)												
					1	2	3													
	4	5	6	7	8	9	10													
	11	12	13	14	15	16	17													
	18	19	20	21	22	23	24													
	25	26	27	28	29	30	31													
11月	日	月	火	水	木	金	土	11/2 (月) ~ 11/10 (火) 論文博士予備審査申請書後期受付期間 11/1 (日) 青垣祭前夜祭 11/2 (月) ~ 11/4 (水) 青垣祭 11/2 (月)、11/4 (水)、11/19 (木)、11/20 (金) 休講日 11/23 (月) 勤労感謝の日 (祝日授業実施)												
	1	2	3	4	5	6	7													
	8	9	10	11	12	13	14													
	15	16	17	18	19	20	21													
	22	23	24	25	26	27	28													
	29	30																		
12月	日	月	火	水	木	金	土	12/25 (金) 年内最終授業 12/26 (土) ~ 1/5 (火) 冬期休業												
			1	2	3	4	5													
	6	7	8	9	10	11	12													
	13	14	15	16	17	18	19													
	20	21	22	23	24	25	26													
	27	28	29	30	31															
1月	日	月	火	水	木	金	土	1/6 (水) 平常授業再開 1/6 (水) ~ 1/8 (金) 修士論文提出期間 1/13 (水)、1/14 (木)、1/18 (月) 文学研究科博士論文提出期間 1/14 (木) 博士後期課程進学志望届提出締切日 1/15 (金)、1/16 (土) 休講日 (大学入学共通テスト) ⊙【学生構内立入禁止】 1/27 (水) ~ 1/30 (土)、2/2 (火) ~ 2/3 (水) 後期補講期間 1/27 (水) ~ 2/5 (金) 修士論文口述試問期間 1/27 (水) ~ 2/5 (金) 博士後期課程内部進学者選考日 (候補日) 1/27 (水) ~ 2/5 (金) 文学研究科課程博士論文口述試問・公聴会 (候補日)  後期最終授業日 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>月</td><td>火</td><td>水</td><td>木</td><td>金</td><td>土</td> </tr> <tr> <td>2/1</td><td>1/26</td><td>1/20</td><td>1/21</td><td>1/22</td><td>1/23</td> </tr> </table>	月	火	水	木	金	土	2/1	1/26	1/20	1/21	1/22	1/23
	月	火	水	木	金	土														
	2/1	1/26	1/20	1/21	1/22	1/23														
						1	2													
	3	4	5	6	7	8	9													
	10	11	12	13	14	15	16													
	17	18	19	20	21	22	23													
	24	25	26	27	28	29	30													
	31																			
	2月	日	月	火	水	木	金		土	2/1 (月) 後期授業終了 (平常授業最終日) 2/3 (水) 月曜日の振替補講日 2/6 (土) ~ 3/31 (水) 春期休業 2/24 (水) 大学院 (春季) 入試										
			1	2	3	4	5		6											
7		8	9	10	11	12	13													
14		15	16	17	18	19	20													
21		22	23	24	25	26	27													
28																				
3月	日	月	火	水	木	金	土	3/19 (金) 学位記授与式 3/31 (水) 学年末												
		1	2	3	4	5	6													
	7	8	9	10	11	12	13													
	14	15	16	17	18	19	20													
	21	22	23	24	25	26	27													
	28	29	30	31																

## 建学の精神

努力が天才であるとする信念を以て心の光となし、

自己の願望を遂げさせるものは自分自身であるとする信念を以て心の力となす。

この光に照らされ、この力に勇みつつ、

明るい人生の中に自己を見出して、常に大望を見失わず、自信満々努力して倦まざるもの、

これが即ちたくましく正しきに強き健児の姿であり、建学の精神である。

## 教学の理念

1. つねに真理の探究につとめ、伝統と現代感覚の調和をはかりつつ、  
学術文化の創造と進歩に寄与する。
2. ふれあいと対話の教育を基調にして、豊かな人間性を養い、  
独立自由を尊ぶとともに、友情あつく協調性に富んだ人材を育成する。
3. 国際的視野に立つ開かれた大学として、地域社会との連帯を深めながら、  
ひろく人類社会の平和と発展に貢献する。

# 教育研究上の目的

## 文学研究科

### 【国文学専攻】

日本語をめぐる諸現象を、古典文学・近現代文学・国語学の分野から実証的、分析的に研究する。日本語や日本文学に関する広範囲な知識を習得するとともに、文献やデータを的確に読み取り、論述する深い思考力をもった専門家、及び、アジアや世界の観点から日本文化を見つめることのできる多様性をもった人材を育成する。また、言葉に関係の深い専門分野である教諭専修免許状（中学・高校の国語科）、司書資格、学校図書館司書教諭資格等を取得できる人材の育成を目的とする。

### 【文化財史料学専攻】

文献史学、考古学、美術工芸史学、保存修復学の4分野からなる。いずれの分野も学際的見地に立ち、社会・文化・芸術などの問題を、物的資料と文字資料の両面から検討することにより、幅広くかつ専門的に教育と研究を行うことを目的とする。後期課程においては、より高度な専門的知識と能力をもつ専門職業人の養成を目的とする。

### 【地理学専攻】

地表をめぐる諸現象を、自然地理学、人文地理学、地誌学、GISの各分野の立場で科学的に研究し、広範な知識、高度な専門性を生かして地理的諸問題に対処し得る自立的な能力を錬成すると共に、地理学に関係の深い専門分野であるGISの専門資格、中学校（社会）・高等学校（地理歴史）教諭専修免許状等を取得できる人材の育成を目的とする。

## 社会学研究科

### 【社会学専攻】

「社会的存在」としての人間に関わる諸問題を深く捉えるための専門的知識と実践的技能の基礎を身につけた研究者、及び高度な専門職業人の養成を目的としている。さまざまな社会の課題に関係した調査を実施し、その分析・考察を通じて、よりよい社会を構想する専門家や、人間の心の苦悩や問題、病理に関する臨床心理学的な知識と援助技法を備えた専門家の育成に努める。

# 学位授与の方針

## DP (ディプロマ・ポリシー)

### 文学研究科

#### 修士・博士前期課程

所定の年限以上在学し、専攻の設定した授業科目を履修したことによって以下の優れた専門的知識、実践力、研究能力を身につけ、さらに修士論文の審査に合格した者に修士の学位を授与する。

1. 人文科学諸領域における学術研究を推進するうえで必要な知識と技能を十分に持ち、その知識を活用することができる。
2. 専門領域の研究状況を正しく理解し、自らの研究の目的・意義を正確に位置づけた上で、自らが解決すべき問題を発見し研究を推進することができる。
3. 研究に携わる者としての強い責任感と高い倫理性を持ち、自らの研究成果を広く社会に向けてわかりやすく発信・公表することができる。

#### 博士後期課程【文化財史料学専攻】

所定の年限以上在学し、専攻の設定した授業科目を履修したことによって以下の優れた専門的知識、実践力、研究能力を身につけ、さらに博士論文の審査に合格した者に博士の学位を授与する。

1. 学術研究に携わる者としての強い自覚と探究心をそなえ、歴史学・文化財学に関わる広い視野と学際的知識を持っている。
2. 専門及び関連諸領域の研究状況を正しく認識して自らの研究の目的・意義を正確に位置づけ、独創的内容をもった研究を遂行することができる。
3. 高度な専門知識を有し、研究に携わる者としての強い責任感と高い倫理性を持って、自らの研究を推進し、学界及び社会に対して広く発信し、還元することができる。
4. 共同研究を推進できる協調性をもち、後進の指導にも積極的にあたることができる。

### 社会学研究科

#### 修士課程

所定の年限以上在学し、専攻の設定した授業科目を履修したことによって以下の優れた専門的知識、実践力、研究能力を身につけ、さらに修士論文の審査に合格した者に修士の学位を授与する。

1. 「社会的存在」としての人間の諸問題を深く理解するための、高度な専門的知識
2. 現代社会や人間の心に関する諸課題に対応し、専門的知識を応用できる実践力
3. 専門の研究分野において問題解決に寄与し、その成果を適切に発信できる研究能力

# 教育課程編成・実施の方針

## CP（カリキュラム・ポリシー）

### 文学研究科

#### 修士・博士前期課程

##### 【国文学専攻】

- CP1. 日本語と日本文学にかかわる基礎的な知識を学び、それらを専門的な研究手法に応用する姿勢を身につける。
- CP2. 日本語と日本文学を広く文化現象と比較しながら考察してゆく学習方法を熟知し、体得する姿勢を身につける。
- CP3. 文献調査やフィールドワークによって、実証的に考察を進めてゆく学習方法を熟知し、体得する姿勢を身につける。
- CP4. 自らの思考や分析によって得た見解を、討論を通じてより論理的・客観的な研究へと高めてゆく姿勢を身につける。

CP1	上代文学特論、中古文学特論、中世文学特論、近世文学特論、書物特論、メディア文化特論、比較交流特論、和歌歌謡特論、近代小説特論、近代詩歌特論、現代文学特論、古典日本語特論、現代日本語特論、国文学特論、国語学特論
CP2	日本言語文化論、広域言語文化論、表象文化論
CP3	古典散文特殊講義（基礎）・（応用）、古典韻文特殊講義（基礎）・（応用）、近代文学論特殊講義（基礎）・（応用）、言語論特殊講義（基礎）・（応用）
CP4	上代文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、中古文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、中世文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、近世文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、近代文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、現代文学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、古典語国語学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、現代語国語学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

##### 【文化財史料学専攻】

- CP1. 文献史学、考古学、美術工芸史学、保存修復学の基礎的な専門知識を補い、より高度な分析力に活用する。
- CP2. 多様な分野の学術的研究を幅広く学ぶことによって、国際的な視野と幅広い知識を獲得し、多角的な思考力を身につける。  
科学的・実証的思考の基礎となる文献史料と実物資料を適切に分析できる力を身につける。
- CP3. 文化財（文化遺産）の調査・保存・修復・活用等に関する専門的な知識と技術を修得する。
- CP4. 研究発表と討論を通して、自ら思考し、分析する姿勢を身につける。

CP1	文献史学特論、考古学特論、美術工芸史学特論、保存修復学特論
CP2	文献史学（日本史）特殊講義A・B・C、文献史学（外国史）特殊講義、考古学特殊講義A・B・C、美術工芸史学特殊講義、保存修復学特殊講義、情報処理論特殊講義
CP3	考古学特殊講義A・B・C、美術工芸史学特殊講義、保存修復学特殊講義、情報処理論特殊講義、文化財史料学特殊講義、文化財修復実習
CP4	文献史学（日本史）演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、文献史学（外国史）演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、考古学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、美術工芸史学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、保存修復学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

### 【地理学専攻】

- CP1. 専門の基礎的知識を補い、また、専門と関わって研究上広い視野に立つことができる姿勢を身につける。
- CP2. 地理学が、系統地理学としての自然地理学分野と人文地理学分野、それらをかけつなぐ地誌学分野とが文理融合した総合的な性格を持つことを理解し、幅広く、諸現象の成因から、現実には生起する諸問題の解決に向けて取り組む能力を身につける。
- CP3. GISをはじめとする先端的な専門知識、巡検の計画を立案し遂行するための知識と、それらに対する技能を習得し、総合できる能力を身につける。
- CP4. 自らの思考によって解析した研究内容を、少人数教育における参加型授業で発表・議論し、研究指導を受ける。

CP1	自然地理学特論、人文地理学特論、地域・地誌学特論
CP2	自然地理学（地形）特殊講義、自然地理学（気候）特殊講義、自然地理学（環境）特殊講義、人文地理学（農村）特殊講義、人文地理学（歴史）特殊講義、人文地理学（文化）特殊講義、人文地理学（都市）特殊講義、地域・地誌学（日本）特殊講義、地域・地誌学（先進地域）特殊講義、地域・地誌学（発展途上地域）特殊講義
CP3	地理情報学特殊講義、国内巡検計画法Ⅰ・Ⅱ、外国巡検計画法Ⅰ・Ⅱ
CP4	自然地理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、人文地理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、地域・地誌学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ

### 博士後期課程

#### 【文化財史料学専攻】

1. 「特殊研究」は、以下のような目的と内容をもって開講し、その成果を口頭発表や学術論文として発表することを目的とする。
- ① 専門及び関連諸領域の研究状況を的確に把握し、自らの研究を独創的かつ高度な内容にまとめ上げる能力を身につける。
  - ② 文献資料の高度な読解力と文化財に関する幅広い知識を身につける。
  - ③ 研究を遂行する上で遵守すべき規範を理解し、研究者に必要な倫理観を身につける。
2. 「博士論文」は、原則として3年間の「特殊研究」における学修の成果をもとに、その間、学術雑誌等に発表した複数の研究成果を踏まえてまとめるものとする。

# 社会学研究科

## 修士課程

### 【社会学専攻】

- CP1. 社会・人間諸科学におけるさまざまな研究分野を学ぶための科目の修得を通じ、理論と実践を融合し、複眼的な視点からの研究活動に応用する姿勢を身につける。
- CP2. 社会文化研究コースにおいては、とくに社会学、文化人類学、社会心理学の理論と研究法、及び社会調査の専門的技法を中心に習得することで、研究者として実証的研究を遂行するための知識、技術、倫理観を身につける。
- CP3. 臨床心理学コースにおいては、とくに臨床心理学の理論と研究法、及び臨床実践の専門的技法を中心に習得することで、各種の臨床現場において高い倫理観と職業意識をもって活動できる心理臨床家としての能力を身につける。

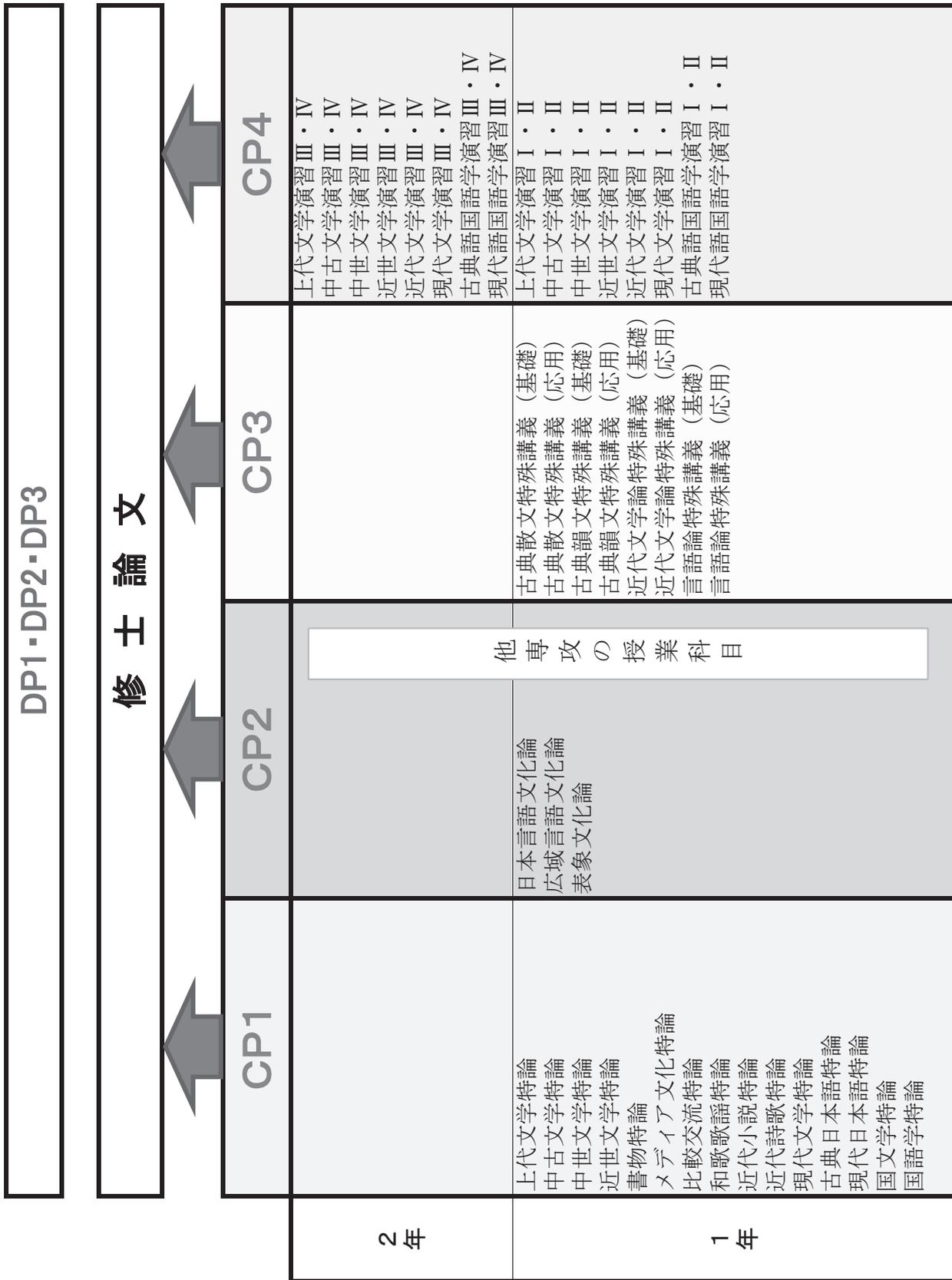
### 社会文化研究コース

CP1	情報学特論Ⅰ、Ⅱ、経済学特論Ⅰ、Ⅱ、経営学特論Ⅰ、Ⅱ
CP2	社会文化研究演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、社会学特論Ⅰ、Ⅱ、文化人類学特論Ⅰ、Ⅱ、社会心理学特論Ⅰ、Ⅱ、応用社会学特論Ⅰ、Ⅱ、応用人類学特論Ⅰ、Ⅱ、応用社会心理学特論Ⅰ、Ⅱ、社会調査法特論、多変量解析法特論、質的調査法特論、統計解析法特論、学位論文

### 臨床心理学コース

CP1	社会心理学特論
CP3	臨床心理学演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）、臨床心理査定演習Ⅱ、臨床心理基礎実習、臨床心理実習、臨床心理学特論Ⅰ、Ⅱ、臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）、臨床心理面接特論Ⅱ、臨床心理学研究法特論、心理統計法特論、発達心理学特論、教育心理学特論、犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）、障害者（児）心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）、精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）、心身医学特論、投映法特論、心理療法特論、心理実践実習Ⅰ・Ⅱ、学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）、グループ・アプローチ特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）、産業・組織心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）、心理教育特論（心の健康教育に関する理論と実践）、学位論文

# 国文学専攻 カリキュラムマップ



# 文化財史料学専攻 カリキュラムマップ

DP1-DP2-DP3

博士論文

3年	
2年	
1年	日本史特殊研究Ⅰ・日本史特殊研究Ⅱ・日本史特殊研究Ⅲ・日本史特殊研究Ⅳ・日本史特殊研究Ⅴ・日本史特殊研究Ⅵ・美術工芸史特殊研究Ⅱ・美術工芸史特殊研究Ⅲ 美術工芸史特殊研究Ⅳ・考古学特殊研究Ⅰ・考古学特殊研究Ⅱ・考古学特殊研究Ⅲ・考古学特殊研究Ⅳ・保存修復学特殊研究Ⅰ・保存修復学特殊研究Ⅱ 国際史料学特殊研究Ⅰ・国際史料学特殊研究Ⅱ・国際史料学特殊研究Ⅲ・国際史料学特殊研究Ⅳ

指導教員の特殊研究を3年連続履修

修士論文

	CP1	CP2	CP3	CP4
2年	文献史学特論 考古学特論 美術工芸史学特論 保存修復学特論	文献史学(日本史) 特殊講義A 文献史学(日本史) 特殊講義B 文献史学(日本史) 特殊講義C 文献史学(外国史) 特殊講義 考古学特殊講義A 考古学特殊講義B 考古学特殊講義C 美術工芸史学特殊講義 保存修復学特殊講義 情報処理論特殊講義	文化財修復実習	文献史学(日本史) 演習Ⅲ 文献史学(日本史) 演習Ⅳ 文献史学(外国史) 演習Ⅲ 文献史学(外国史) 演習Ⅳ 考古学演習Ⅲ 考古学演習Ⅳ 美術工芸史学演習Ⅲ 美術工芸史学演習Ⅳ 保存修復学演習Ⅲ 保存修復学演習Ⅳ
1年	文献史学特論 考古学特論 美術工芸史学特論 保存修復学特論	文献史学(日本史) 特殊講義A 文献史学(日本史) 特殊講義B 文献史学(日本史) 特殊講義C 文献史学(外国史) 特殊講義 考古学特殊講義A 考古学特殊講義B 考古学特殊講義C 美術工芸史学特殊講義 保存修復学特殊講義 情報処理論特殊講義	考古学特殊講義A 考古学特殊講義B 考古学特殊講義C 美術工芸史学特殊講義 保存修復学特殊講義 情報処理論特殊講義 文化財史料学特殊講義	文献史学(日本史) 演習Ⅰ 文献史学(日本史) 演習Ⅱ 文献史学(外国史) 演習Ⅰ 文献史学(外国史) 演習Ⅱ 考古学演習Ⅰ 考古学演習Ⅱ 美術工芸史学演習Ⅰ 美術工芸史学演習Ⅱ 保存修復学演習Ⅰ 保存修復学演習Ⅱ

# 地理学専攻 カリキュラムマップ

DP1・DP2・DP3

## 修士論文

	自然地理学分野	人文地理学分野	地誌学分野	
2年	自然地理学演習Ⅲ	人文地理学演習Ⅲ	地域・地誌学演習Ⅲ	CP4
	自然地理学演習Ⅳ	人文地理学演習Ⅳ	地域・地誌学演習Ⅳ	
	自然地理学演習Ⅰ	人文地理学演習Ⅰ	地域・地誌学演習Ⅰ	
	自然地理学演習Ⅱ	人文地理学演習Ⅱ	地域・地誌学演習Ⅱ	
1年	自然地理学 (地形) 特殊講義	人文地理学 (農村) 特殊講義	地域・地誌学 (日本) 特殊講義	CP2
	自然地理学 (気候) 特殊講義	人文地理学 (歴史) 特殊講義	地域・地誌学 (先進地域) 特殊講義	
	自然地理学 (環境) 特殊講義	人文地理学 (文化) 特殊講義	地域・地誌学 (発展途上地域) 特殊講義	
	自然地理学特論	人文地理学 (都市) 特殊講義	地域・地誌学特論	
	他専攻の授業科目			CP1
	地理情報学特殊講義、国内巡検計画Ⅰ・Ⅱ、外国巡検計画Ⅰ・Ⅱ			CP3

# 社会文化研究コース・カリキュラムマップ

《《専門的知識・実践力・研究能力を身につける》》

社会文化研究演習 I・II・III・IV  
学位論文

《《社会での専門的知識の応用法を学ぶ》》

情報学特論 I・II  
経済学特論 I・II  
経営学特論 I・II

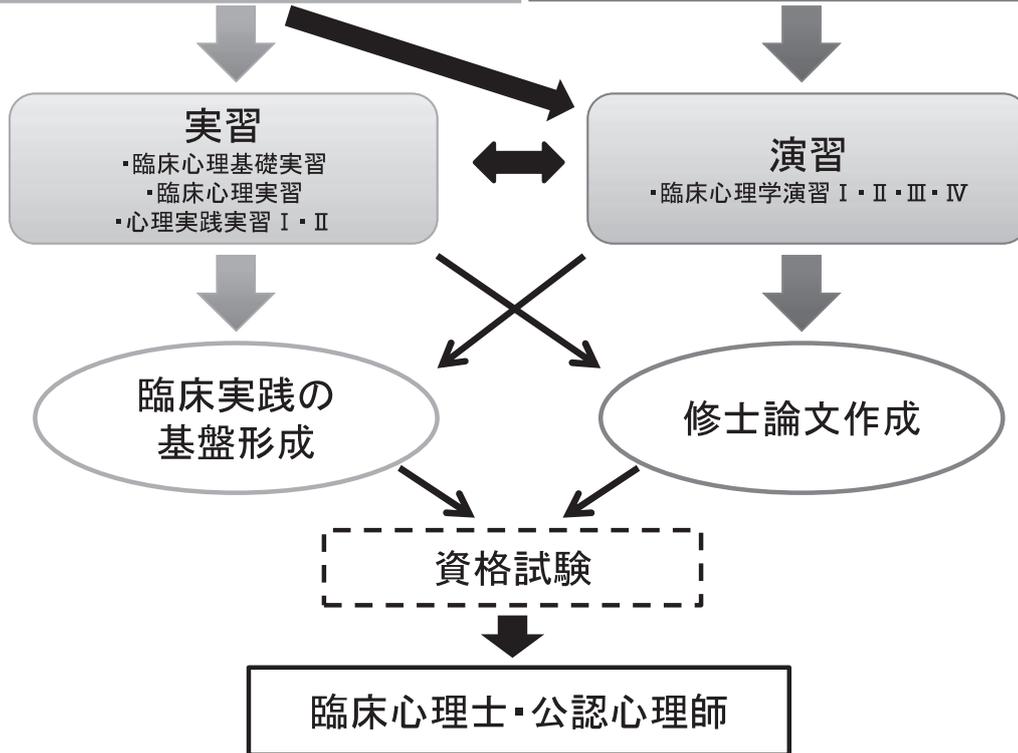
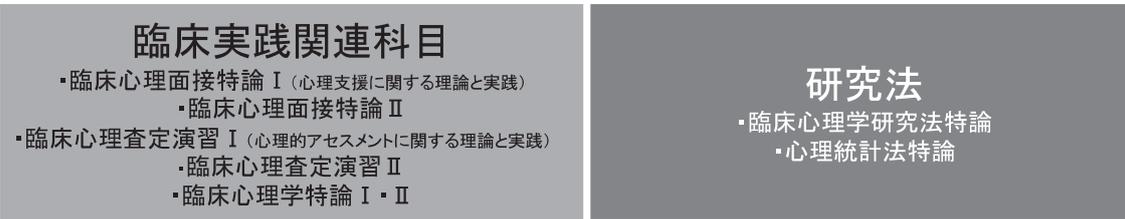
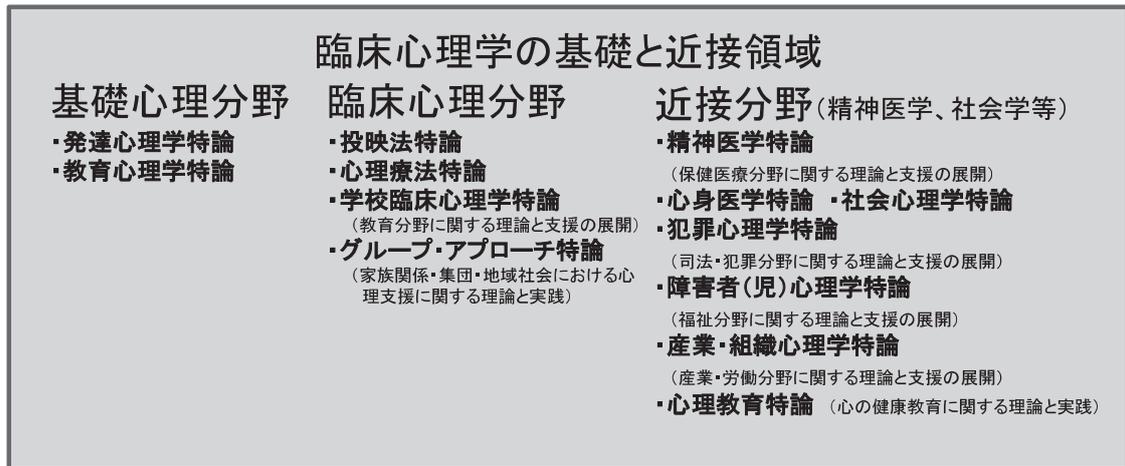
《《社会学・文化人類学・社会心理学の理論と研究法を学ぶ》》

社会学特論 I・II  
応用社会学特論 I・II  
文化人類学特論 I・II  
応用人類学特論 I・II  
社会心理学特論 I・II  
応用社会心理学特論 I・II

《《社会調査の専門的技法を学ぶ》》

社会調査法特論  
多変量解析法特論  
質的調査法特論  
統計解析法特論

# 臨床心理学コース カリキュラムマップ



# 入学者受入の方針

## AP（アドミッション・ポリシー）

### 文学研究科

#### 修士・博士前期課程

奈良大学文学部における学位授与の方針（DP）で掲げている、①知識・技能の理解と活用、②問題発見・解決力、③多様性の理解、④コミュニケーション能力、⑤自律的で意欲的な態度、のいずれにも合致する能力を持ち、自らの研究を計画的に推進できる能力を持つ人材を受け入れる。以下、各専攻で定める能力をそなえていること。

##### 【国文学専攻】

1. 日本文学・日本語及びそれらに関連する文化的諸領域について、基礎的な知識をもち、かつ主体的に研究していける人。

##### 【文化財史料学専攻】

1. 歴史遺産に恵まれた奈良を拠点とし、自国の文化、さらには異文化へと、世界的に視野を広げ、歴史・文化を研究していける人。
2. 高度で専門的な知識と技術を習得することにより、具体的な所産である文化財を通して歴史や文化を研究していける人。
3. 文化財を継承していくことの大切さを十分に理解し、その保存・修復・活用に、より高度な科学的調査方法や研究能力を生かしていける人。

##### 【地理学専攻】

1. 地表をめぐる諸現象のうち、自然地理学、人文地理学、地誌学、GISなどの分野の基礎的知識を持ち、かつ主体的に研究していける人。
2. 地理学に関係の深い分野であるGISに関する専門資格及び中学・高等学校教諭専修免許状を生かした活動を目指している人。

#### 博士後期課程【文化財史料学専攻】

奈良大学大学院文学研究科博士前期課程における学位授与の方針（DP）に合致し、さらに研究目的及び研究計画が明確で、推進力が期待できる人材を受け入れる。

### 社会学研究科

#### 修士課程

##### 【社会学専攻】

社会学研究科創設以来の「リサーチ・オリエンテッド」の伝統に基づき、調査・実験・臨床の実践を通じて実証的な研究を継続して行う意志のある人材を求める。社会文化研究コースにおいては社会学、社会心理学、経済学、経営学、情報学から学際的かつ専門的な技能を獲得するために学ぶ意思を強く持ち、自律的に問題解決に取り組むことができると同時に、常に自身の学びと社会との繋がりを意識することができる人材を受け入れる。臨床心理学コースにおいては臨床心理学について深く探求し、自己と他者の心に寄り添うと同時に冷静な分析的視点を失わない姿勢を自ら育む意欲と、学修の成果を社会への貢献に繋げる意思を持つ人材を受け入れる。

# 履 修 要 項

## 【履修・修了等について】

### 1. 履修

授業を受けるにあたっては、予めどの科目を受講するかを決め、履修の登録を行う必要があります。

履修登録されていない科目の授業を受け、試験またはレポートを提出して評価が出されても単位は認定されませんので、必ず下記期間中に履修登録を済ませて受講するようにしてください。

本学大学院では、半期で授業が終了する Semester 制を導入していますが、履修登録は原則4月の年度当初に年間の履修計画を立て、1年間で受講する科目を全て登録してください。

4月のガイダンスで配付する「大学院履修登録申請書」により登録（大学院事務室へ提出）していただきますが、大学院での履修登録に際しては、指導教員との履修相談と承認が必要です。必ず指導教員と履修相談を行い、履修登録期間内に登録をしてください。期間を過ぎての申請は出来ませんので、注意してください。

また、本年度で修了を予定している場合（修士・博士前期課程は2年次以上、博士後期課程は3年次以上）は、履修登録申請書と合わせ「研究計画書」の提出が必要です。登録期間内であれば履修登録申請書とは別に提出して差し支えありません。様式及び枚数は6月提出分と同様（ただし、提出部数は1部とします）ですので、【修士論文提出要領】（P19）を参照のこと。履修相談と合わせて、研究計画書の提出についても指導教員の指導・指示を受けてください。

なお、9月の履修登録は、4月の登録を集計して、本年度に開講することが決定した科目のうち、**後期から始まる科目のみ追加登録が出来ます**。なお、前期に登録した後期科目を、都合により履修を取り止めても、**登録科目の削除は行えません**ので、特に注意してください。

#### 4月の履修登録期間

研究科・専攻・コース名	登録期間	登録方法
全研究科・全専攻・全コース	2026年4月3日(金) ) 2026年4月6日(月)	指導教員との履修相談を行い、「大学院履修登録申請書」に記入後、指導教員の確認印を得て、大学院事務室へ提出。

期間・方法は変更する可能性があります。

#### 9月の履修登録日

コース名	登録日	登録方法
全研究科・全専攻・全コース	2026年9月前半(予定)	4月の登録同様「大学院履修登録申請書」を大学院事務室へ提出。

期間・方法は変更する可能性があります。

### 2. 学期・授業時間

学期は、前期（15週）及び後期（15週）の2期。授業時間は次のとおり。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00～10:30	10:40～12:10	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

### 3. 休講・補講

#### (1) 休講

授業担当者が学会参加等のやむを得ない理由で講義を休講とする場合は、総合研究棟2Fの大学院掲示板（電子モニター）にて休講連絡をします。なお、授業開始時刻から25分が経過しても授業担当者が来ない場合は、大学院事務室に連絡のうえ、指示を受けてください。

#### (2) 補講

授業の補充（補講）が行われる場合も、総合研究棟2F大学院掲示板（電子モニター）にて連絡をします。

### 4. 試験

試験方法として筆記試験、口頭試験及び研究報告があります。特に研究報告の場合は、総合研究棟2F大学院掲示板（電子モニター）にて連絡をします。

#### ○研究報告の提出について

必ず表紙（大学院事務室で配付）をつけて、提出場所、期限を間違えないよう提出をしてください。特に、大学院事務室提出の研究報告は、締切日を含め**3日間**しか受付できませんので、注意してください。

提出時間： 平日 8：30～16：30 **（最終日は15：00） 時間厳守**

### 5. 課程修了要件

- ・修士課程または博士前期課程の修了要件は、当該課程に2年以上在学し、各専攻の授業科目について**32単位以上**を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。
- ・博士後期課程の修了要件は、当該課程に3年以上在学し、所定の授業科目について**12単位以上**修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、博士の学位論文の審査及び最終試験に合格することが必要です。

### 6. 学位論文

- ・修士の学位論文は、専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度な能力を有することを立証するに足るものでなければなりません。
- ・博士の学位論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、その他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有することを立証するに足るものでなければなりません。

作成・提出にあたっては、次の事項及び「**修士論文提出要領**」（P19）、「**博士学位取得のためのガイドライン**」（課程博士）（P23）、『COLLEGE LIFE』「奈良大学学位規程」及び、「大学院生修了に伴う取扱要項」を参照してください。

#### ○作成指導

論文を作成するためには、各専攻指導教員の指導を受けなければなりません。なお、指導を受けるにあたっては、4月の新入生ガイダンスで配付する「指導教員希望届」の提出が必要です。（「指導教員希望届」には、希望する教員の承認印が必要です。）

提出期間：4月3日（金）～4月6日（月） ※提出期間・方法は変更する場合があります。

提出先：大学院事務室（土曜日は12：30まで）

#### ○提出資格

修士の学位論文を提出できる者は、修士課程または博士前期課程に1年以上在学し、各専攻の授業科目について20単位以上の修得が必要です。

博士の学位論文を提出できる者は、博士後期課程に2年以上在学し、既に所定の単位を修得した者または論文審査終了までに修得する見込みであることが必要です。

#### ○題目提出

修士または博士の学位論文の提出予定者は、5月中旬から配付する「論文題目届」に**指導教員の承認印**を受けて、所定の期間（学年暦参照P 2）に「論文題目届」と「研究計画書 3部」を大学院事務室へ提出してください。

※「論文題目」と「研究計画書」を提出しなかった場合は、論文の提出はできません。

#### ○形式等

論文の形式等必要事項については、指導教員の指示に従ってください。

#### ○提出

修士の学位論文は、「学位授与申請書」（大学院事務室で配付）と「論文要旨」を添えて、所定の期間（学年暦参照P 3）に大学院事務室を経て当該研究科長に提出してください。

※学位論文は3部（2部は複写可）、論文要旨は4部（3部は複写可）を提出。

博士の学位論文は、「学位授与申請書」（大学院事務室にて配付）と「論文要旨」及び「履歴書」を添えて、所定の期間（学年暦参照P 3）に大学院事務室を経て当該研究科長に提出してください。

※学位論文は4部（3部は複写可）、論文要旨は4部（3部は複写可）と履歴書1部を提出。

#### ○審査

学位論文の審査は、指導教員を主査とし、論文に関連のある教員2名以上で構成され、当該研究科の審査委員会が行います。

## 7. 最終試験

提出論文を中心として、専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、口述または筆記による最終試験を行います。

合否の決定は、当該研究科委員会が行います。

## 8. 課程の修了

(1) 課程の修了の認定は、当該研究科委員会が行います。

(2) 修士課程または博士前期課程を修了した者には、次の学位を授与します。

文学研究科          修士（文学）

社会学研究科        修士（社会学）

(3) 博士後期課程を修了した者には、次の学位を授与します。

文学研究科          博士（文学）

# 【修士論文提出要領】

## 1. 論文題目及び研究計画の提出

### (1) 修士論文題目

「修士論文題目」の用紙（5月中旬配付）を大学院事務室より受け取り、**指導教員の承認印**を受けて、下記の期間中に大学院事務室に提出すること。

### (2) 研究計画

「研究計画」の表紙（5月中旬配付）を大学院事務室より受け取り、**正本1部、副本2部（複写可）、合計3部**を作成し、論文題目とあわせて大学院事務室に提出すること。

提出期日	全研究科	2026年6月3日(水)～2026年6月5日(金)
------	------	---------------------------

※**提出時間 8：30～16：30（時間厳守）**

## 2. 修士論文及び論文要旨の提出

### (1) 修士論文

修士論文を提出する者は、大学院事務室で学位授与申請書を受け取り、**指導教員の承認印**を受けて、**正本1部、副本2部（複写可）、合計3部**の修士論文を下記の期間中に大学院事務室に提出すること。

### (2) 論文要旨

「論文要旨」の表紙を大学院事務室で受け取り、**正本1部、副本3部（複写可）、合計4部**の論文要旨を作成し、修士論文とあわせて大学院事務室に提出すること。

提出期日	全研究科	9月修了	2026年7月1日(水)～2026年7月3日(金)
		3月修了	2027年1月6日(水)～2027年1月8日(金)

※**提出時間 8：30～16：30（時間厳守）**

## 3. 用紙・書式・提出枚数・綴じ方

次ページの表を参照のうえ作成すること。

## 4. 「奈良大学大学院研究年報」への論文要旨の掲載

修士論文が審査に合格し修了した者は、提出された論文要旨を「奈良大学大学院研究年報」に掲載しなければならない。ただし、本人の申し出があった場合は、論文要旨を書き改めることができる（体裁・枚数は同じものとする）。

なお、奈良大学大学院研究年報に掲載する最終の論文要旨は、口述試問の終了後、印刷したものと、そのデータを提出すること。提出方法等については、別途掲示で連絡する。

【修士論文・研究計画・論文要旨】＜用紙・書式・提出枚数・綴り方＞

※用紙は、コピー用紙可。

	用紙	書式	【修士論文】		【研究計画】		【論文要旨】	
			提出枚数 表紙、目次、注、 参考文献は含まない	綴り方までの 完成原稿の作り方	提出枚数	綴り方までの 完成原稿の作り方	提出枚数	綴り方までの 完成原稿の作り方
国文学専攻	B5判 (縦書き、横書きは自由)	①縦書きの場合 50字×16行 800字 ②横書きの場合 40字×20行 800字	提出枚数 25枚以上(本論のみ)	綴り方までの 完成原稿の作り方 ①本学指定のフロッ トファイル(黄色) に綴ること。(本学 売店で販売)	提出枚数	綴り方までの 完成原稿の作り方 6月の論文題目提出 時に提出	提出枚数	綴り方までの 完成原稿の作り方 1月の論文提出時に 提出
			400字詰原稿用紙換算 50枚以上(本論のみ)	②フアイルには、大 学院事務局より受け 取った所定の表紙及 び背表紙を貼り、年 度・論文題目(副題 目を含む)・研究科名・ 専攻名・指導教員名・ 学籍番号・氏名を明 記。	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、2,000字以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、2,000字以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、2,000字以内。 (注、参考文献を含 む)
文化財 史文学専攻	《史学系》 B5判 (縦書き、横書きは自由)	①縦書きの場合 40字×15行 600字 ②横書きの場合 30字×15行 450字	提出枚数 400字詰原稿用紙換算 30枚以上(本論のみ)	綴り方までの 完成原稿の作り方 注：6月に提出した 「論文題目」を1文字 でも変更した場合は、 大学院事務局で「題 目変更届」を受け取 り、指導教員の承認 印を受けて提出する こと。なお、サブタ イトルを追加した場 合の「題目変更届」 提出は不要。	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)
			提出枚数 25枚以上(図表込み)		提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)	提出枚数 横書き、縦書きと ともに、3枚以内。 (注、参考文献を含 む)
地理学専攻	A4判	横書き 32字×25行 800字	提出枚数 25枚以上(図表込み)					
社会学専攻	A4判	横書き 40字×30行 1,200字	提出枚数 専攻の定めによる					
文学研究科								
社会学研究科								

# 【修士論文審査基準】

## 文学研究科

### 審査体制

本研究科は、学位の申請に対し、学位論文の受理の可否を決定し、指導教員（主査1名）及び論文に関連のある教員（副査2名）による審査委員会を設け、審査を行う。

ただし、修士の学位の審査委員会については、当該研究科委員会が認める場合には副査を1名とすることができる。

### 審査内容

#### 国文学専攻

提出論文を中心として専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、主査と副査による査読及び口述による審査を行う。

#### 文化財史料学専攻・地理学専攻

提出論文を中心として専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、主査と副査による査読及び口述又は筆記による審査を行う。

### 審査基準

#### 国文学専攻

1. 課題設定の妥当性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資料の収集が適切に行われていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ・資料・作品・例文などの処理、分析、解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論理構成の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
5. 論文作成の能力：論文全体が的確な文章によって執筆されており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関する体裁が整っていること。

#### 文化財史料学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや史資料の収集が適切に行われていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ・史資料・作品・例文などの処理、分析、解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。

5. 論文作成の能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。

#### 地理学専攻

1. 研究テーマの適切性：研究目的が明確で、課題設定が適切になされていること。
2. 情報収集の適切性：当該テーマに関する先行研究についての十分な知見を有し、立論に必要なデータや資史料の収集が適切に行われていること。
3. 研究方法の適切性：研究の目的を達成するためにとられた方法が、データ、資史料、地図などの処理・分析・解釈の仕方も含めて、適切かつ主体的に行われていること。先行研究に対峙し得る発想や着眼点があり、それらが一定の説得力を有していること。
4. 論旨の妥当性：全体の構成も含めて論旨が一貫しており、当初設定した課題に対応した明確かつオリジナルな結論が提示されていること。
5. 論文作成の能力：文章全体が確かな表現力によって支えられており、要旨・目次・章立て・引用・注・図版等に関しての体裁が整っていること。

### 社会学研究科

#### 審査体制

本研究科は、修士の学位申請に対し、学位論文の受理の可否を決定し、指導教員（主査1名）及び論文に関連のある教員（副査2名）による審査委員会を設け、審査を行う。

#### 審査内容

提出論文を中心として専攻分野について精深な学識と研究能力を確認するため、主査と副査による査読及び口述による審査を行う。

#### 審査基準

##### 社会学専攻

1. テーマの明確性・適切性：問題意識が明確で、課題設定が適切であること。
2. 先行研究のレビューと位置づけ：研究テーマについての先行研究が十分に理解され、検討されていること。そしてその研究動向の中での位置づけ、意義が明確であること。
3. 研究方法の適切性：研究目的に対し、研究のデザイン・研究方法・分析方法が適切であること。
4. 論文構成：論文構成が的確で、当該専攻分野における学術論文の標準的な体裁に則ったものであること。
5. 論理の一貫性と論述の明解さ：論理展開に整合性、一貫性があること。表現や用語が論文にふさわしいレベルに達していること。
6. 倫理的配慮の適切性：研究方法や研究対象に対する倫理的配慮がなされていること。

# 【奈良大学大学院文学研究科博士学位取得のための ガイドライン〔課程博士〕】

## 博士の学位論文の提出要件

1. 本研究科博士後期課程に3年以上（見込を含む）在学し、所定の研究指導を受けていること。ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、本研究科委員会の議を経て、学長が認めた場合に限り、博士後期課程に1年（3年から博士前期課程の標準修業年限の2年を減じた期間）以上在学すれば足りるものとする。
2. 学位論文の提出時において、専門学会誌ないし学術誌に3本以上の論文を既に発表しており、かつ、その中にレフェリー付きの学会誌への掲載を含むこと。

## 研究指導

標準修業年限（3年）内に学位論文を提出し、論文審査に合格のうえ学位を取得できるよう、次のように研究指導を行う。

### 1年次

指導教員の「特殊研究」を履修し、修士論文の補完しながら研究計画を見直し、「研究計画書」を提出する。また、先行研究の動向把握をするとともに、自らの研究課題を整理し、資料収集と分析を行う。年度内に研究ノートなど1～2本を学会誌等（奈良大学大学院研究年報を含む）で公表する。

### 2年次

1年次に続き指導教員の「特殊研究」を履修し、前年度の研究計画の見直しを行い、「研究計画書」を提出する。資料収集・分析を本格化させるとともに、明らかにされた研究成果（論文1～2本を目安）を学会誌（奈良大学大学院研究年報を含む）や学会等で公表する。年度末には、研究の中間報告をする。

### 3年次

引き続き指導教員の「特殊研究」を履修し、博士論文の提出に向け研究計画の見直しを行い、「研究計画書」を提出する。前期には、論文題目を提出し、博士論文作成に向けて所定の手続きを進めるとともに、調査・研究を進め、学会誌等での論文の公表（1～2本）を行う。後期には、博士学位請求論文を完成させ、所定の期間に提出し、最終審査となる公開発表（口述試問・公聴会）を行う。

## 博士論文審査の基準

博士の学位論文は、専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を有すること示すと認められるものであり、本研究科の博士論文として、相応の質・量・内容・水準を備え、以下の点を満たすものでなければならない。

- (1) 論文の独創性
- (2) 研究テーマの学問的意義・適切性
- (3) 先行研究の精査
- (4) 実証的分析・理論的分析
- (5) 論旨の統合性と一貫性
- (6) 形式的要件

## 博士論文提出の手続き

### 1. 論文題目の提出

「博士論文題目」の用紙（5月中旬配付）を大学院事務室より受け取り、指導教員の承認印を受けて、所定の期間中に大学院事務室に提出する。

※提出時間 8:30～16:30

### 2. 博士論文、論文要旨及び履歴書の提出

#### (1) 博士論文

大学院事務室で学位授与申請書を受け取り、指導教員の承認印を受け、正本1部、副本3部（複写可）、合計4部の博士論文を所定の期間中に大学院事務室へ提出する。

#### (2) 論文要旨

「論文要旨」の表紙を大学院事務室で受け取り、正本1部、副本3部（複写可）、合計4部の論文要旨を作成し、博士論文とあわせて大学院事務室に提出する。

#### (3) 履歴書

大学院事務室で履歴書の作成要領を受け取り、学歴・職歴・研究歴を詳細に記入して、博士論文とあわせて1部を大学院事務室に提出すること。

※提出時間 8:30～16:30

### 3. 用紙・書式・提出枚数・綴じ方

次ページの表を参照のうえ作成すること。

## 博士論文の公表

審査に合格した博士論文は、論文要旨を「奈良大学大学院研究年報」に掲載する。（本人の申し出があった場合は、論文要旨を書き改めることができる。ただし、体裁・枚数は同じものとする。）

博士論文は、大学のリポジトリにより公表するため、論文をデジタル媒体で提出する。ただし、論文を出版刊行する等を理由に「博士学位論文インターネット公表留保申請書」を提出し、留保が認められた場合には、論文の要約（8,000字程度）及びその内容をデータ媒体で提出する。

**※3年を超えて在学し、且つ所定の単位を修得した者で、博士の学位論文の審査及び最終試験のみを残す者については、指導教員の了解を得た上で、所定の期日以外に下記日程での学位授与の申請が出来るものとする。**

題目提出	: 4月6日～4月10日
学位授与申請（論文の提出）	: 5月18日～5月22日
論文審査（公聴会・口述試問）	: 8月27日もしくは8月28日
学位授与	: 9月30日

【博士論文・研究計画・論文要旨】＜用紙・書式・提出枚数・綴り方＞

※用紙は、コピー用紙可。

※論文提出時に添付する履歴書の作成については、別途指示する。

		【博士論文】		【研究計画】		【論文要旨】	
用紙	書式	提出枚数 表紙、目次、注、参考文献、図版等に付した解説等は含まない	綴じ方までの完成原稿の作り方	提出枚数	綴じ方までの完成原稿の作り方	提出枚数	綴じ方までの完成原稿の作り方
		《史学系》 B5判 (縦書き、横書きは自由)	①縦書きの場合 40字×15行 600字  ②横書きの場合 30字×15行 450字	400字詰原稿用紙換算 200枚以上	①論文の厚さに合った市販のフアイルを使用すること。  ②フアイルには、大学院事務室より受け取った所定の表紙及び背表紙を貼り、年度・論文題目(副題目を含む)・指導教員名・学籍番号・氏名を記載すること。  注：6月に提出した「論文題目」を変更した場合は、大学院事務室で「題目変更届」を受け取り、指導教員の承認印を受けて提出すること。(サブタイトルを追加した場合の「題目変更届」提出は不要。)	指導教員と相談の上。	大学院事務室より受け取った所定の表紙に、指導教員名、学籍番号、氏名のほか、論文題目「○○○(題目)」を明記。
《文化財系》 A4判 (縦書き、横書きは自由)	①縦書きの場合 50字×16行 800字  ②横書きの場合 40字×20行 800字				用紙の綴じ方は、縦書きは右綴じ、横書きは、左綴じ。		用紙の綴じ方は、縦書きは右綴じ、横書きは、左綴じ。

文化財科学専攻

文学研究科

# 【専修免許状の取得について】

## 1. 専修免許状の種類

本大学院で教員免許状を取得できる研究科・専攻及び免許状の種類・教科は、次の通りです。ただし、当該免許教科についての中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状の所要資格を取得している者でなければなりません。

研究科	専攻	教育職員免許状の種類	教科
文学研究科	国文学	中学校教諭専修免許状	国語
		高等学校教諭専修免許状	
	文化財史科学	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	地理歴史
	地理学	中学校教諭専修免許状	社会
		高等学校教諭専修免許状	地理歴史

## 2. 基礎資格・所要単位数

本大学院における専修免許状取得のための基礎資格及び教科及び教科の指導法に関する科目の所要単位数は、次の通りです。

教育職員免許状の種類	基礎資格	教科	教科及び教科の指導法に関する科目の最低単位数
中学校教諭専修免許状	修士の学位を有すること	国語	24
高等学校教諭専修免許状		社会	
		国語 地理歴史	

## 3. 教科及び教科の指導法に関する科目の単位修得方法

次の一覧表に掲げる「教科及び教科の指導法に関する科目」の中から、既取得中学校・高等学校教諭一種免許状に係る専門科目の単位を、合計24単位以上修得しなければなりません。

### (1) 「国語」の教科及び教科の指導法に関する科目

<国文学専攻>

授業科目名	単位	授業科目名	単位	履修上の注意事項
日本言語文化論	2	表象文化論	2	4単位以上※
上代文学演習Ⅰ	2	近代文学演習Ⅰ	2	
上代文学演習Ⅱ	2	近代文学演習Ⅱ	2	4単位以上※
中古文学演習Ⅰ	2	現代文学演習Ⅰ	2	
中古文学演習Ⅱ	2	現代文学演習Ⅱ	2	
中世文学演習Ⅰ	2	古典語国語学演習Ⅰ	2	
中世文学演習Ⅱ	2	古典語国語学演習Ⅱ	2	
近世文学演習	2	現代語国語学演習	2	
古典散文特殊講義(基礎)	2	近代文学論特殊講義(基礎)	2	8単位以上※
古典散文特殊講義(応用)	2	近代文学論特殊講義(応用)	2	
古典韻文特殊講義(基礎)	2	言語論特殊講義(基礎)	2	
古典韻文特殊講義(応用)	2	言語論特殊講義(応用)	2	

※は修了に必要な単位数

(2) 「社会」「地理歴史」の教科及び教科の指導法に関する科目

<文化財史料学専攻>

授 業 科 目 名	単位	履修上の注意事項			
文献史学(日本史)演習Ⅰ	2	4単位以上※	左記単位を含めて合計24単位以上		
文献史学(日本史)演習Ⅱ	2				
文献史学(外国史)演習Ⅰ	2				
文献史学(外国史)演習Ⅱ	2				
考古学演習Ⅰ	2				
考古学演習Ⅱ	2				
美術工芸史学演習Ⅰ	2				
美術工芸史学演習Ⅱ	2				
保存修復学演習Ⅰ	2				
保存修復学演習Ⅱ	2				
文献史学(日本史)特殊講義A	2			16単位以上※	
文献史学(日本史)特殊講義B	2				
文献史学(日本史)特殊講義C	2				
文献史学(外国史)特殊講義	2				
考古学特殊講義A	2				
考古学特殊講義B	2				
考古学特殊講義C	2				
美術工芸史学特殊講義	2				
保存修復学特殊講義	2				

※は修了に必要な単位数

<地理学専攻>

授 業 科 目 名	単位	履修上の注意事項			
自然地理学演習Ⅰ	2	4単位以上※	左記単位を含めて合計24単位以上		
自然地理学演習Ⅱ	2				
人文地理学演習Ⅰ	2				
人文地理学演習Ⅱ	2				
地域・地誌学演習Ⅰ	2				
地域・地誌学演習Ⅱ	2				
自然地理学(地形)特殊講義	2			2単位以上※	
自然地理学(気候)特殊講義	2				
自然地理学(環境)特殊講義	2				
人文地理学(農村)特殊講義	2	2単位以上※			
人文地理学(歴史)特殊講義	2				
人文地理学(文化)特殊講義	2				
人文地理学(都市)特殊講義	2				
地域・地誌学(日本)特殊講義	2	2単位以上※			
地域・地誌学(先進地域)特殊講義	2				
地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義	2				
地理情報学特殊講義	2				

※は修了に必要な単位数

# 【GIS専門学術士取得について】

## 1. 資格の性質

【GIS学術士】（見込み）、【GIS学術士】（学部卒）、【GIS専門学術士】（大学院修了）はGISに関する資格で、GIS学術士資格実績証明団体（奈良大学を含む認定された大学）において所定の資格認定科目を修得し、日本地理学会に申請すると認められます。ただし、GIS専門学術士は、GIS学術士の資格を有する者のみが申請できます。GIS学術士を取得し、大学院でGIS専門学術士の資格科目を修得した者が、日本地理学会に申請した場合に取得できる資格です。

詳しくは、日本地理学会資格専門委員会のWEBサイト <http://ajg-certi.jp/>を参照してください。

4月の地理学専攻オリエンテーションでも案内する予定です。

資格取得希望者は、遅くとも入学時の履修ガイダンスの際までに教員に申し出て、必要な科目について相談してください。

## 2. 申請手続き

資格取得希望者は、申請書に必要事項を記入し、単位修得・修士修了を証明する書類、修士論文と論文要旨を添えて、日本地理学会GIS学術士資格委員会へ申請をしてください。手数料（認定審査手数料）22,000円（税込）は郵便振替となります。 ※振込金受領書のコピーを申請書の裏面に貼付。

### 【払込先（郵便局）】

振替口座：00130-0-413143

加入者名：（社）日本地理学会GIS学術士資格委員会

\* 払込金受領書の「ご依頼人」の欄に、住所、氏名（大学名・学籍番号）を記入してください。

# 【専門社会調査士取得について】

## 1. 資格の性質

専門社会調査士とは、「多様な調査手法を用いた調査企画能力、実際の調査を運営管理する能力、高度な分析手法による報告書執筆などの実践能力を有する人材」（一般社団法人社会調査協会）に与えられる資格である。

専門社会調査士資格は、すでに社会調査士資格を取得した人を対象に、一般社団法人社会調査協会がこれを認定する。以下の科目の単位を修得し、社会調査結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆した上で、修士課程修了後に認定審査手数料33,000円を添えて申請する。

なお、社会調査士をまだ取得していない者が専門社会調査士資格を取得するには、奈良大学社会学部の科目等履修生として社会調査士の認定科目（奈良大学履修要項社会調査士の項参照）の中から必要な科目（A・B・C・Dは必修、E／Fは選択、Gは不要）を単位修得した上で、認定審査手数料44,000円を添えて申請しなければならない。他大学の社会調査士認定科目を聴講生等で単位修得した者も認められる。

## 2. 取得に必要な科目

標準カリキュラム	対応する本大学院の科目	科目区分
H. 調査企画・設計に関する演習（実習）科目	社会調査法特論	必修
I. 多変量解析に関する演習（実習）科目	多変量解析法特論	必修
J. 質的調査法に関する演習（実習）科目	質的調査法特論	必修

## 3. 申請手続き

資格取得希望者は、申請書・履歴書に必要事項を記入した上で、単位修得・修士修了を証明する書類、研究論文（2部）、研究論文概要説明書及び認定審査手数料を添えて、奈良大学大学院の連絡責任者に提出し、認定機構に申請する。なお、申請にあたっては、事前に指導教員ならびに連絡責任者（大学院事務室にて問い合わせること）と相談の上で準備をすすめることが望ましい。

# 【学 生 生 活】

## 1. 研究室の使用について

研究活動の一助として、研究室を設けています。使用に際しては、次の「注意事項」を遵守し、有効に活用してください。なお、貴重品は各自で管理してください。

### 注 意 事 項

1. 所属の研究室外の研究室に無断で入室しないこと。最終退出者は、必ず施錠すること。
2. 他の院生に迷惑がかかる行為は慎むこと。特に大声での雑談は禁止する。
3. 整理整頓を心がけ、清潔を保持すること。
4. 研究室内のロッカー・机等は、丁寧に使用すること。研究室とロッカーの鍵は、年度当初に大学院事務室より貸与する。（修了時に、返却すること。）
5. 添え付けのコンピュータは、独占することなく院生間で協議のうえ利用すること。
6. 備品は、許可なく移動及び設置してはならない。
7. その他、使用にあたっては大学院事務室の指示に従うこと。

## 2. 教員のオフィスアワーについて

専任の教員は、それぞれオフィスアワーを設定しています。各教員のオフィスアワーは、各年度の「教員プロフィール」にて確認してください。非常勤講師への質問や相談は、担当授業の前後の時間に行うようにしてください。

## 3. 複写機（大学院事務室）の使用について

講義時に配布する資料については、大学院事務室の複写機を利用することができます。なお、使用に際しては、次の「注意事項」を厳守してください。

### 注 意 事 項

1. 複写機の利用については、講義時配布資料（発表用レジュメ等）のみとします。  
（個人の研究や、学術論文に関するものについては、福利厚生棟1階ラウンジに設置の複写機を利用すること）
2. 院生全体での年間利用可能枚数が決まっています。院生全員が平等に利用できるよう協力をお願いします。
3. 複写機の利用時間は、以下のとおりです。

平 日	8：30～16：30
土曜日	8：30～12：15

## 4. 大学院図書・資料室の利用について

大学院図書・資料室は、総合研究棟の3階にあります。資料は、基本的に図書館でも配架しています。そのため、ここでは閲覧のみで室外への持ち出しはできません。

『COLLEGE LIFE』にも学生生活に関する規則等の詳細が記載されています。  
併せて参照してください。

- 学籍について（在学期間など）
- 図書館の利用について（図書館紹介ページ参照）
- 情報処理センターについて  
（奈良大学情報処理センタースタートアップガイド参照）

# 開講科目ガイド

---

## 開講科目ガイドについて

この「開講科目ガイド」は本年度開講科目の概要を掲載しています。詳細かつ、最新の内容については、Webシラバスを確認してください。

## 科目のナンバリングについて

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みのことです。本大学院の授業科目においても、授業内容・レベル等に応じて特定の記号や数字を付与し、各専攻の開講科目一覧表に示しています。履修の際の参考にしてください。なお、ナンバリングコードの構成は以下のとおりです。

### ◆ナンバリングコードの意味・名称



### ◆大分類

国文学専攻	JL	地理学専攻	GE
文化財史科学専攻	CH	社会学専攻	SO

### ◆中分類

	分類名称		文化財史科学専攻博士前期課程	分類名称		文化財史科学専攻博士後期課程	分類名称	
	分類名称	記号		分類名称	記号		分類名称	記号
国文学専攻	言語系	LT	日本史系	JH	日本史系	JH	考古学	AR
	古典系	CL	外国史系	WH	考古学	AR	美術史	AH
	近代文学系	ML	文献史学	HD	美術史	AH	史科学	HS
	文化表現系	CE	考古学	AR	史科学	HS	保存科学	PS
	学位論文	DT	美術史	AH	国際史料	IH	学位論文	DT
			史科学	HS				
地理学専攻			保存科学	PS	情報学	IS		
			情報学	IS	文化財史科学	CA		
			文化財史科学	CA	学位論文	DT		
			学位論文	DT				

### ◆レベル

500番台	大学院（修士・博士前期）専門科目（基礎的な内容の科目）
600番台	大学院（修士・博士前期）専門科目（発展的な内容の科目・研究指導科目）
700番台	大学院（博士後期）専門科目（研究指導科目）

### ◆授業形態

講義	L	実践形式（フィールドワーク・インターンシップ）	P
演習	S	研究指導	G
実習	T	その他	O

# 文学研究科

※各科目の担当者のうち、担当者名の前に★のついている担当者は、非常勤講師です。また、「聴講等可否」欄に▲印のついている科目については、担当者の許可が必要です。



# 国文学専攻修士課程

## 履修方法

1. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、次頁の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。  
なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に次頁の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。
2. ①「日本語文化論」「広域言語文化論」「表象文化論」の3科目中2科目4単位を履修すること。
3. ②演習は、4科目8単位を履修すること。  
研究指導は、指導教員が担当する演習において行うので、指導教員が担当する演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを必ず履修すること。
4. ③「特殊講義」は4科目8単位を履修すること。
5. ④「特論」（4科目8単位まで履修できるが、履修に際しては事前に指導教員と相談すること。）
6. 残りの6科目12単位は、①・②・③で選択した以外の科目及び④から履修すること。ただし、指導教員以外の演習は事前に担当教員の了解を得ること。文学研究科の他専攻の講義科目から履修することもできる（2科目4単位まで）。なお、①・③の科目については、担当者の変更があれば同一科目を重複履修した場合も、単位を認定する。
7. 履修に際しては、修士論文提出要領（P19）、『COLLEGE LIFE』の大学院学則、学位規程、文学研究科履修規則等で確認しておくこと。
8. 教員免許状の「専修免許状」の取得希望者は、P26「専修免許状の取得について」を確認すること。



日本語文化論：近世大坂の名所図会と古典文学 中尾 和昇 前期 金曜日 3時限 J205

近世後期、秋里籬島によって生み出された名所案内記のひとつに「名所図会」なるものがある。これは、各地の名所・旧跡を、現地取材に基づく細密かつ写実的な挿絵とともに紹介したガイドブックで、大変に魅力的な書物である。また、名所の解説には、近世以前の古典文学(徒然草・源氏物語など)も頻りに利用されている。この講義では、大坂(摂津・河内・和泉)の名所図会に描かれた各地の名所をとりあげ、古典文学との関連に迫りたい。また、名所図会の利用実態の一例も紹介する。



平常点30%(授業への積極性を評価する)、授業コメント30%(独自性を評価する)、レポート40%(精確性・客観性・論理性を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100109000&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100109000&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

広域言語文化論：世界の言語の類型論的特徴 渋谷 勝己 後期 月曜日 4時限 J205

WALS(The World Atlas of Language Structures) Online及び冊子版を利用して、世界の言語のもつさまざまな特徴を分析する。各自興味のある言語項目を選び、内容を要約して発表する。



平常点 40点(積極的な参加・発言)  
発表 60点(ハンドアウトの作成を含む)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100109500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100109500&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

表象文化論：南へのまなざし—日本の南洋幻想 木田 隆文 後期 月曜日 3時限 A207

本講義は、昭和期を中心とする日本の美術・文学などから南洋をめぐる表現を取り上げ、日本人が抱いた南洋イメージを確認するものである。



進め方としては、まず日本と南洋の歴史的な関係を概説し、その後、美術や文学作品の実例を確認しながら、日本人がいかに南洋を表現／認識したのかを検討してゆく。また各回ともテーマとなる美術作品や小説に対して受講生から意見を求め、その後意見に基づく議論や補足説明を行うかたちで進めてゆく。

平常(20%) 小課題(20%) 期末レポート(60%)の総合評価。  
レポート・小課題は独創的な視点があるもの、精密な資料調査を踏まえたものを高く評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100110000&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100110000&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布

上代文学演習I：『万葉集』の基礎的知識を前提のもと、「東歌」を読む。歌こと 鈴木 喬 前期 月曜日 4時限 A205

ばの表現性と東歌の特異性を読み解く。  
万葉集研究の基礎知識や方法(索引の使い方、研究方法)を学び、「東歌」の表現の特性とは何かを考えてゆく。そのために、ただ歌を鑑賞するのではなく、一首一首、一語一語、一文字一文字、丁寧に注釈を行い、他の歌の比較や、また歌表現としての位置づけ(抽象化)を行う。また作品は作品だけで成立しているものではない。歴史的、社会的背景をもっている。



平常点20%(積極的に議論に参加し、理解を深めているか)。  
発表40%(レジュメの内容、課題に対する取り組み)。  
レポート40%(問題発見と問題解決への取り組み)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100130100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100130100&opi=se0020&syw=1)

教科書 万葉集 訳文篇 / 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著・塙書房、1972年。

上代文学演習II：『万葉集』の基礎的知識を前提のもと、巻15を読解し、その 鈴木 喬 後期 月曜日 4時限 A205

作品世界を読み解く。  
万葉集研究の基礎知識や方法(索引の使い方、どのような研究方法があるのか)を学び、歌表現の特性とは何かを考えてゆく。ただ歌を鑑賞するのではなく、一首一首、一語一語、一文字一文字、丁寧に注釈を行い、他の歌の比較や、また歌表現としての位置づけ(抽象化)を行う。また作品は作品だけで成立しているものではない。歴史的、社会的背景をもっている。社会背景や、具体的な事象を踏まえながら、前期で学習した内容をもとに読み解く。



平常点20%(積極的に議論に参加し、理解を深めているか)。  
発表40%(レジュメの内容、課題に対する取り組み)。  
レポート40%(問題発見と問題解決への取り組み)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100130200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100130200&opi=se0020&syw=1)

教科書 万葉集 訳文篇 / 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著・塙書房、1972年。

上代文学演習III：上代文学について自分の関心にそって問題点を見つけ考 鈴木 喬 前期 月曜日 4時限 A205

察し、修士論文を作成する。  
各自の選んだテーマや研究の方法論に従いながら個人で発表を行い、修士論文を作成していく。前期においては修士論文の柱となるテーマや研究課題を見つけることを目的とする。後期からはより絞り込んだテーマ設定で発表を行い、修士論文の執筆を進めていく。個別指導において、各自のテーマに必要な指導を行う。また他者の発表を聞くことにより、他者の研究(「問い」と「答え」の導出)を観察し、自身の研究テーマに還元する。



平常点30%(授業中の質疑応答による積極性)。  
発表70%(問題発見と問題解決への取り組み、発表に対する取り組み、等)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100130300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100130300&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

上代文学演習Ⅳ：身に着けた研究の基礎知識、考察力を駆使し、学術論文、鈴木 喬 後期 月曜日 4時限 A205  
修士論文を作成する。

各自の選んだテーマや研究の方法論に従いながら個人で発表を行い、修士論文を作成していく。前期においては修士論文の柱となるテーマや研究課題を見つけることを目的とする。後期からはより絞り込んだテーマ設定で発表を行い、修士論文の執筆を進めていく。個別指導において、各自のテーマに必要な指導を行う。また他者の発表を聞くことにより、他者の研究「問い」と「答え」の導出を観察し、自身の研究テーマに還元する。



平常点30%(授業中の質疑応答による積極性)、発表70%(問題発見と問題解決への取り組み、発表に対する取り組み、等)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100130400&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100130400&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

中古文学演習Ⅰ：修士論文執筆のための準備① 古典文学研究方法を理解す 穴井 潤 前期 水曜日 2時限 J314

藤原清輔『奥義抄』を題材に、古典文学の研究方法を学ぶ。毎回、授業内で調査ないし読解を行う。読解の回では『奥義抄』釈部における三代集の注を扱う。自分が修士論文で扱いたい作品について、どのように応用できるかを考えながら授業に臨むこと。



各回の小課題を含めた授業態度(40%)、レポート課題の内容(60%)によって判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100131100&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100131100&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

中古文学演習Ⅱ：修士論文執筆のための準備② 全体の構想と先行研究の 穴井 潤 後期 水曜日 2時限 J314  
整理

この授業では修士論文の目次案を完成させることを第一目標としている。そのため、授業では大きく分けて①対象作品の分析、②先行研究の整理、③全体の構想の三点について、参加者に発表を行ってもらう。その際、適宜修正点を指摘するので、再調査や分析を深めることを授業時間外に行う必要がある。対象作品の先行研究を網羅し、必要な論の要点を整理するところまで到達してほしい。



三回の発表を中心とした授業参加度(75%)、第14回の目次案・先行研究の整理の内容(25%)によって判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100131200&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100131200&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

中古文学演習Ⅲ：修士論文の執筆① 第一章の完成と目次案の再検討 穴井 潤 前期 水曜日 2時限 J314

この授業では修士論文執筆を開始し、第一章を完成させることを目標としている。中古文学演習Ⅰ・Ⅱで学んだことを踏まえ、自分の研究テーマを確定した上で対象作品を分析し、論を立てる作業に移る。具体的なテーマは受講者によって異なるが、データや資料の収集が中心となることを想定している。その結果として、全体の構想について検討の必要があれば、前期のうちに修正する。骨組みの部分完成させて、後期は「執筆→修正」のサイクルに入れるようにしたい。



第一章を中心とした発表内容(75%)、作業の状況報告を中心とした授業参加度(25%)によって判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100131300&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100131300&opi=se0020&svw=1)

教科書 特になし

中古文学演習Ⅳ：修士論文の執筆② 修士論文の完成 穴井 潤 後期 水曜日 2時限 J314

この授業では修士論文を完成させることを目標としている。進捗は受講者によって異なるが、夏期休業中までに基礎的なデータや資料の収集は終了していることを想定している。「執筆→修正」のサイクルに入り、適宜再調査を行うことで、計画的に執筆してほしい。内容だけでなく、注・参考文献・体裁といった点にも注意すること。



第一章を中心とした発表内容(75%)、作業の状況報告を中心とした授業参加度(25%)によって判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100131400&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100131400&opi=se0020&svw=1)

教科書 特になし

近世文学演習Ⅰ：近世文学に関する修士論文作成のための演習 準備編Ⅰ 中尾 和昇 前期 金曜日 2時限 A202

近世文学に関する修士論文作成の準備として、まずは研究分野および作者・作品を確定させる。そのうえで、作品・資料を徹底的に精読し、文体・構成・典拠等の観点から問題点を見出す。



平常点20%(授業への積極性を評価する)、口頭発表40%(資料の完成度・作品の読解力・指摘した点の独自性を評価する)、レポート40%(精確性・客観性・論理性・独自性)を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100133100&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100133100&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

近世文学演習Ⅱ：近世文学に関する修士論文作成のための演習 準備編Ⅱ 中尾 和昇 後期 金曜日 2時限 A202

自身が研究対象とする作品を取り上げながら、研究テーマの確定および研究能力の修養を目指す。具体的には、前期で見出した作品の問題点と先行研究と突き合わせつつ、独自の視点を獲得する。



平常点20%(授業への積極性を評価する)、口頭発表40%(資料の完成度・先行研究の客観的な分析を評価する)、レポート40%(精確性・客観性・論理性・独自性を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100133200&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100133200&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

近世文学演習Ⅲ：近世文学に関する修士論文作成のための演習 作成編Ⅰ 中尾 和昇 前期 金曜日 2時限 A202

近世文学に関する修士論文の全体構成(目次)を確定させるとともに、序論から第2章までを完成させる。具体的には、研究テーマをもとに問題提起をおこない、論証すべき事柄を立てる(章立て)。そのうえで、各章において具体的な論証をすすめていく。

平常点70%(論文執筆に対する取り組み方を評価する)、構想発表30%(テーマ設定・論旨・論証方法の妥当性を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100133300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100133300&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



近世文学演習Ⅳ：近世文学に関する修士論文作成のための演習 作成編Ⅱ 中尾 和昇 後期 金曜日 2時限 A202

近世文学に関する修士論文の第3章・結論を執筆し、完成させる。完成後は口述試問に向けた対策として、質疑応答の技術を習得する。

平常点80%(論文執筆に対する取り組み方を評価する)、修士論文発表20%(テーマ設定・論旨・論証方法・結論の妥当性を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100133400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100133400&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



近代文学演習Ⅰ：日本近代／現代文学を中心とする修士論文作成のための演習 金岡 直子 前期 火曜日 5時限 A204

修士論文執筆のための演習です。各自テーマに沿って、読解・調査・考察・分析・執筆を行います。個人指導、および報告会を適宜実施します。

平常点(授業中の質問、参加態度)30%、課題点(レポート)70%

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100134100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100134100&opi=se0020&syw=1)

教科書



近代文学演習Ⅱ：日本近代／現代文学を中心とする卒業論文作成のための演習 金岡 直子 後期 火曜日 5時限 A204

修士論文執筆のための演習です。各自テーマに沿って、読解・調査・考察・分析・執筆を行います。個人指導、および報告会を適宜実施します。

平常点(授業中の質問、参加態度)30%、論文(レポート)70%

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100134200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100134200&opi=se0020&syw=1)

教科書



近代文学演習Ⅲ：日本近代／現代文学を中心とする修士論文作成のための演習 金岡 直子 前期 火曜日 5時限 A204

修士論文執筆のための演習です。各自テーマに沿って、読解・調査・考察・分析・執筆を行います。個人指導、および報告会を適宜実施します。

平常点(授業中の質問、参加態度)30%、課題点(レポート)70%

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100134300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100134300&opi=se0020&syw=1)

教科書



近代文学演習Ⅳ：日本近代／現代文学を中心とする卒業論文作成のための演習 金岡 直子 後期 火曜日 5時限 A204

修士論文執筆のための演習です。各自テーマに沿って、読解・調査・考察・分析・執筆を行います。個人指導、および報告会を適宜実施します。

平常点(授業中の質問、参加態度)30%、論文(レポート)70%

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100134400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100134400&opi=se0020&syw=1)

教科書



現代文学演習Ⅰ：研究課題の模索と基礎調査の完成1 — 修士論文を見据え 木田 隆文 前期 火曜日 5時限 A209

本講義では、受講生個人が修士課程で研究するテーマの確定と、それを深化させるための多様な研究的視点の獲得を目指す。そのため、特定の作家・テキストを取り上げることはせず、個々の受講生の関心に即したものを取り上げる。進め方は、まず受講生個々が構想している研究テーマと現在までの到達度を報告し、その研究的可能性をディスカッションで深める。その後、文献リストの作成や基礎的な研究情報の整備を行い、修士論文作成の基礎固めを行うこととしたい。

講義内課題、発表報告、平常態度を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100135100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100135100&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜指示する



現代文学演習Ⅱ：研究課題の模索と基礎調査の完成2 — 修士論文を見据えて 木田 隆文 後期 火曜日 5時限 A209

本講義は、現代文学演習Ⅰで確定した受講生個々の研究課題をさらに深め、同時に多様な研究文献を読み進めることで、広範な研究的視点の獲得を目指す。そのため、特定の作家・テキストを取り上げることはせず、個々の受講生の関心に即したものを取り上げる。講義ではまず受講生個々の研究課題に応じた論文や関連文献を読み進め、研究上の問題点の克服や新たな視点の獲得を目指す。また論文の構成(目次)を考えることで、修士論文の具体的なイメージの把握と、次年度の研究の基礎固めを行いたい。



講義内課題、発表報告、平常態度を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100135200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100135200&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜指示する

現代文学演習Ⅲ：近現代文学およびその隣接領域にかかわる修士論文の作成 木田 隆文 前期 火曜日 5時限 A209

講義時の報告および個別指導を交え、修士論文のテーマを練り上げてゆく。

修士論文の内容および、完成までの研究的態度を総合的に判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100135300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100135300&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



現代文学演習Ⅳ：近現代文学およびその隣接領域にかかわる修士論文の作成 木田 隆文 後期 火曜日 5時限 A209

講義時の報告および個別指導を交え、修士論文のテーマを練り上げ、完成させる。

修士論文の内容および、完成までの研究的態度を総合的に判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100135400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100135400&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



古典語国語学演習Ⅰ：修士論文のテーマ構想 山田 昇平 前期 水曜日 2時限 A201

修士論文作成を見据え、具体的なテーマや方向性を考える。また、この作業を通して、研究テーマを考える方法を学ぶ。

- ・各回の発表60%(内容の理解度、資料のわかりやすさ)
- ・各回の議論40%(的確で生産的な議論が出来ているか)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100136100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100136100&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



古典語国語学演習Ⅱ：修士論文執筆の基礎力の構築 山田 昇平 後期 水曜日 2時限 A201

修士論文作成を見据え、テーマに関する知識を深める。また、この作業とともに、実際の調査や考察の方法について深く理解する。

- ・各回の発表60%(内容の理解度、資料のわかりやすさ)
- ・各回の議論40%(的確で生産的な議論が出来ているか)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100136200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100136200&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



古典語国語学演習Ⅲ：修士論文の執筆 山田 昇平 前期 水曜日 2時限 A201

自ら設定した研究テーマに基づき、具体的な研究計画を立て、実践する。

- ・各回の発表60%(内容の理解度、資料のわかりやすさ)
- ・各回の議論40%(的確で生産的な議論が出来ているか)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100136300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100136300&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



古典語国語学演習Ⅳ：修士論文の執筆 山田 昇平 後期 水曜日 2時限 A201

自ら執筆したテーマに基づいて、修士論文を執筆する。

- ・各回の発表60%(内容の理解度、資料のわかりやすさ)
- ・各回の議論40%(的確で生産的な議論が出来ているか)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100136400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100136400&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



現代語国語学演習Ⅰ：国語学分野の修士論文作成演習 渋谷 勝己 前期 火曜日 3時限 M106

現代日本語をめぐる諸問題のなかから2年間で取り組む研究テーマを探すことから着手し、修士論文を書き上げるための基礎的な知識、論文執筆のためのスキルの習得等を目指す。

- ・平常点40%(積極的・建設的な発言・質問等を重視する)
- ・達成点60%(先行研究の読み込み、問題設定、調査、分析への積極的な取り組み、ハンドアウトの充実度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100117100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100117100&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



現代語国語学演習Ⅱ：国語学分野の修士論文作成演習 渋谷 勝己 後期 火曜日 3時限 M106

修士課程で取り組む研究テーマを確定させ、修士論文を書き上げるために必要な知識、論文執筆のためのスキルを確実なものにする。

- ・平常点40%(積極的・建設的な発言・質問等を重視する)
- ・達成点60%(先行研究の読み込み、問題設定、調査、分析への積極的な取り組み、ハンドアウトの充実度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100117200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100117200&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



現代語国語学演習Ⅲ：国語学分野の修士論文作成演習 渋谷 勝己 前期 火曜日 3時限 M106

受講者間で議論を行いながら、修士論文を完成させる。

- ・平常点40%(積極的・建設的な発言・質問等を重視する)
- ・達成点60%(過去の研究文献の丁寧な調査と概要把握の積極的な取り組み、ハンドアウトの充実度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100117300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100117300&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



現代語国語学演習Ⅳ：国語学分野の修士論文作成演習 渋谷 勝己 後期 火曜日 3時限 M106

受講者間で議論を行いながら、修士論文を完成させる。

- ・平常点40%(積極的・建設的な発言・質問等を重視する)
- ・達成点60%(過去の研究文献の丁寧な調査と概要把握の積極的な取り組み、ハンドアウトの充実度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100117400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100117400&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



古典散文特殊講義(基礎)：曲亭馬琴の黄表紙『彦山権現誓助剣』を原本でよ 中尾 和昇 前期 水曜日 4時限 J406

曲亭馬琴の黄表紙『彦山権現誓助剣』(寛政九年[1797]刊)は、同名の浄瑠璃(梅野下風・近松保蔵作、天明六年[1786]初演)に基づく作品である。本作は概ね原作に依拠しているが、馬琴は浄瑠璃を黄表紙化するにあたり、種々の改変を施している。この授業では、くずし字で書かれた原本を解読し、作品内容を理解する。そのうえで、典拠の改変からうかがえる馬琴の創作手法に迫りたい。

平常点30%(授業への積極性を評価する)、口頭発表70%(資料の完成度・作品や資料の読解力・指摘した問題点の独自性を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100114700&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100114700&opi=se0020&syw=1)

教科書 くずし字用例辞典 普及版 / 児玉幸多編 . 東京堂出版 , 1993年 . 9784490103335



古典散文特殊講義(応用)：十返舎一九の黄表紙『木下陰狭間合戦』を原本でよ 中尾 和昇 後期 水曜日 4時限 J406

十返舎一九の黄表紙『木下陰狭間合戦』(寛政十二年[1793]刊)は、同名の浄瑠璃(近松東南・若竹笛躬・近松余七、寛政元年[1789]初演)に基づく作品である。本作は概ね原作に依拠しているが、一九は浄瑠璃を黄表紙化するにあたり、種々の改変を施している。この授業では、くずし字で書かれた原本を解読し、作品内容を理解する。そのうえで、典拠の改変からうかがえる一九の創作手法に迫りたい。

平常点30%(授業への積極性を評価する)、口頭発表70%(資料の完成度・作品や資料の読解力・指摘した問題点の独自性を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100114800&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100114800&opi=se0020&syw=1)

教科書 くずし字用例辞典 普及版 / 児玉幸多編 . 東京堂出版 , 1993 . 9784490103335



古典韻文特殊講義(基礎)：『万葉集』における「挽歌」をよむ 鈴木 喬 前期 月曜日 3時限 J314

『万葉集』の基礎知識(そもそも『万葉集』とは何か)や研究における方法論(索引の使い方、どのような研究方法があるのか)の講義を行い、そののち「挽歌」に関する歌を読み進める。

平常点30%(積極的に議論に参加し、理解を深めているか)。  
レポート70%(問題発見と問題解決への取り組み)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100114900&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100114900&opi=se0020&syw=1)

教科書 万葉集 訳文篇 / 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著 . 塙書房 , 1972年 .



古典韻文特殊講義(応用)：歌人を通じて『万葉集』をよむ 鈴木 喬 後期 月曜日 3時限 J314

前期で習得した『万葉集』の基礎知識(そもそも『万葉集』とは何か)や研究における方法論(索引の使い方、どのような研究方法があるのか)をもとに、歌人ごとに『万葉集』を精読する。

平常点30%(積極的に議論に参加し、理解を深めているか)。  
レポート70%(問題発見と問題解決への取り組み)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100115000&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100115000&opi=se0020&syw=1)

教科書 万葉集 訳文篇 / 佐竹昭広・木下正俊・小島憲之共著・埴書房、1972年。



近代文学論特殊講義(基礎)：外地文学研究の実践1 木田 隆文 前期 金曜日 4時限 J206

外地各地域の文学に関して、まずは研究状況の確認を行い、問題の所在を明らかにする。そのうえで作品の分析をすすめる。講義に加え、参加者によるディスカッションも行う。また必要に応じて、図書館等での調査や資料類の取り扱いに関する講習なども行う。

授業内の作業・討議・レポートの総合評価。作業およびレポートは調査の精密度と視点の独自性を重視する。討議は積極的な態度を高く評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100120300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100120300&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布



近代文学論特殊講義(応用)：外地文学研究の実践2 木田 隆文 後期 金曜日 4時限 J206

外地各地域の文学に関して、まずは研究状況の確認を行い、問題の所在を明らかにする。そのうえで作品の分析をすすめる。講義に加え、参加者によるディスカッションも行う。また必要に応じて、図書館等での調査や資料類の取り扱いに関する講習なども行う。

授業内の作業・討議・レポートの総合評価。作業およびレポートは調査の精密度と視点の独自性を重視する。討議は積極的な態度を高く評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100120400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100120400&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布



言語論特殊講義(基礎)：言語研究の諸分野(1)：基本的な考え方 渋谷 勝己 前期 水曜日 3時限 J205

言語研究の目的は多様であり、それぞれの目的に応じて研究方法も異なって、それぞれが研究分野を構成している。本講義では代表的な研究分野を取り上げつつ、その目的や方法を概説する。

- ・平常点55%(積極性を重視する)
- ・達成点45%(理解確認のための小テスト。毎回実施)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100121300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100121300&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



言語論特殊講義(応用)：言語研究の諸分野(2)：研究実践 渋谷 勝己 後期 水曜日 3時限 J205

言語研究の目的は多様であり、それぞれの目的に応じて研究方法も異なって、それぞれが研究分野を構成している。本講義では主として受講生が選ぶ研究論文を講読し、その目的や方法を確認しつつ、それぞれの研究分野の特徴を理解していく。

- ・平常点40%(積極的・建設的な発言・質問等を重視する)
- ・達成点60%(自身の研究(問題設定、調査、分析)との積極的な対話、レポートの達成度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100121400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100121400&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



上代文学特論：古代日本神話の特性や神話の伝承というものが如何になされてきたのか、『古事記』を通じて考えてゆく。 鈴木 喬 前期 金曜日 3時限 C301

「神」や「神話」とはなにか、「伝承」とはなにか。そのような概念規定から、7世紀から8世紀の<神話>の歴史を考え、また現代の我々にとって「神話」とは「古事記」とは何かを考えてゆく。

平常点20%(コメントシートや作業、等の取り組み)、最終授業時に実施する学習到達度確認80%(筆記等による学力確認)による。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180100&opi=se0020&syw=1)

教科書 神話伝承論ノート / 神話伝承論学習の会・書肆アルス、2013。



中古文学特論：平安和歌を読む 溝端 悠朗 前期 金曜日 4時限 C101

前近代、文学の中心は和歌であったが、その意識が生まれ定着したのは主に平安時代においてであった。本講義では、和歌文学について基本的な知識と研究方法を学ぶとともに、代表的な歌人とその和歌を取り上げて、平安和歌史を通覧しつつ読解する。これらを通じて、文学作品の表現を精読する研究方法を身につける。授業では毎回コメントシートの提出を求める。

学習到達度確認テスト80%(最終授業時に行い、授業内容を理解できているかを評価する) + 平常点20%(コメントシートの内容により、授業に対して積極的に取り組んでいるかを評価する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180200&opi=se0020&syw=1)

教科書



中世文学特論：新古今時代への道のり ―中世和歌の様式と歌人たち― 穴井 潤 後期 月曜日 3時限 C201

新古今歌人を中心に、中世和歌について講義する。和歌には、①コミュニケーションツール、②文芸的な作品、という二つの側面があり、一二世紀(1100年代)ごろからは文芸性の高い作品が多く詠まれるようになる。そして、それを読解するためにはいくつかの約束ごとを理解しなければならない。

授業の前半では、そうした約束ごととの説明を行う。後半では、知っておきたい有名な歌人について概説し、その作品を見ていく。王朝文化が衰退していく中で生きた人々がどのような思いをもって和歌を詠んだのか、理解してほしい。

コメントペーパーの内容を含めた授業態度(20%)・レポートの内容(80%)によって判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180300&opi=se0020&syw=1)

教科書 資料を配付する



近世文学特論：近世後期小説と演劇 中尾 和昇 前期 水曜日 1時限 C201

浄瑠璃・歌舞伎といった演劇作品が、古典文学と双方向の関係にあることはよく知られている。とりわけ近世後期小説(草双紙・読本)においては、演劇の筋や趣向が用いられることが多い。また、挿絵に役者似顔が用いられるほか、舞台を紙上で再現するような作品もあらわれる。この授業では、近世後期小説と演劇がどのような関係にあったのかを、曲亭馬琴・山東京伝・十返舎一九の作品を中心に読み解いてみたい。

平常点30%(授業への積極性を評価する)、授業コメント30%(独自性を評価する)、学習到達度確認40%(精確性・客観性・論理性を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180400&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



書物特論：書物を「モノ」としての側面からとらえ、書物の形態、様式、その生産、流通、消費(購買、利用)から、書物とは何かを考える。 槻本 正行 後期 木曜日 4時限 C201

書物を「書き物」と解するならば、書かれた内容とその内容を定着させる支持体(紙などの記録メディア)としての「モノ」という面がある。この「モノ」としての書物は、内容を規定したり、内容・ジャンルを表したり、内容とは別に重視されるといった振る舞いをする。また、一方で「モノ」としての規範性を負うものでもある。そのようなことを書誌学の基礎的知識の習得と併せて考える。

授業時の発言等の授業参画度、コメントシート(20%)、ミニレポート(20%)、課題レポート(60%)によって総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180500&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



メディア文化特論：歴史資料としての漫画―生活文化史の観点から 木田 隆文 前期 月曜日 3時限 C104

本講義は、歴史資料としての漫画の可能性を考察するものである。

具体的には長谷川町子「サザエさん」を事例に、毎時作品内に現れる歴史的事象(特に生活史)を1つとりあげ、その表現方法について歴史的背景とともに考察する。こうした事例研究を積み重ねることで、漫画を歴史資料としてとらえなおす視点や手法、問題点を確認してゆきたい。

平常点(10%)、小課題(30%)、期末試験(60%)の総合評価。

平常は毎時の授業参加度を、小課題・期末試験は講義内容の理解度と、独自の解釈の有無を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180600&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリントで配布



比較交流特論：平安文学における漢詩文の受容 北井 佑実子 後期 金曜日 4時限 C201

平安朝の古典文学作品を読み、中国文学から受けた影響と、そこから作り上げられた独自の日本文学・日本文化の世界について考える。

講義内容は以下の通りであるが、受講生の理解度や興味によって、どこに重点を置くかを決めるので、以下の予定は目安と考えてほしい。

第15回には、到達度確認テストを行う。

平常点10%(授業への参加度)

小レポート40%(授業中の課題)

第15回到達度確認テスト50%

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180700&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180700&opi=se0020&syw=1)

教科書



和歌歌謡特論：『古今和歌集』を読む 北井 佑実子 前期 金曜日 4時限 C201

『古今和歌集』の和歌を部立ごとに読み、和歌の特徴や歌集全体の構成について考える。

講義内容は以下の通りであるが、受講生の理解度や興味によって、どこに重点を置くかを決めるので、以下の予定は目安と考えてほしい。

第15回には、到達度確認テストを行う。

平常点10%(授業への参加度)

小レポート40%(授業中の課題)

第15回到達度確認テスト50%

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180800&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180800&opi=se0020&syw=1)

教科書 古今和歌集 / 佐伯梅友校注・岩波文庫、1981.4-00-300121-4



近代小説特論：キャリア×仕事×文学を考える 金岡 直子 後期 月曜日 4時限 C203

「文学は役に立たない」という社会通念を考えるために、文学におけるキャリアを探る作品を読んでいます。私たちの生きる時代は変化に富んでいます。そんなとき、生き方の指南書として文学は役に立つのではないかと考えることも一助となるはずです。その答えがどんなものか、いっしょに見つけていきましょう。

平常点(授業内の参加態度、発言を重視する)70%、定期レポート30%



[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100180900&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100180900&opi=se0020&syw=1)

教科書

近代詩歌特論：日本近代詩歌の読解と調査 牧 千夏 前期 木曜日 2時限 C301

日本近代詩歌の代表的な作品を読解する。同時代の周辺資料を調査し、史的な位置づけを試みる。

授業内で提示する小課題 60% 最終レポート40%

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100181000&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100181000&opi=se0020&syw=1)

教科書



現代文学特論：エッセイ／随筆とは何か 金岡 直子 前期 火曜日 2時限 C201

日本におけるエッセイ／随筆を追いかけ、現代文学の幅広さを学ぶ。エッセイ執筆・講評も行う。

文学の愉しみは奇想天外なフィクションの物語だけにあるのでしょうか。この疑問を解消すべく、エッセイ／随筆から、作家の観察眼と筆力によって日常が全く違うものに変化することを学んでいきます。明治時代から戦後、現代のエッセイを幅広く扱い、作家たちの工夫や苦心を感じつつ、自分自身でもエッセイを書いてもらいます。アカデミックライティングとは違った文章を書いてみて、書く楽しさにも触れていきます。

平常点(授業内の参加態度、発言を重視する)70%、定期レポート30%



[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100181100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100181100&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリントを配付

古典日本語特論：キリシタン語学の研究 山田 昇平 前期 金曜日 1時限 C201

中世後期に来日したキリスト教宣教師たちが残した文献群をキリシタン文献といい、この文献群を資料に用いた語学研究をキリシタン語学と呼ぶ。本講義では、キリシタン語学について多角的に論じ、日本語史研究のみならず広義の文献学に対する知見を深めることを目的とする。

- ・コメントカードの質20%(毎回、授業内容の理解を確認する。出席点ではない)
- ・最終レポート80%(キリシタン語学に対する理解、適切な考察力・論理力・文章力を問う)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100181200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100181200&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



現代日本語特論：社会言語学特論 渋谷 勝己 後期 火曜日 4時限 C101

①話し手の属性による日本語の多様性(前半)と、②同じ話し手が使い分ける多様性(後半)に分けて、日本語のもつ多様性を整理する。

あわせて、多様性を分析する社会言語学的研究手法を提示する。

- ・平常点55%(積極性を重視する)
- ・達成点45%(理解確認のための小テスト。毎回実施)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100181300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100181300&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



国文学特論：『和泉式部日記』を読む～「一途」か「奔放」か 無自覚なFemme 櫻井 清華 前期 木曜日 3時限 C201  
fatale～

講義形式で指定テキストの『和泉式部日記』を読み解く。当時の女性のライフサイクルやジェンダーバイアスについても同時に解説する。

到達度確認テストと出席状況、授業態度などで総合的に判断します

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100181400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100181400&opi=se0020&syw=1)

教科書 和泉式部日記 / 近藤みゆき 訳註・角川ソフィア文庫, 2003年(平成15年). 4-04-369901-8



国語学特論：方言学特論 渋谷 勝己 前期 火曜日 4時限 C101

明治以前から現代に至るまでに発展してきた方言学の各分野を、そのような研究がなぜ必要だったのか、具体的にどのような方法で研究しようとしたのかなどに注意しつつ、海外の研究潮流も視野に入れて概説する。

- ・平常点55%(積極性を重視する)
- ・達成点45%(理解確認のための小テスト。毎回実施)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100181500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100181500&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



# 文化財史料学専攻博士前期課程

## 履修方法

1. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、次頁の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に次頁の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。
2. ①演習は、4科目8単位を履修すること。  
\*研究指導は、指導教員が担当する演習の中で行うので、指導教員が担当する演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを必ず履修すること。
3. ②特殊講義は、8科目16単位を選択履修すること。
4. ③「特論」（4科目8単位まで履修できるが、履修に際しては事前に指導教員と相談すること。）
4. 残りの4科目8単位は、指導教員以外の演習（事前に担当教員の了解を得ること。単位として認定する。）、特殊講義及び特論（特殊講義、特論とも同一科目の複数年にわたる重複履修はできない。担当者の変更があれば認定する。）から選択履修できる。うち、2科目4単位については、文学研究科の他専攻の講義科目から履修することもできる。
5. 履修に際しては、修士論文提出要領（P19）、『COLLEGE LIFE』の大学院学則、学位規程、文学研究科履修規則等で確認しておくこと。
6. 専修免許状「社会」「地理歴史」を希望する学生は、P26「専修免許状の取得について」を確認すること。

2026年度 文化財史料学専攻博士前期課程 開講科目一覧表

曜 日 時 限	科 目 名	担 当 者	開 講 期 間	配 当 年 次	単 位 数	聴 講 等 可 否	N コード	履 修 上 の 注 意 事 項
月・4	文献史学(日本史)演習Ⅰ(一)	渡辺 晃宏	前期	1・2	2	▲	CHJH-601S	①4科目 8単位必修
月・4	文献史学(日本史)演習Ⅱ(一)	渡辺 晃宏	後期	1・2	2	▲	CHJH-602S	
月・4	文献史学(日本史)演習Ⅲ(一)	渡辺 晃宏	前期	2	2	▲	CHJH-603S	
月・4	文献史学(日本史)演習Ⅳ(一)	渡辺 晃宏	後期	2	2	▲	CHJH-604S	
水・4	文献史学(日本史)演習Ⅰ(二)	吉川 敏子	前期	1・2	2	▲	CHJH-601S	
水・4	文献史学(日本史)演習Ⅱ(二)	吉川 敏子	後期	1・2	2	▲	CHJH-602S	
水・4	文献史学(日本史)演習Ⅲ(二)	吉川 敏子	前期	2	2	▲	CHJH-603S	
水・4	文献史学(日本史)演習Ⅳ(二)	吉川 敏子	後期	2	2	▲	CHJH-604S	
火・4	文献史学(日本史)演習Ⅰ(三)	海津 一朗	前期	1・2	2	▲	CHJH-601S	
火・4	文献史学(日本史)演習Ⅱ(三)	海津 一朗	後期	1・2	2	▲	CHJH-602S	
火・4	文献史学(日本史)演習Ⅲ(三)	海津 一朗	前期	2	2	▲	CHJH-603S	
火・4	文献史学(日本史)演習Ⅳ(三)	海津 一朗	後期	2	2	▲	CHJH-604S	
月・3	文献史学(日本史)演習Ⅰ(四)	河内 将芳	前期	1・2	2	▲	CHJH-601S	
月・3	文献史学(日本史)演習Ⅱ(四)	河内 将芳	後期	1・2	2	▲	CHJH-602S	
月・3	文献史学(日本史)演習Ⅲ(四)	河内 将芳	前期	2	2	▲	CHJH-603S	
月・3	文献史学(日本史)演習Ⅳ(四)	河内 将芳	後期	2	2	▲	CHJH-604S	
月・3	文献史学(日本史)演習Ⅰ(五)	木下 光生	前期	1・2	2	▲	CHJH-601S	
月・3	文献史学(日本史)演習Ⅱ(五)	木下 光生	後期	1・2	2	▲	CHJH-602S	
月・3	文献史学(日本史)演習Ⅲ(五)	木下 光生	前期	2	2	▲	CHJH-603S	
月・3	文献史学(日本史)演習Ⅳ(五)	木下 光生	後期	2	2	▲	CHJH-604S	
水・4	文献史学(日本史)演習Ⅰ(六)	村上 紀夫	前期	1・2	2	▲	CHJH-601S	
水・4	文献史学(日本史)演習Ⅱ(六)	村上 紀夫	後期	1・2	2	▲	CHJH-602S	
水・4	文献史学(日本史)演習Ⅲ(六)	村上 紀夫	前期	2	2	▲	CHJH-603S	
水・4	文献史学(日本史)演習Ⅳ(六)	村上 紀夫	後期	2	2	▲	CHJH-604S	
月・4	文献史学(日本史)演習Ⅰ(七)	奥本 武裕	前期	1・2	2	▲	CHJH-601S	
月・4	文献史学(日本史)演習Ⅱ(七)	奥本 武裕	後期	1・2	2	▲	CHJH-602S	
月・4	文献史学(日本史)演習Ⅲ(七)	奥本 武裕	前期	2	2	▲	CHJH-603S	
月・4	文献史学(日本史)演習Ⅳ(七)	奥本 武裕	後期	2	2	▲	CHJH-604S	
火・2	文献史学(日本史)演習Ⅰ(八)	森川 正則	前期	1・2	2	▲	CHJH-601S	
火・2	文献史学(日本史)演習Ⅱ(八)	森川 正則	後期	1・2	2	▲	CHJH-602S	
火・2	文献史学(日本史)演習Ⅲ(八)	森川 正則	前期	2	2	▲	CHJH-603S	
火・2	文献史学(日本史)演習Ⅳ(八)	森川 正則	後期	2	2	▲	CHJH-604S	
金・2	文献史学(外国史)演習Ⅰ(一)	山崎 岳	前期	1・2	2	▲	CHWH-601S	
金・2	文献史学(外国史)演習Ⅱ(一)	山崎 岳	後期	1・2	2	▲	CHWH-602S	
金・2	文献史学(外国史)演習Ⅲ(一)	山崎 岳	前期	2	2	▲	CHWH-603S	
金・2	文献史学(外国史)演習Ⅳ(一)	山崎 岳	後期	2	2	▲	CHWH-604S	
火・1	文献史学(外国史)演習Ⅰ(二)	宮本 亮一	前期	1・2	2	▲	CHWH-601S	
火・1	文献史学(外国史)演習Ⅱ(二)	宮本 亮一	後期	1・2	2	▲	CHWH-602S	
火・1	文献史学(外国史)演習Ⅲ(二)	宮本 亮一	前期	2	2	▲	CHWH-603S	
火・1	文献史学(外国史)演習Ⅳ(二)	宮本 亮一	後期	2	2	▲	CHWH-604S	
火・3	文献史学(外国史)演習Ⅰ(三)	足立 広明	前期	1・2	2	▲	CHWH-601S	
火・3	文献史学(外国史)演習Ⅱ(三)	足立 広明	後期	1・2	2	▲	CHWH-602S	
火・3	文献史学(外国史)演習Ⅲ(三)	足立 広明	前期	2	2	▲	CHWH-603S	
火・3	文献史学(外国史)演習Ⅳ(三)	足立 広明	後期	2	2	▲	CHWH-604S	
月・2	文献史学(外国史)演習Ⅰ(四)	山口 育人	前期	1・2	2	▲	CHWH-601S	
月・2	文献史学(外国史)演習Ⅱ(四)	山口 育人	後期	1・2	2	▲	CHWH-602S	
月・2	文献史学(外国史)演習Ⅲ(四)	山口 育人	前期	2	2	▲	CHWH-603S	
月・2	文献史学(外国史)演習Ⅳ(四)	山口 育人	後期	2	2	▲	CHWH-604S	
※	文献史学(外国史)演習Ⅰ(五)	—	—	1・2	2	—	CHWH-601S	
※	文献史学(外国史)演習Ⅱ(五)	—	—	1・2	2	—	CHWH-602S	
※	文献史学(外国史)演習Ⅲ(五)	—	—	2	2	—	CHWH-603S	
※	文献史学(外国史)演習Ⅳ(五)	—	—	2	2	—	CHWH-604S	
金・1	文献史学(外国史)演習Ⅰ(六)	高橋 博子	前期	1・2	2	▲	CHWH-601S	
金・1	文献史学(外国史)演習Ⅱ(六)	高橋 博子	後期	1・2	2	▲	CHWH-602S	
金・1	文献史学(外国史)演習Ⅲ(六)	高橋 博子	前期	2	2	▲	CHWH-603S	
金・1	文献史学(外国史)演習Ⅳ(六)	高橋 博子	後期	2	2	▲	CHWH-604S	
水・5	考古学演習Ⅰ(一)	相原 嘉之	前期	1・2	2	▲	CHAR-601S	
水・5	考古学演習Ⅱ(一)	相原 嘉之	後期	1・2	2	▲	CHAR-602S	
水・5	考古学演習Ⅲ(一)	相原 嘉之	前期	2	2	▲	CHAR-603S	
水・5	考古学演習Ⅳ(一)	相原 嘉之	後期	2	2	▲	CHAR-604S	
月・2	考古学演習Ⅰ(二)	岩戸 晶子	前期	1・2	2	▲	CHAR-601S	

【注】

曜日 時限	科目名	担当者	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の注意事項
月・2	考古学演習Ⅱ(二)	岩戸 晶子	後期	1・2	2	▲	CHAR-602S	① 4科目 8単位必修
月・2	考古学演習Ⅲ(二)	岩戸 晶子	前期	2	2	▲	CHAR-603S	
月・2	考古学演習Ⅳ(二)	岩戸 晶子	後期	2	2	▲	CHAR-604S	
※	考古学演習Ⅰ(三)	—	—	1・2	2	—	CHAR-601S	
※	考古学演習Ⅱ(三)	—	—	1・2	2	—	CHAR-602S	
※	考古学演習Ⅲ(三)	—	—	2	2	—	CHAR-603S	
※	考古学演習Ⅳ(三)	—	—	2	2	—	CHAR-604S	
水・2	考古学演習Ⅰ(四)	豊島 直博	前期	1・2	2	▲	CHAR-601S	
水・2	考古学演習Ⅱ(四)	豊島 直博	後期	1・2	2	▲	CHAR-602S	
水・2	考古学演習Ⅲ(四)	豊島 直博	前期	2	2	▲	CHAR-603S	
水・2	考古学演習Ⅳ(四)	豊島 直博	後期	2	2	▲	CHAR-604S	
水・2	考古学演習Ⅰ(五)	近江 俊秀	前期	1・2	2	▲	CHAR-601S	
水・2	考古学演習Ⅱ(五)	近江 俊秀	後期	1・2	2	▲	CHAR-602S	
水・2	考古学演習Ⅲ(五)	近江 俊秀	前期	2	2	▲	CHAR-603S	
水・2	考古学演習Ⅳ(五)	近江 俊秀	後期	2	2	▲	CHAR-604S	
水・4	美術工芸史学演習Ⅰ(一)	大河内智之	前期	1・2	2	▲	CHAH-601S	
水・4	美術工芸史学演習Ⅱ(一)	大河内智之	後期	1・2	2	▲	CHAH-602S	
水・4	美術工芸史学演習Ⅲ(一)	大河内智之	前期	2	2	▲	CHAH-603S	
水・4	美術工芸史学演習Ⅳ(一)	大河内智之	後期	2	2	▲	CHAH-604S	
水・4	美術工芸史学演習Ⅰ(二)	米沢 玲	前期	1・2	2	▲	CHAH-601S	
水・4	美術工芸史学演習Ⅱ(二)	米沢 玲	後期	1・2	2	▲	CHAH-602S	
水・4	美術工芸史学演習Ⅲ(二)	米沢 玲	前期	2	2	▲	CHAH-603S	
水・4	美術工芸史学演習Ⅳ(二)	米沢 玲	後期	2	2	▲	CHAH-604S	
月・3	保存修復学演習Ⅰ(一)	比佐陽一郎	前期	1・2	2	▲	CHPS-601S	
月・3	保存修復学演習Ⅱ(一)	比佐陽一郎	後期	1・2	2	▲	CHPS-602S	
月・3	保存修復学演習Ⅲ(一)	比佐陽一郎	前期	2	2	▲	CHPS-603S	
月・3	保存修復学演習Ⅳ(一)	比佐陽一郎	後期	2	2	▲	CHPS-604S	
月・2	保存修復学演習Ⅰ(二)	魚島 純一	前期	1・2	2	▲	CHPS-601S	
月・2	保存修復学演習Ⅱ(二)	魚島 純一	後期	1・2	2	▲	CHPS-602S	
月・2	保存修復学演習Ⅲ(二)	魚島 純一	前期	2	2	▲	CHPS-603S	
月・2	保存修復学演習Ⅳ(二)	魚島 純一	後期	2	2	▲	CHPS-604S	
月・1	保存修復学演習Ⅰ(三)	杉山 智昭	前期	1・2	2	▲	CHPS-601S	
月・1	保存修復学演習Ⅱ(三)	杉山 智昭	後期	1・2	2	▲	CHPS-602S	
月・1	保存修復学演習Ⅲ(三)	杉山 智昭	前期	2	2	▲	CHPS-603S	
月・1	保存修復学演習Ⅳ(三)	杉山 智昭	後期	2	2	▲	CHPS-604S	
月・2	文献史学(日本史)特殊講義A(一)	渡辺 晃宏	前期	1・2	2	○	CHJH-501L	
月・2	文献史学(日本史)特殊講義A(二)	渡辺 晃宏	後期	1・2	2	○	CHJH-501L	
金・2	文献史学(日本史)特殊講義A(三)	吉川 敏子	前期	1・2	2	○	CHJH-501L	
金・2	文献史学(日本史)特殊講義A(四)	吉川 敏子	後期	1・2	2	○	CHJH-501L	
火・5	文献史学(日本史)特殊講義B(一)	海津 一朗	前期	1・2	2	○	CHJH-502L	
火・5	文献史学(日本史)特殊講義B(二)	海津 一朗	後期	1・2	2	○	CHJH-502L	
水・3	文献史学(日本史)特殊講義B(三)	村上 紀夫	前期	1・2	2	○	CHJH-502L	
水・3	文献史学(日本史)特殊講義B(四)	村上 紀夫	後期	1・2	2	○	CHJH-502L	
火・4	文献史学(日本史)特殊講義C(三)	森川 正則	前期	1・2	2	○	CHJH-503L	
火・4	文献史学(日本史)特殊講義C(四)	森川 正則	後期	1・2	2	○	CHJH-503L	
金・1	文献史学(外国史)特殊講義(一)	山崎 岳	前期	1・2	2	○	CHWH-501L	
金・1	文献史学(外国史)特殊講義(二)	山崎 岳	後期	1・2	2	○	CHWH-501L	
※	文献史学(外国史)特殊講義(三)	—	—	1・2	2	—	CHWH-501L	
※	文献史学(外国史)特殊講義(四)	—	—	1・2	2	—	CHWH-501L	
※	文献史学(外国史)特殊講義(五)	—	—	1・2	2	—	CHWH-501L	
※	文献史学(外国史)特殊講義(六)	—	—	1・2	2	—	CHWH-501L	
火・3	考古学特殊講義A(一)	岩戸 晶子	前期	1・2	2	○	CHAR-501L	
※	考古学特殊講義A(二)	—	—	1・2	2	—	CHAR-501L	
水・1	考古学特殊講義A(三)	近江 俊秀	前期	1・2	2	○	CHAR-501L	
水・1	考古学特殊講義A(四)	近江 俊秀	後期	1・2	2	○	CHAR-501L	
月・5	考古学特殊講義B(一)	小林 青樹	前期	1・2	2	○	CHAR-502L	
月・5	考古学特殊講義B(二)	小林 青樹	後期	1・2	2	○	CHAR-502L	
金・2	考古学特殊講義C(一)	豊島 直博	前期	1・2	2	○	CHAR-503L	
金・2	考古学特殊講義C(二)	豊島 直博	後期	1・2	2	○	CHAR-503L	
月・4	考古学特殊講義C(三)	相原 嘉之	前期	1・2	2	○	CHAR-503L	
月・4	考古学特殊講義C(四)	相原 嘉之	後期	1・2	2	○	CHAR-503L	

【注】

② 8科目  
16単位必修

曜日 時限	科目名	担当者	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の注意事項	
水・2	美術工芸史学特殊講義(一)	大河内智之	前期	1・2	2	○	CHAH-501L	② 8科目 16単位必修	
水・2	美術工芸史学特殊講義(二)	大河内智之	後期	1・2	2	○	CHAH-501L		
金・2	美術工芸史学特殊講義(三)	米沢 玲	前期	1・2	2	○	CHAH-501L		
金・2	美術工芸史学特殊講義(四)	米沢 玲	後期	1・2	2	○	CHAH-501L		
月・3	保存修復学特殊講義(一)	魚島 純一	前期	1・2	2	○	CHPS-501L		
月・3	保存修復学特殊講義(二)	魚島 純一	後期	1・2	2	○	CHPS-501L		
※	文化財史料学特殊講義(一)	—	—	1・2	2	—	CHCA-501L		
※	文化財史料学特殊講義(二)	—	—	1・2	2	—	CHCA-501L		
月・5	情報処理特殊講義(一)	正司 哲朗	前期	1・2	2	○	CHIS-501L		
月・5	情報処理特殊講義(二)	正司 哲朗	後期	1・2	2	○	CHIS-501L		
金・3	情報処理特殊講義(三)	正司 哲朗	前期	1・2	2	○	CHIS-501L		
金・3	情報処理特殊講義(四)	正司 哲朗	後期	1・2	2	○	CHIS-501L		
その他	文化財修復実習	魚島 純一	不定期	2	2	×	CHPS-601P		
月・3	文献史学特論(一)	高橋 博子	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		【注】
火・3	文献史学特論(二)	★川本 正知	後期	1・2	2	○	CHHD-501L		
※	文献史学特論(三)	—	—	1・2	2	—	CHHD-501L		
金・1	文献史学特論(四)	★久保利永子	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
水・5	文献史学特論(五)	★長澤 一恵	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
火・3	文献史学特論(六)	奥本 武裕	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
月・2	文献史学特論(七)	海津 一朗	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
月・2	文献史学特論(八)	木下 光生	後期	1・2	2	○	CHHD-501L		
※	文献史学特論(九)	—	—	1・2	2	—	CHHD-501L		
月・4	文献史学特論(十)	★安田真紀子	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
木・2	文献史学特論(十一)	★出水清之助	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
水・3	文献史学特論(十二)	★吉江 崇	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
土・2	文献史学特論(十三)	★山本 祥隆	後期	1・2	2	○	CHHD-501L		
火・2	文献史学特論(十四)	★外岡慎一郎	後期	1・2	2	○	CHHD-501L		
月・2	文献史学特論(十五)	★安田 純也	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
木・3	文献史学特論(十六)	★葉 勝	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
月・4	文献史学特論(十七)	★阿久根 晋	後期	1・2	2	○	CHHD-501L		
火・2	文献史学特論(十八)	★谷口 淳一	後期	1・2	2	○	CHHD-501L		
火・2	文献史学特論(十九)	★坂元 正樹	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
水・4	文献史学特論(二十)	★佐藤 専次	後期	1・2	2	○	CHHD-501L		
金・1	文献史学特論(二十一)	★久保利永子	後期	1・2	2	○	CHHD-501L		
水・2	文献史学特論(二十二)	★山内 暁子	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
金・1	文献史学特論(二十三)	吉川 敏子	前期	1・2	2	○	CHHD-501L		
※	考古学特論(一)	—	—	1・2	2	—	CHAH-504L		
※	考古学特論(二)	—	—	1・2	2	—	CHAH-504L		
月・4	考古学特論(三)	小林 青樹	後期	1・2	2	○	CHAH-504L		
月・4	考古学特論(四)	小林 青樹	前期	1・2	2	○	CHAH-504L		
金・3	考古学特論(五)	豊島 直博	前期	1・2	2	○	CHAH-504L		
水・4	考古学特論(六)	★岡林 孝作	後期	1・2	2	○	CHAH-504L		
※	考古学特論(七)	—	—	1・2	2	—	CHAH-504L		
水・3	考古学特論(八)	近江 俊秀	前期	1・2	2	○	CHAH-504L		
月・5	考古学特論(九)	近江 俊秀	後期	1・2	2	○	CHAH-504L		
金・4	美術工芸史学特論(一)	米沢 玲	後期	1・2	2	○	CHAH-502L		
月・1	美術工芸史学特論(二)	★関根 俊一	前期	1・2	2	○	CHAH-502L		
金・2	美術工芸史学特論(三)	米屋 優	後期	1・2	2	○	CHAH-502L		
水・2	美術工芸史学特論(四)	★宮崎 もも	前期	1・2	2	○	CHAH-502L		
月・2	美術工芸史学特論(五)	★岡田 健	前期	1・2	2	○	CHAH-502L		
水・3	保存修復学特論(一)	★渡辺智恵美	後期	1・2	2	○	CHPS-502L		
月・1	保存修復学特論(二)	★金 旻貞	前期	1・2	2	○	CHPS-502L		
火・3	保存修復学特論(三)	★横山 操	後期	1・2	2	○	CHPS-502L		
その他	学位論文	共同担当	不定期	2	0	△	CHDT-601G		

※本年度開講せず

【注】①②③の中から4科目8単位選択履修すること。ただし、2科目4単位については、文学研究科の他専攻の講義科目から履修することもできる。

文献史学(日本史)演習I(一)：日本古代史料の研究 渡辺 晃宏 前期 月曜日 4時限 A314

受講生に個々の研究課題について研究発表を行ってもらい、その内容について討議し、指導を行います。この個人発表を繰り返すことによって、修士論文に向けての準備を進めます。  
以上の研究発表以外の授業日には、史料講読を行います。本年度は『延喜式』を取り上げ、これをじっくりと読み進めながら、古代史の諸問題について考えます。『延喜式』のどの部分を読むかは、受講生と相談し、できるだけ受講生の専門分野に近い篇目を読むよう配慮します(以下では、仮に治部省式の場合を例示)。なお、授業はゼミ形式で実施します。



報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201501&opi=se0020&syw=1)

教科書

文献史学(日本史)演習I(二)：文化財史料学の諸問題 吉川 敏子 前期 水曜日 4時限 B207

文献史料、文字資料を使って、文化財に関する修士論文を書く院生を対象とし、論文作成の方法を指導する。受講生の研究テーマにもとづき、関連する史料や論文の発表を輪番で実施する。テーマの選択は自由であるが、単なる文献史料研究ではなく、モノとの関連を踏まえなければならない。



発表内容(40%)期末のレポート(60%)。研究史の把握状況、独自の成果の有無を規準にする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201502&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学(日本史)演習I(三)：地域から考える世界史 観光実験歴史学(押 海津 一郎 前期 火曜日 4時限 J205 熊公)事始め1

中世の南都巡礼記を読んで、禅律宗がどのような「観光化」=布教の手段としたのかを考える。学校教育で新科目「歴史総合」ができたように世界史と日本史の架橋は学芸員や教員の喫緊の課題であり、これについて事例研究を行う。毎回参加者が報告する



毎回時間中に回収する小テストと感想文・アンケート、毎回の講義への積極的な参加の有無。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201503&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201503&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学(日本史)演習I(四)：日本中世史の諸問題 河内 将芳 前期 月曜日 3時限 J315

日本中世史のなかで、先行研究によっていまだ解決されていない問題を受講生自身が見つけたし、その問題を専門的な方法によって解決に導く能力を養うための研究指導をおこなう。



研究報告の内容(100%、発表内容の充実度を重視)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201504&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201504&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学(日本史)演習I(五)：新しい日本史と世界史を考える 木下 光生 前期 月曜日 3時限 A314

受講生各自の研究テーマに沿った報告と討論をひたすら進める。各自の研究計画においては、以下の課題に留意されたい。



平素の報告・討論態度。研究会・学会への出席・討論参加姿勢。レポート。レポートは、研究史整理、および史料の博捜と分析が十分できているか如何で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201505&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201505&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学(日本史)演習I(六)：日本近世・近現代文化史の諸問題の研究 村上 紀夫 前期 水曜日 4時限 M105

日本近世・近現代文化史に関する修士論文を執筆する院生を対象とし、未解明の課題を院生自身が見つけ、その問題を解明する論文の作成にむけた研究指導をおこなう。



演習発表(80%) 発表内容の充実度を重視する。  
受講態度(20%) 演習での討論参加の積極性を重視する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201506&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201506&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学(日本史)演習I(七)：日本近代史研究の到達点と課題について 奥本 武裕 前期 月曜日 4時限 J206

幕末・維新时期から大正初期に関する近年の研究論文を精読し、他の受講者や担当教員と論議しながら研究の到達点と課題を確認していく。



各回の授業における報告や議論の発言内容などをもとに評価する(20%)。中間と期末にレポートの提出を求め、自身の選んだ課題についてアクチュアルな問題意識をもっているか、関係史料や先行研究を読み込んでいるかなどについて評価する(80%)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201507&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201507&opi=se0020&syw=1)

教科書 担当者から資料を配付する。

文献史学(日本史)演習Ⅰ(八) : 日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史 森川 正則 前期 火曜日 2時限 J315  
のテーマに関する発表

受講生が各自で設定したテーマと問い・論点について、先行研究の検討と史料調査の発表を重ねていく。その上で、教員を含めた参加者全員で討議する。

討議への参加度20%、発表内容50%、レポート30%を総合して評価する。発表とレポートともに、研究史の把握度、史料の調査状況、収集史料と読解・分析の妥当性を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201508&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201508&opi=se0020&syw=1)

教科書 授業の性格上なし



文献史学(日本史)演習Ⅱ(一) : 日本古代史料の研究 渡辺 晃宏 後期 月曜日 4時限 A314

受講生に個々の研究課題について研究発表を行ってもらい、その内容について討議し、指導を行います。この個人発表を繰り返すことによって、修士論文に向けての準備を進めます。

以上の研究発表以外の授業日には、史料講読を行います。本年度は『延喜式』を取り上げ、これをじっくりと読み進めながら、古代史の諸問題について考えます。『延喜式』のどの部分を読むかは、受講生と相談し、できるだけ受講生の専門分野に近い篇目を読めるよう配慮します(以下では、仮に玄蕃寮式の場合を例示)。なお、授業はゼミ形式で実施します。

報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201601&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(日本史)演習Ⅱ(二) : 文化財史料学の諸問題 吉川 敏子 後期 水曜日 4時限 B207

文献史料、文字資料を使って、文化財に関する修士論文を書く院生を対象とし、論文作成の方法を指導する。受講生の研究テーマにもとづき、関連する史料や論文の発表を輪番で実施する。テーマの選択は自由であるが、単なる文献史料研究ではなく、モノとの関連を踏まえなければならない。

発表内容(40%)期末のレポート(60%)。修士論文提出者は、発表内容100%とする。研究史の把握状況、独自の成果の有無を規準にする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201602&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅱ(三) : 観光実験歴史学(押熊公)事始め2 現実と地 海津 一郎 後期 火曜日 4時限 J205  
地域の課題に対応した中世史研究

前半は中世史研究が現代の課題に対応した視点について。後半は、地域の課題に取り組んだ具体例についてを考え、自分の研究がそのような展望を持ち合わせているか、そのためにどのように改善すべきかを考える。

毎回の授業で積極的な取り組みができたか。大学院生にふさわしい技能を取得できたか

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201603&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201603&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅱ(四) : 日本中世史の諸問題 河内 将芳 後期 月曜日 3時限 J315

日本中世史のなかで、先行研究によっていまだ解決されていない問題を受講生自身が見つけだし、その問題を専門的な方法によって解決に導く能力を養うための研究指導をおこなう。

研究報告の内容(100%、発表内容の充実度を重視)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201604&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201604&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅱ(五) : 新しい日本史と世界史を考える 木下 光生 後期 月曜日 3時限 A314

受講生各自の研究テーマに沿った報告と討論をひたすら進める。各自の研究計画においては、以下の課題に留意されたい。

平素の報告・討論態度。研究会・学会への出席・討論参加姿勢。レポート。レポートは、研究史整理、および史料の博覧と分析が十分できているか如何で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201605&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201605&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅱ(六) : 日本近世・近現代文化史の諸問題の研究 村上 紀夫 後期 水曜日 4時限 M105

日本近世・近現代文化史に関する修士論文を執筆する院生を対象とし、未解明の課題を院生自身が見つけ、その問題を解明する論文の作成にむけた研究指導をおこなう。

演習発表(80%) 発表内容の充実度を重視する。  
受講態度(20%) 演習での討論参加の積極性を重視する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201606&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201606&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅱ(七)：日本近代政治史の重要史料の研究 奥本 武裕 後期 月曜日 4時限 J206

幕末・維新期から大正初期における政治史の重要史料を取り上げ、これを解読するとともに、その歴史的意義について議論を通じて理解を深める。

授業における報告や議論の発言内容などをもとに評価する(20%)。中間と期末にレポートの提出を求め、日本近代の政治史に関する問題意識や、関係史料を読み込みについて評価する(80%)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201607&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201607&opi=se0020&syw=1)

教科書 担当者から資料を配付する



文献史学(日本史)演習Ⅱ(八)：日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史 森川 正則 後期 火曜日 2時限 J315  
のテーマの調査発表

受講生が各自で設定したテーマと問いについて、先行研究の整理・検討、史料調査・読解にもとづく考察内容を発表する。その上で、教員を含めた参加者全員で討議する。

討議への参加度30%、発表内容70%を総合して評価する。発表については、先行研究の把握状況と理解度、史料の調査・収集状況、史料の利用・読解の妥当性を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201608&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201608&opi=se0020&syw=1)

教科書 授業の性格上なし



文献史学(日本史)演習Ⅲ(一)：日本古代史料の研究 渡辺 晃宏 前期 月曜日 4時限 A314

受講生に個々の研究課題について研究発表を行ってもらい、その内容について討議し、指導を行います。この個人発表を繰り返すことによって、修士論文に向けての準備を進めます。

以上の研究発表以外の授業日には、史料講読を行います。本年度は『延喜式』を取り上げ、これをじっくりと読み進めながら、古代史の諸問題について考えます。『延喜式』のどの部分を読むかは、受講生と相談し、できるだけ受講生の専門分野に近い篇目を読めるよう配慮します(以下では、仮に治部省式の場合を例示)。なお、授業はゼミ形式で実施します。

報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201701&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(日本史)演習Ⅲ(二)：文化財史料学の諸問題 吉川 敏子 前期 水曜日 4時限 B207

文献史料、文字資料を使って、文化財に関する修士論文を書く院生を対象とし、論文作成の方法を指導する。受講生の研究テーマにもとづき、関連する史料や論文の発表を輪番で実施する。テーマの選択は自由であるが、単なる文献史料研究ではなく、モノとの関連を踏まえなければならない。

発表内容(40%)期末のレポート(60%)。研究史の把握状況、独自の成果の有無を規準にする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201702&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅲ(三)：研究課題と実証の構築 日本中世史 海津 一朗 前期 火曜日 4時限 J205

21世紀の歴史学において問題作として日本史・世界史学界を席卷した藤木久志説を史学史的に総括・克服する藤木説に対する理解の精度と関係史料の読み込みの精度から判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201703&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201703&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(日本史)演習Ⅲ(四)：日本中世史の諸問題 河内 将芳 前期 月曜日 3時限 J315

日本中世史のなかで、先行研究によってまだ解決されていない問題を受講生自身が見つけたし、その問題を専門的な方法によって解決に導く能力を養うための研究指導をおこなう。

研究報告の内容(100%) (報告内容の充実度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201704&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201704&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅲ(五)：新しい日本史と世界史を考える 木下 光生 前期 月曜日 3時限 A314

受講生各自の研究テーマに沿った報告と討論をひたすら進める。各自の研究計画においては、以下の課題に留意されたい。

平素の報告・討論態度。研究会・学会への出席・討論参加姿勢。レポート。レポートは、研究史整理、および史料の博搜と分析が十分できているか如何で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201705&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201705&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅲ(六)：日本近世・近現代文化史の諸問題の研究 村上 紀夫 前期 水曜日 4時限 M105

日本近世・近現代文化史に関する修士論文を執筆する院生を対象とし、未解明の課題を院生自身が見つけ、その問題を解明する論文の作成にむけた研究指導をおこなう。

演習発表(80%) 発表内容の充実度を重視する。  
受講態度(20%) 演習での討論参加の積極性を重視する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201706&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201706&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅲ(七)：日本近代史上の重要課題についての研究 奥本 武裕 前期 月曜日 4時限 J206

修士論文の完成をめざし、関係論文を博搜するとともに、各論文の意義と限界について議論のなかから明らかにする。これと並行して史料を読み込み、その歴史的意義について考察を深める。

報告の内容、議論への参加態度などにより総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201707&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201707&opi=se0020&syw=1)

教科書 担当者から資料を配付する。



文献史学(日本史)演習Ⅲ(八)：日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較史 森川 正則 前期 火曜日 2時限 J315  
のテーマでの研究発表

受講生が各自で設定したテーマと問いについて、先行研究の検討と史料調査の発表をする。その上で、教員を含めた参加者全員で討議する。

討議への参加度30%、発表内容70%を総合して評価する。発表については、先行研究の把握状況と理解度、史料の調査・収集状況、史料の利用・読解と分析の妥当性を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201708&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201708&opi=se0020&syw=1)

教科書 授業の性格上なし



文献史学(日本史)演習Ⅳ(一)：日本古代史料の研究 渡辺 晃宏 後期 月曜日 4時限 A314

受講生に個々の研究課題について研究発表を行ってもらい、その内容について討議し、指導を行います。この個人発表を繰り返すことによって、修士論文に向けての準備を進めます。

以上の研究発表以外の授業日には、史料講読を行います。本年度は『延喜式』を取り上げ、これをじっくりと読み進めながら、古代史の諸問題について考えます。『延喜式』のどの部分を読むかは、受講生と相談し、できるだけ受講生の専門分野に近い篇目を読めるよう配慮します(以下では、仮に玄蕃寮式の場合を例示)。なお、授業はゼミ形式で実施します。

報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201801&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201801&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(日本史)演習Ⅳ(二)：文化財史料学の諸問題 吉川 敏子 後期 水曜日 4時限 B207

文献史料、文字資料を使って、文化財に関する修士論文を書く院生を対象とし、論文作成の方法を指導する。受講生の研究テーマにもとづき、関連する史料や論文の発表を輪番で実施する。テーマの選択は自由であるが、単なる文献史料研究ではなく、モノとの関連を踏まえなければならない。

発表内容(40%)期末レポート(60%)。修士論文提出者は、発表内容100%とする。研究史の把握状況、独自の成果の有無を規準にする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201802&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201802&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅳ(三)：世界のなかの日本史 古代中世から近世へ 海津 一朗 後期 火曜日 4時限 J205

村井章介の近著の中から論文を講読する。原則として毎回報告者を立ててレジュメを作り論文を要約してもらう

報告の準備と読解力。授業での熱意ある取り組みから判断 最終回の小テスト。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201803&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201803&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(日本史)演習Ⅳ(四)：日本中世史の諸問題 河内 将芳 後期 月曜日 3時限 J315

日本中世史のなかで、先行研究によっていまだ解決されていない問題を受講生自身が見つけだし、その問題を専門的な方法によって解決に導く能力を養うための研究指導をおこなう。

研究報告の内容(100%) (報告内容の充実度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201804&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201804&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅳ(五)：新しい日本史と世界史を考える 木下 光生 後期 月曜日 3時限 A314

受講生各自の研究テーマに沿った報告と討論をひたすら進める。各自の研究計画においては、以下の課題に留意されたい。

平素の報告・討論態度。研究会・学会への出席・討論参加姿勢。レポート。レポートは、研究史整理、および史料の博搜と分析が十分できているか如何で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201805&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201805&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅳ(六)：日本近世・近現代文化史の諸問題の研究 村上 紀夫 後期 水曜日 4時限 M105

日本近世・近現代文化史に関する修士論文を執筆する院生を対象とし、未解明の課題を院生自身が見つめ、その問題を解明する論文の実作業を進めるための研究指導をおこなう。

演習発表(80%) 発表内容の充実度を重視する。  
受講態度(20%) 演習での討論参加の積極性を重視する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201806&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201806&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅳ(七)：日本近代史上の重要課題についての研究 奥本 武裕 後期 月曜日 4時限 J206

より完成度の高い修士論文の提出に向けて、史料の解釈や論の立て方など細部にわたって議論してゆく。

授業中の報告や議論の内容から総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201807&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201807&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)演習Ⅳ(八)：日本現代史、日本と諸外国の関係史・比較 森川 正則 後期 火曜日 2時限 J315

史のテーマで修士論文を仕上げたい

受講生が各自で設定したテーマと問いについて、先行研究の整理・検討、史料調査・読解にもとづく考察内容を発表する。その上で、教員を含めた参加者全員で討議する。

討議への参加度30%、発表内容70%を総合して評価する。発表については、先行研究の把握状況と理解度、史料の調査・収集状況、史料の利用・読解と分析の妥当性を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100201808&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100201808&opi=se0020&syw=1)

教科書 授業の性格上なし



文献史学(外国史)演習Ⅰ(一)：東洋史演習 山崎 岳 前期 金曜日 2時限 J314

修士論文の執筆を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。

平時の授業への取り組みによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202501&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(外国史)演習Ⅰ(二)：中央・西南アジア史の諸問題 宮本 亮一 前期 火曜日 1時限 J205

以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します。

- 1 受講者による研究発表
- 2 研究発表を踏まえた議論
- 3 関連する史料・文献の講読

関連する史料・文献は、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定しますが、基本的に英語やフランス語など、外国語で書かれたものの中から選定します。

発表内容、授業への取り組みから総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202502&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(外国史)演習Ⅰ(三)：西洋史の研究 足立 広明 前期 火曜日 3時限 J206

専門研究の発表とディスカッション、論文作成の指導を行う。西洋史においては、各時代と地域に応じて先行研究も史料も多岐にわたる外国語文献を要求される。研究を進めるにはまず語学力を養成し、つぎに文献にアクセスする道筋を知らなければならない。本講義ではこの二点を重視しながら、毎週の発表と意見・情報交換により、専門研究能力の育成を目指す。

史料・先行研究を十分に収集・分析し、修士論文作成に向けた準備ができているかどうか。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202503&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202503&opi=se0020&syw=1)

教科書 とくに用いない。



文献史学(外国史)演習I(四)：西洋近現代史の諸問題 山口 育人 前期 月曜日 2時限 J314

修士論文作成に向けての研究推進に必要な知識・技能を習得するための学習活動を行う。具体的には、先行研究の整理、史料の収集・読解、研究視角の設定、研究経過報告、論文作成を行う。

レポートによって評価する。講義で取り上げた論文作成におけるポイントをどの程度、反映できているかで評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202504&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202504&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし



文献史学(外国史)演習I(六)：西洋現代史の諸問題 高橋 博子 前期 金曜日 1時限 J206

修士論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な能力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聴いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした修士論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。

研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかとも評価する(30%)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202506&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202506&opi=se0020&svw=1)

教科書 シカゴ・スタイル / ケイト・L・トラビアン・慶應義塾大学出版会, 2012 . 978-4-7664-1977-1 公文書は誰のものか? : 公文書管理について考える入門書 / 榎澤 幸広・現代人文社, 2019 . 9784877987244 歴史学で卒業論文を書くために / 村上紀夫・創元社, 2019 . 978-4-422-80041-7



文献史学(外国史)演習II(一)：東洋史演習 山崎 岳 後期 金曜日 2時限 J314

修士論文の執筆を見ずえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。

平時の授業への取り組みによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202601&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202601&opi=se0020&svw=1)

教科書



文献史学(外国史)演習II(二)：中央・西南アジア史の諸問題 宮本 亮一 後期 火曜日 1時限 J205

以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します。

- 1 受講者による研究発表
- 2 研究発表を踏まえた議論
- 3 関連する史料・文献の講読

関連する史料・文献は、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定しますが、基本的に英語やフランス語など、外国語で書かれたものの中から選定します。

発表内容、授業への取り組みから総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202602&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202602&opi=se0020&svw=1)

教科書



文献史学(外国史)演習II(三)：西洋史の研究 足立 広明 後期 火曜日 3時限 J206

前期の演習 I に引き続き、修士論文作成を目標としながら研究を続け、専門研究の発表とディスカッション、論文作成の指導を行う。各時代と地域に応じた先行研究と史料の収集を継続する。毎週の発表と意見・情報交換により、専門研究能力を高めていく。

史料・先行研究を十分に収集・分析し、修士論文作成に向けた準備ができているかどうか。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202603&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202603&opi=se0020&svw=1)

教科書 とくに定めない。



文献史学(外国史)演習II(四)：西洋近現代史の諸問題 山口 育人 後期 月曜日 2時限 J314

修士論文作成に向けての研究推進に必要な知識・技能を習得するための学習活動を行う。具体的には、先行研究の整理、史料の収集・読解、研究視角の設定、研究経過報告、論文作成を行う。

レポートによって評価する。その評価基準は学会誌論文の水準に照らし合わせたものとする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202604&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202604&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし



文献史学(外国史)演習II(六)：西洋現代史の諸問題 高橋 博子 後期 金曜日 1時限 J206

修士論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な能力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聴いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習では、受講者は修士論文にむけての報告を行い、基本的な知識を習得し、レポートを作成する。

研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかとも評価する(30%)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202606&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202606&opi=se0020&svw=1)

教科書 シカゴ・スタイル / ケイト・L・トラビアン・慶應義塾大学出版会, 2012 . 978-4-7664-1977-1



文献史学(外国史)演習Ⅲ(一) : 東洋史修士論文作成 山崎 岳 前期 金曜日 2時限 J314

修士論文の完成を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。

平時の授業への取り組みによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202701&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(外国史)演習Ⅲ(二) : 中央・西南アジア史の諸問題 宮本 亮一 前期 火曜日 1時限 J205

以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します

- 1 受講者による研究発表
- 2 研究発表を踏まえた議論
- 3 関連する史料・文献の講読

関連する史料・文献は、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定しますが、基本的にフランス語など、英語以外の外国語で書かれたものの中から選定します。

発表内容、授業への取り組みから総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202702&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(外国史)演習Ⅲ(三) : 西洋史の研究 足立 広明 前期 火曜日 3時限 J206

専門研究の発表とディスカッション、論文作成の指導を行う。西洋史においては、各時代と地域に応じて先行研究も史料も多岐にわたる外国語文献を要求される。研究を進めるにはまず語学力を養成し、つぎに文献にアクセスする道筋を知らなければならない。本講義ではこの二点を重視しながら、毎週の発表と意見・情報交換により、専門研究能力の育成を目指す。

史料・先行研究を十分に収集・分析し、修士論文作成に向けた準備ができているかどうか。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202703&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202703&opi=se0020&syw=1)

教科書 とくに用いない。



文献史学(外国史)演習Ⅲ(四) : 西洋近現代史の諸問題 山口 育人 前期 月曜日 2時限 J314

修士論文完成に向けての研究推進に必要な知識・技能を習得するための学習活動を行う。具体的には、先行研究の整理、史料の収集・読解、研究視角の設定、研究経過報告、論文作成を行う。

レポートによって評価する。講義で取り上げた論文作成におけるポイントをどの程度、反映できているかで評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202704&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202704&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(外国史)演習Ⅲ(六) : 西洋現代史の諸問題 高橋 博子 前期 金曜日 1時限 J206

修士論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聞いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした修士論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。

研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうかとも評価する(30%)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202706&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202706&opi=se0020&syw=1)

教科書 シカゴ・スタイル / ケイト・L・トゥラビアン, 慶應技術大学出版会, 2012. ISBN 978-4-7664-1977-1



文献史学(外国史)演習Ⅳ(一) : 東洋史修士論文作成 山崎 岳 後期 金曜日 2時限 J314

修士論文の完成を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。

平時の授業への取り組みによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202801&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202801&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(外国史)演習Ⅳ(二) : 中央・西南アジア史の諸問題 宮本 亮一 後期 火曜日 1時限 J205

以下の3つの作業を中心に行い、上記の目標の達成を目指します。

- 1 受講者による研究発表
- 2 研究発表を踏まえた議論
- 3 関連する史料・文献の講読

関連する史料・文献は、受講者の希望、語学力などを考慮に入れて決定しますが、基本的にフランス語など、英語以外の外国語で書かれたものの中から選定します。

発表内容、授業への取り組みから総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202802&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202802&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(外国史)演習Ⅳ(三)：西洋史の研究 足立 広明 後期 火曜日 3時限 J206

前期の演習Ⅲに引き続き、修士論文作成を目標としながら研究を続け、専門研究の発表とディスカッション、論文作成の指導を行う。各時代と地域に応じた先行研究と史料の収集を継続する。毎週の発表と意見・情報交換により、専門研究能力を高めていく。

史料・先行研究を十分に収集・分析し、現在の研究動向に即して修士論文作成に向けて取り組むことができたかで、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202803&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202803&opi=se0020&syw=1)

教科書 とくに定めない。



文献史学(外国史)演習Ⅳ(四)：西洋近代史の諸問題 山口 育人 後期 月曜日 2時限 J314

修士論文完成に向けての研究推進に必要な知識・技能を習得するための学習活動を行う。具体的には、先行研究の整理、史料の収集・読解、研究視角の設定、研究経過報告、論文作成を行う。

レポートによって評価する。その評価基準は学会誌論文の水準に照らし合わせたものとする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202804&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202804&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(外国史)演習Ⅳ(六)：西洋現代史をめぐる諸問題 高橋 博子 後期 金曜日 1時限 J206

修論論文作成のためには、作成者の問題意識・視点・構想、先行研究の把握、文献・史料収集、文献・史料分析、そして、先行研究を適切に参照し、適切に引用しつつ、論文を完成させる総合的な力が必要である。また、ほかの受講者の報告や意見を聴いたうえで、建設的な議論を行うことは、論文の質を高めてゆくことにつながる。本演習はこうした卒業論文作成のための基本的な計画と構想を作ることを目的とする。

研究構想と文献・論文リストについてまとめたレポートによって評価する(70%)。演習での報告とほかの報告者に適切にコメントできるかどうか評価する(30%)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100202806&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100202806&opi=se0020&syw=1)

教科書 歴史学で卒業論文を書くために / 村上紀夫・創元社、2019・978-4-422-80041-7



考古学演習Ⅰ(一)：考古資料による日本歴史及び文化財保護の基礎的研究 相原 嘉之 前期 水曜日 5時限 M105

この演習(M1)は、考古学や文化財に関する分野の修士論文を作成するために必要な基礎を形成するための研究報告を行う。そのほか、文化財保護の現場において、学外授業を適宜実施する。

演習における発表50%(課題についての独自性・充実度を重視)、平常点50%(発表に関する質問など積極的な姿勢を重視)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203501&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリントを配布



考古学演習Ⅰ(二)：考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする 岩戸 晶子 前期 月曜日 2時限 M105

大学院では、これまでの大学生活や卒業論文作成を通じて生まれたそれぞれの研究テーマをさらに発展させ、より大きな視点に基づいて問題点を解決し、論理的な文章と図版による論文という形で具現化することをめざします。

この演習では、それまでの研究を振り返り、それまでの成果を俯瞰し、多角的に把握することを目的とします。それぞれの発表やそれを踏まえて交わされる議論によってより良い成果になることを目指しましょう。

また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料を中心とした文化財への理解もさらに深めます。

学習到達度60%(各自の研究発表内容)および授業への積極性40%で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203502&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学演習Ⅰ(四)：考古学の研究方法を学ぶ 豊島 直博 前期 水曜日 2時限 J406

遺構や遺物から人間の過去を解明する考古学では、あらゆる時代・地域の考古資料が研究対象となる。この演習では、各自が興味をもつ分野を探し、対象とする考古資料の概要を把握する。また、研究史を調べて課題を抽出し、独自の研究方法を探る。発表担当者は事前に1枚程度の資料を作成する。主題となる論文がある場合は事前に提示し、参加者は読んでおくこと。発表に基づき全員で議論し、考古学の研究方法を身に付ける。遺跡や博物館の見学も行い、考古資料の見方を学ぶ。

自分の研究内容をまとめたレポート(A41枚程度)、発表資料の完成度によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203504&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203504&opi=se0020&syw=1)

教科書



考古学演習Ⅰ(五)：埋蔵文化財を中心とした文化財保護行政の基礎的研究 近江 俊秀 前期 水曜日 2時限 J205

この演習(M1)は、埋蔵文化財行政に関する分野の修士論文を作成するために必要な基礎を形成するため日本における埋蔵文化財保護制度の成り立ちと変遷について講義を行う。

授業内での発表、レポート課題、学習到達度確認を基に総合的に評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203505&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203505&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学演習Ⅱ(一)：考古資料による日本歴史及び文化財保護の実践的研究 相原 嘉之 後期 水曜日 5時限 M105

この演習(M1)は、考古学や文化財に関した分野の修士論文を作成するために必要な実践的な研究報告を行う。そのほか、文化財保護の現場において、学外授業を適宜実施する。

演習における発表50%(課題についての独自性・充実度を重視)、平常点50%(発表に関する質問など積極的な姿勢を重視)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203601&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリントを配布



考古学演習Ⅱ(二)：考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする 岩戸 晶子 後期 月曜日 2時限 M105

この演習(1年生)では、考古学演習Ⅰ(二)での成果を踏まえ、自身のテーマについての研究の現状や問題点を深く把握することを目的とします。

自分の課題についてプレゼンテーションをおこない、それをふまえて教員および学生全員で議論することを繰り返し、自分のテーマを掘り下げていきましょう。同時に、自分の知識や思考を他者に明確に伝えるプレゼンテーションや資料についてのブラッシュアップもさらに目指します。

また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料を中心とした文化財への理解もさらに深めます。

学習到達度60%(各自の研究発表内容)および授業への積極性40%で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203602&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学演習Ⅱ(四)：考古学の研究方法を習得し、学位論文に備える 豊島 直博 後期 水曜日 2時限 J406

考古学の研究を進めるためには、まず文献を参照して資料を集めなくてはならない。その方法を学び、実践する。集成が進めば、独自の観点から分析が可能となる。発表と議論を通じて分析の方法を探す。なお、新たな分析方法は実物資料を見なければ見いだせない場合が多い。遺跡や博物館見学を行い、モノを見る目を養う。発表は1回に2名ずつ行う。事前に資料を作成し、それに基づいて議論する。

自分の研究内容をまとめたレポート(A41枚程度)、発表資料の完成度を内容の独自性によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203604&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203604&opi=se0020&syw=1)

教科書



考古学演習Ⅱ(五)：埋蔵文化財を中心とした文化財保護行政の基礎的研究 近江 俊秀 後期 水曜日 2時限 J205

この演習(M1)は、前期に担当教官が行った講義を参考として各自が研究テーマを設定し発表する。講義と発表を通じて、各自、修士論文の課題選定を進める。テーマ設定は、文化財行政に係る内容とするが、考古学の知識を行政等の中で活かすことを目的としたものや、文化財行政に係る知識を土台として観光振興や地域活性化等に資する研究テーマも可とする。

演習における発表を各自1回実施(講義の内容に関する理解度とテーマ設定の視点を重視)、授業内での発表、レポート課題、学習到達度確認を基に総合的に評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203605&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203605&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学演習Ⅲ(一)：考古資料による日本歴史及び文化財保護の発展的研究 相原 嘉之 前期 水曜日 5時限 M105

この演習(M2)は、考古学や文化財に関した分野の修士論文を作成するために必要な発展的な研究報告を行う。そのほか、文化財保護の現場において、学外授業を適宜実施する。

演習における発表50%(課題についての独自性・充実度を重視)、平常点50%(発表に関する質問など積極的な姿勢を重視)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203701&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリントを配布



考古学演習Ⅲ(二)：考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする 岩戸 晶子 前期 月曜日 2時限 M105

この演習(2年生)では、1年次に履修した考古学演習Ⅰ・Ⅱでの成果を踏まえ、修士論文のテーマを設定し、その現状の課題と自身の着眼点を絞ることをめざします。

それぞれの発表やそれを踏まえて交わされる議論によってより良い成果になることを目指しましょう。

また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料への理解もさらに深めていきます。

学習到達度60%(各自の研究発表内容やレポート)および授業への積極性40%(演習への積極性)で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203702&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学演習Ⅲ(四)：学位論文の作成 豊島 直博 前期 水曜日 2時限 J406

考古学の論文は文章と図版から成り立っている。この演習では、1年間かけて学位論文を完成できるよう、論文の書き方と図版の作り方を学ぶ。また、作業の途中経過を発表して相互に議論し、論文の質を高める。発表は1回に2名行う。事前に1枚程度の資料を作成し、それに基づいて全員で議論する。また、遺跡や博物館を見学し、考古資料への理解を深める。

自分の研究内容をまとめたレポート(A41枚程度)、発表資料の完成度を研究の独自性によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203704&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203704&opi=se0020&syw=1)

教科書



考古学演習Ⅲ(五)：埋蔵文化財を中心とした文化財保護行政の実践的研究 近江 俊秀 前期 水曜日 2時限 J205

この演習(M2)は、埋蔵文化財行政に係る修士論文作成のために必要な実践的な研究を行う。

演習における発表を各自1回実施(講義の内容に関する理解度とテーマ設定の視点を重視)、授業内での発表、レポート課題、学習到達度確認を基に総合的に評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203705&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203705&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学演習Ⅳ(一)：考古資料による日本歴史及び文化財保護の総括的研究 相原 嘉之 後期 水曜日 5時限 M105

この演習(M2)は、考古学や文化財に関した分野の修士論文を完成するために必要な総括的な研究報告を行う。そのほか、文化財保護の現場において、学外授業を適宜実施する。

演習における発表50%(課題についての独自性・充実度を重視)、平常点50%(発表に関する質問など積極的な姿勢を重視)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203801&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203801&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリントを配布



考古学演習Ⅳ(二)：考古学研究によって新たな歴史的枠組みを明らかにする 岩戸 晶子 後期 月曜日 2時限 M105

この演習(2年生)では、1年次に履修した考古学演習Ⅰ・Ⅱおよび2年次前期考古学演習Ⅲでの成果を踏まえ、自分のテーマについて掘り下げ、修士論文の完成をめざします。途中経過とその時点での課題を発表によって、確認しながら論文作成を進めていきます。

発表を踏まえて交わされる議論によってより良い成果になることを目指しましょう。また、遺跡や博物館の見学を通して、考古資料への理解もさらに深めていきます。

学習到達度60%(各自の研究発表内容)および授業への積極性40%で評価します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203802&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203802&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学演習Ⅳ(四)：学位論文の作成 豊島 直博 後期 水曜日 2時限 J406

前期の演習Ⅲの成果をもとに、学位論文の完成を目指す。作業の途中経過を発表して相互に議論し、論文の質を高める。文章表現、注と参考文献、図版のキャプションなど論文の細部についても適宜指導する。発表は1回に2名ずつ行う。事前に1枚程度の資料を作成し、それに基づいて全員で議論する。論文提出後には事後指導を行う。また、遺跡や博物館を見学し、考古資料への理解を深める。

自分の研究内容をまとめたレポート(A4で1枚程度)、発表資料の完成度を独自性によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203804&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203804&opi=se0020&syw=1)

教科書



考古学演習Ⅳ(五)：埋蔵文化財を中心とした文化財保護行政の総括的研究 近江 俊秀 後期 水曜日 2時限 J205

この演習(M2)は、埋蔵文化財行政に関した分野の修士論文を完成するために必要な総括的な研究報告を行う。

演習における発表を各自1回実施(講義の内容に関する理解度とテーマ設定の視点を重視)、授業内での発表、レポート課題、学習到達度確認を基に総合的に評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100203805&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100203805&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



美術工芸史学演習Ⅰ(一)：日本彫刻史・宗教美術史研究の諸問題 大河内 智之 前期 水曜日 4時限 B211

彫刻史研究・宗教美術史研究のうち、演習Ⅰでは特に日本彫刻史の重要問題を取り上げて、関係論文や文献の講読はもとより、様式論、形式論、図像学、技術史、信仰史などの多方面からの考察も踏まえて核心に迫る。また、諸論文で扱われていない新たな視点を見出すため、伝来史や地域史の観点についても考えていく。もちろん受講者の論文・レポート作成の進捗に合わせ、とくに作品の精査に力点を置きながら、見学等も積極的に行う。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。

研究発表(40%)、最終時間に提出された論文またはレポート(40%)、平常時の取り組み姿勢(20%)で評価する。論文・レポートは、内容や構成はもとより、先行研究の参照や、美術史関係の術語・専門用語の使用が的確であるかを評価の対象とする。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100204501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100204501&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜論文やプリントを配布する



美術工芸史学演習Ⅰ(二)：美術史研究の方法 米沢 玲 前期 水曜日 4時限 B213

美術工芸史学演習Ⅰ～Ⅳでは、修士論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅰ(二)では、各自の研究テーマを設定し、その研究史を把握することに努める。具体的には先行論文を講読し、そこから問題点を抽出し、発表する。この作業を通じて、研究方法を修得する。発表後は全員で討議し、お互いの視野を広げる機会とする。

授業参加度40%(出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に詳述する)。発表と発表資料60%(評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100204502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100204502&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



美術工芸史学演習Ⅱ(一) : 日本彫刻史・宗教美術史研究の諸問題 大河内 智之 後期 水曜日 4時限 B211

彫刻史研究・宗教美術史研究のうち、演習Ⅱでは工芸や絵画も含めた研究上の重要問題を取り上げて、関係論文や文献の講読はもとより、様式論、形式論、図像学、技術史、信仰史などの多方面からの考察も踏まえて核心に迫る。また、諸論文で扱われていない新たな視点を見出すため、伝来史や地域史の観点についても考えていく。もちろん受講者の論文・レポート作成の進捗に合わせ、とくに作品の精査に力点を置きながら、見学等も積極的に行う。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。



研究発表(40%)、提出された小論文(40%)、平常時の取り組み姿勢(20%)で評価する。論文・レポートは、内容や構成はもとより、先行研究の参照や、美術史関係の術語・専門用語の使用が的確であるかを評価の対象とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100204601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100204601&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜プリントを配布する

美術工芸史学演習Ⅱ(二) : 美術史研究の方法 米沢 玲 後期 水曜日 4時限 B213

美術工芸史学演習Ⅰ～Ⅳでは、修士論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅱでは、各自の研究テーマを設定し、発表を行い、全員で討議する。討議を通じて、お互いの視野を広げ、研究方法を修得する。



授業参加度40%(出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に詳述する)。発表と発表資料60%(評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100204602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100204602&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

美術工芸史学演習Ⅲ(一) : 日本彫刻史・宗教美術史研究の諸問題 大河内 智之 前期 水曜日 4時限 B211

彫刻史研究・宗教美術史研究のうち、演習Ⅲでは特に日本彫刻史の重要問題を取り上げて、関係論文や文献の講読はもとより、様式論、形式論、図像学、技術史、信仰史などの多方面からの考察も踏まえて核心に迫る。また、諸論文で扱われていない新たな視点を見出すため、伝来史や地域史の観点についても考えていく。もちろん受講者の論文・レポート作成の進捗に合わせ、とくに作品の精査に力点を置きながら、見学等も積極的に行う。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。



研究発表(40%)、最終時間に提出された論文またはレポート(40%)、平常時の取り組み姿勢(20%)で評価する。論文・レポートは、内容や構成はもとより、先行研究の参照や、美術史関係の術語・専門用語の使用が的確であるかを評価の対象とする。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100204701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100204701&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜論文やプリントを配布する

美術工芸史学演習Ⅲ(二) : 美術史研究の方法 米沢 玲 前期 水曜日 4時限 B213

美術工芸史学演習Ⅰ～Ⅳでは、修士論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅲ(二)では、各自の研究テーマを設定し、その研究史を把握することに努める。具体的には先行論文を講読し、そこから問題点を抽出し、発表する。この作業を通じて、研究方法を修得する。発表後は全員で討議し、お互いの視野を広げる機会とする。



授業参加度40%(出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に詳述する)。発表と発表資料60%(評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100204702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100204702&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

美術工芸史学演習Ⅳ(一) : 日本彫刻史・宗教美術史研究の諸問題 大河内 智之 後期 水曜日 4時限 B211

彫刻史研究・宗教美術史研究のうち、演習Ⅳでは工芸や絵画も含めた研究上の重要問題を取り上げて、関係論文や文献の講読はもとより、様式論、形式論、図像学、技術史、信仰史などの多方面からの考察も踏まえて核心に迫る。また、諸論文で扱われていない新たな視点を見出すため、伝来史や地域史の観点についても考えていく。もちろん受講者の論文・レポート作成の進捗に合わせ、とくに作品の精査に力点を置きながら、見学等も積極的に行う。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。



研究発表(40%)、提出された小論文(40%)、平常時の取り組み姿勢(20%)で評価する。論文・レポートは、内容や構成はもとより、先行研究の参照や、美術史関係の術語・専門用語の使用が的確であるかを評価の対象とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100204801&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100204801&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜プリントを配布する

美術工芸史学演習Ⅳ(二) : 美術史研究の方法 米沢 玲 後期 水曜日 4時限 B213

美術工芸史学演習Ⅰ～Ⅳでは、修士論文作成を最終目標とし、そのために必要な事柄を習得する。Ⅳでは、各自の研究テーマに相応しい方法論を確立することに努める。具体的には研究の経過を発表し、発表後は全員で討議し、お互いの視野を広げる機会とする。



11月中旬までに草稿を教員に提出し草稿の添削を受けることとその添削による修正を行うこと100%。評価基準は実証性と倫理性である。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100204802&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100204802&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

保存修復学演習I(一) : 文化財の科学調査と科学的保存処理・修復の実例 比佐 陽一郎 前期 月曜日 3時限 J406

文化財の科学調査の研究手法・研究例・保存・修復事例を講義するとともに、機器分析等の実践も行う。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。研究発表の内容(50%)、期末レポートの内容(50%)による評価を行なう。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207501&opi=se0020&syw=1)

教科書



保存修復学演習I(二) : 文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己 魚島 純一 前期 月曜日 2時限 J315  
の研究課題を明確にする。

文化財の保存、特に保存環境について、さまざまな実例を知ることによって、現場での課題を理解し、問題解決に向けた研究の必要性などについて理解する。各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を深化させる。現場での実情を知るために見学等も積極的に過ごしたい。

研究発表の内容(内容の充実度で評価)、日常の研究態度(活発に討論に参加できているかなどを評価)、期末レポート(各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価)などを総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207502&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学演習I(三) : 文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己 杉山 智昭 前期 月曜日 1時限 B211  
の研究課題を明確にする

文化財の保存について、さまざまな実例を知ることによって、現場での課題を理解し、問題解決に向けた研究の必要性などについて理解する。各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を深化させる。現場での実情を知るために見学等も積極的に過ごしたい。

研究発表の内容(内容の充実度で評価)、日常の研究態度(活発に討論に参加できているかなどを評価)、期末レポート(各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価)などを総合して評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207503&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207503&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学演習II(一) : 文化財保存修復の先端的研究課題 比佐 陽一郎 後期 月曜日 3時限 J406

文化財の保存修復の方法と共に、分析・保存修復の先端的研究方法について学ぶ。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視する。講義を通じて自己の研究課題を明確にすると共に研究者としての自立を促す。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。

評価方法は、課題の充実度やレポートを総合的に評価する。評価基準は質問など平常時の取り組み姿勢(30%)・課題の達成度(30%)・レポートの論理性(40%)を評価して総合的に判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207601&opi=se0020&syw=1)

教科書 必要に応じてプリントを配布。



保存修復学演習II(二) : 文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己 魚島 純一 後期 月曜日 2時限 J315  
の研究課題を明確にする。

文化財の保存、特に保存環境について、さまざまな実例を知ることによって、現場での課題を理解し、問題解決に向けた研究の必要性などについて理解する。各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を深化させる。現場での実情を知るために見学等も積極的に過ごしたい。

研究発表の内容(内容の充実度で評価)、日常の研究態度(活発に討論に参加できているかなどを評価)、期末レポート(各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価)などを総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207602&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学演習II(三) : 文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己 杉山 智昭 後期 月曜日 1時限 B211  
の研究課題を明確にする

文化財の保存について、さまざまな実例を知ることによって、現場での課題を理解し、問題解決に向けた研究の必要性などについて理解する。各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を深化させる。現場での実情を知るために見学等も積極的に過ごしたい。

研究発表の内容(内容の充実度で評価)、日常の研究態度(活発に討論に参加できているかなどを評価)、期末レポート(各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価)などを総合して評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207603&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207603&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学演習III(一) : 文化財の科学調査と科学的保存処理・修復の実例 比佐 陽一郎 前期 月曜日 3時限 J406

文化財の科学調査の研究手法・研究例・保存処理例を講義するとともに、機器分析・保存処理も行う。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。

研究発表の内容(50%)、期末レポートの内容(50%)による評価を行なう。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207701&opi=se0020&syw=1)

教科書 必要に応じてプリントを配布。



保存修復学演習Ⅲ(二) : 文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己 魚島 純一 前期 月曜日 2時限 J315  
の研究課題を明確にする。

これまでおこなってきた研究をさらに深化させ、各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を論文にまとめる。

研究発表の内容(内容の充実度で評価)、日常の研究態度(活発に討論に参加できているかなどを評価)などを総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207702&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学演習Ⅲ(三) : 文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己 杉山 智昭 前期 月曜日 1時限 B211  
の研究課題を明確にする

これまでおこなってきた研究をさらに深化させ、各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を論文にまとめる。

研究発表の内容(内容の充実度で評価)、日常の研究態度(活発に討論に参加できているかなどを評価)などを総合して評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207703&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207703&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学演習Ⅳ(一) : 文化財保存修復の先端的研究課題 比佐 陽一郎 後期 月曜日 3時限 J406

文化財の保存修復の方法と共に、分析・保存修復の先端的研究方法について学ぶ。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視する。講義を通じて自己の研究課題を明確にすると共に研究者としての自立を促す。受講者個々の研究成果に基づいた発表も随時行い、論文の修正や深化を促す。

評価方法は、課題の充実度やレポートを総合的に評価する。評価基準は質問など平常時の取り組み姿勢(30%)・課題の達成度(30%)・レポートの論理性(40%)を評価して総合的に判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207801&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207801&opi=se0020&syw=1)

教科書 必要に応じてプリントを配布。



保存修復学演習Ⅳ(二) : 文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己 魚島 純一 後期 月曜日 2時限 J315  
の研究課題を明確にする。

これまでおこなってきた研究をさらに深化させ、各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を論文にまとめる。

研究発表の内容(内容の充実度で評価)、日常の研究態度(活発に討論に参加できているかなどを評価)などを総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207802&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207802&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学演習Ⅳ(三) : 文化財の保存・修復に関する諸問題を理解し、自己 杉山 智昭 後期 月曜日 1時限 B211  
の研究課題を明確にする

これまでおこなってきた研究をさらに深化させ、各自の研究を深め、発表・討論を重ねることで、さらに課題の絞り込みをおこない、研究を論文にまとめる。

研究発表の内容(内容の充実度で評価)、日常の研究態度(活発に討論に参加できているかなどを評価)などを総合して評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100207803&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100207803&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)特殊講義A(一) : 『令集解』の研究 渡辺 晃宏 前期 月曜日 2時限 A315

法制史料の一つ『令集解』を取り上げます。同書は平安時代に惟宗直本が編纂した養老律令の注釈書の集成で、古代史を研究する際の基本的な史料の一つです。戸令部分を継続して読み進めながら、古代史料の読解力を深めていきます。戸令部分を読み終えたら、引き続き賦役令部分を読み進める予定ですが、受講生の希望があれば、相談の上、読む篇目を決めます(2025年度は、受講生の希望により、宮衛令・公式令・仮寧令の一部を読みました)。

報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219501&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(日本史)特殊講義A(二) : 『令集解』の研究 渡辺 晃宏 後期 月曜日 2時限 A315

法制史料の一つ『令集解』を取り上げます。同書は平安時代に惟宗直本が編纂した養老律令の注釈書の集成で、古代史を研究する際の基本的な史料の一つです。賦役令部分を継続して読み進めながら、古代史料の読解力を深めていきます。なお、受講生の希望があれば、相談の上、読む篇目を決めます(2025年度は、受講生の希望により、宮衛令・公式令・仮寧令の一部を読みました)。

報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219502&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(日本史)特殊講義A(三)：『類聚三代格』を読む 吉川 敏子 前期 金曜日 2時限 B211

『類聚三代格』は律令支配体制およびその変容を研究するための基礎史料の一つである。授業では発表担当者を割り当てて輪読する。発表者には単に割り当てられた史料を読解するだけでなく、参考文献や関連史料を読み進めながら、史料に関する歴史事象を考察して発表することを課す。

発表内容(40%)と期末レポート(60%)で評価する。いずれも史料読解と先行研究の把握、独自視角からの考察ができていないかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219503&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219503&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)特殊講義A(四)：『小右記』を読む 吉川 敏子 後期 金曜日 2時限 B211

『小右記』は藤原実資が10～11世紀に記した日記で、摂関政治全盛期の貴族社会の様相が詳細に記されている。これを講読することで、貴族社会の政治・有職故実・文化・宗教などの実態に触れることができる。また、『小右記』は他の古記録に比べて文体も整っており、古記録の学習を始めるに相応しいテキストである。授業では、学生に輪読部分を割り当てて、輪読しその内容に沿ってディスカッションしながら摂関期の貴族社会について理解を深める。

発表内容(40%)と期末レポート(60%)で評価する。いずれも史料読解と先行研究の把握、独自視角からの考察ができていないかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219504&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219504&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配付



文献史学(日本史)特殊講義B(一)：徳政論 弘安徳政をめぐる論争点について 海津 一朗 前期 火曜日 5時限 J205

弘安徳政とは蒙古襲来の外圧の下で、天皇家が滅亡の危機に瀕するという日本史上最大の革命状況である。これについての諸説と論点を詳細に検討する。

毎回の授業でとりあげた弘安徳政の諸側面と重要性を理解できたか。毎回の講義中の質疑応答と次回報告の正確さから判断評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219601&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)特殊講義B(二)：地域から考える世界史 海津 一朗 後期 火曜日 5時限 J205

学校教育で新科目「歴史総合」ができたように世界史と日本史の架橋は学芸員や教員の喫緊の課題であり、これについて事例研究を行う。毎回参加者が報告する

毎回時間中に回収する小テストと感想文・アンケート、毎回の講義への積極的な参加の有無。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219602&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



文献史学(日本史)特殊講義B(三)：近世史料の読解と歴史的背景の基礎的研究 村上 紀夫 前期 水曜日 3時限 M105

近世の奈良で書かれた史料(『庁中漫録』)を読み進めていく。毎回、担当者を決めて「くずし字」で書かれた史料を順に読み進め、内容について討論をする。特殊講義であるが一方的な講義ではなく、受講生の発表と討論を軸に進めていく。積極的な参加を求める。

報告(70%) 報告内容の充実度を重視する。  
受講態度(30%) 討論の参加への積極性を重視。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219603&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219603&opi=se0020&syw=1)

教科書 担当者がプリント配布



文献史学(日本史)特殊講義B(四)：奈良町触史料の読解と歴史的背景の基礎的研究 村上 紀夫 後期 水曜日 3時限 M105

18世紀に出された奈良の町触れを読み進めていく。毎回、担当者を決めて「くずし字」で書かれた史料を順に読み進め、内容について討論をする。特殊講義であるが一方的な講義ではなく、受講生の発表と討論を軸に進めていく。積極的な参加を求める。

報告(70%) 報告内容の充実度を重視する。  
受講態度(30%) 討論の参加への積極性を重視。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219604&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219604&opi=se0020&syw=1)

教科書 担当者がプリント配布



文献史学(日本史)特殊講義C(三)：史料読解にもとづく大正期・昭和初期の総合的基礎研究 森川 正則 前期 火曜日 4時限 J406

この講義では、対象時期を大正期・昭和初期(1910年代～1930年代初め)に絞り込んだ上で、公文書および個人の日記を読んでいく。毎回、担当者を割り当てて、指定された史料の内容について発表し、参加者全員で討議する。特殊講義ではあるが、発表・討論形式で進めていく。

発表内容と討議への参加度40%、中間レポート30%、期末レポート30%を総合して評価する。発表とレポートいずれも、史料内容の理解度、史料輪読を通じての気づきと発見した問いの妥当性を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219703&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219703&opi=se0020&syw=1)

教科書 教員が指定・配布する史料



文献史学(日本史)特殊講義C(四)：史料読解にもとづく昭和戦前・戦時期と 森川 正則 後期 火曜日 4時限 J406  
敗戦後の総合的基礎研究

この講義では、対象時期を昭和戦前期・戦時期と敗戦後(1930年代・40年代)に絞り込んだ上で、公文書および個人の日記を読んでいく。毎回、担当者を割り当てて、指定された史料の内容について発表し、参加者全員で討議する。特殊講義ではあるが、発表・討論形式で進めていく。

発表内容と討議への参加度40%、中間レポート30%、期末レポート30%を総合して評価する。発表とレポートいずれも、史料内容の理解度、史料輪読を通じての気づきと発見した問いの妥当性を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100219704&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100219704&opi=se0020&syw=1)

教科書 教員が指定・配布する史料



文献史学(外国史)特殊講義(一)：海からみた東アジア 山崎 岳 前期 金曜日 1時限 J314

近代以前の日本と東アジア諸国の関係を主題とする学術論文を精読し、主要学説を体系的に紹介・検討する。前期は東アジア国際関係の枠組みと具体的な外交に焦点を当て、東アジアからみた世界史、そして世界史からみた日本という多角的な考察の視点を提供する。

平時の授業への取り組みによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100222001&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100222001&opi=se0020&syw=1)

教科書



文献史学(外国史)特殊講義(二)：海からみた東アジア 山崎 岳 後期 金曜日 1時限 J314

近代以前の日本と東アジア諸国の関係を主題とする学術論文を読解し、主要学説を体系的に紹介・検討する。後期は海賊や戦乱など軍事的側面に焦点を当て、東アジアからみた世界史、そして世界史からみた日本という多角的な考察の視点を提供する。

平時の授業への取り組みによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100222002&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100222002&opi=se0020&syw=1)

教科書



考古学特殊講義A(一)：考古学研究の実践 岩戸 晶子 前期 火曜日 3時限 J205

建物のうち最もよく目立つ屋根部分には古くからその建物が帯びる性格を表す記号が付されてきました。発掘調査では検出されることが極めて稀な屋根ですが、考古資料に加えて絵画資料や工芸資料もあわせて援用することで、その表象性の変遷を追求し、その歴史的背景について考えます。

レポートや授業中のコメント・質疑応答などから評価します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229101&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229101&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学特殊講義A(三)：日本古代交通史 近江 俊秀 前期 水曜日 1時限 J205

古代国家が造り上げた幹線道路網駅路について、成り立ち、敷設目的、利用などさまざまな観点から解説するとともに、現在もその痕跡を留める駅路の探し方についても解説する。歴史地理学、文献史学、考古学の3つの視点から古代交通を復元する。

授業内での発表、レポート課題、学習到達度確認を基に総合的に評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229103&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229103&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学特殊講義A(四)：日本古代交通史 近江 俊秀 後期 水曜日 1時限 J205

古代から現代にいたる交通マナー、道路と信仰、乗り物、海上交通など交通に係る歴史や文化を多角的に紐解いていく。

授業内での発表、レポート課題、学習到達度確認を基に総合的に評価する

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229104&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229104&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学特殊講義B(一)：土器の考古学的研究 小林 青樹 前期 月曜日 5時限 J205

土器の考古学的研究は遺跡や遺物の年代などを考える上で最も重要である。本講義では、土器の考古学的研究について概観し検討を行なっていく。

小レポート60%、レポート40%(講義を通じて学んだ内容について段階を踏んで理解できているか)。特にオリジナリティを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229201&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229201&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学特殊講義B(二)：土器の考古学研究の諸問題 小林 青樹 後期 月曜日 5時限 J205

土器の考古学研究における方法論と科学的研究は、遺跡や土器をめぐる歴史的事象の解釈にあたって重要な分析の基本である。本講義では、新しい土器の考古学的研究について概観し、その上で、今回は境界、方法論、科学的研究について具体的に検討を行なっていく。

小レポート60%、レポート40%(講義を通じて学んだ実践方法について段階を踏んで理解できているか)。特にオリジナリティを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229202&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229202&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし



考古学特殊講義C(一)：東アジア世界から見た弥生時代社会の成立 豊島 直博 前期 金曜日 2時限 J315

弥生文化の成立には、朝鮮半島や中国からの影響が大きく作用した。その実態を、遺跡と遺物から検証する。講義の内容に関するレポート(A4・1枚程度)に、授業中の質問・発言等を加味して、独自性を基準に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229301&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229301&opi=se0020&svw=1)

教科書



考古学特殊講義C(二)：東アジア世界から見た古墳時代社会の成立 豊島 直博 後期 金曜日 2時限 J315

古墳時代の成立には、朝鮮半島や中国からの影響が大きく作用した。その実態を、遺跡と遺物から検証する。講義の内容に関するA4・1枚程度のレポートに、授業中の質問・発言等を加味し、独自性を基準に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229302&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229302&opi=se0020&svw=1)

教科書



考古学特殊講義C(三)：飛鳥・藤原の王宮・王都・寺院・古墳から探る律令国 相原 嘉之 前期 月曜日 4時限 C306  
家の形成過程(1)

考古資料を素材に多面的な検討を行い、総合的に飛鳥の王宮・王都を解明することにより、律令国家の形成過程を解明する。また、多方面からアプローチするこの研究法は、考古学における歴史研究の方法論を模索するモデルケースとなる。

不定期に実施するレポート作成により、講義内容を理解しているかを問う。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229303&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229303&opi=se0020&svw=1)

教科書 プリントを配布



考古学特殊講義C(四)：飛鳥・藤原の王宮・王都・寺院・古墳から探る律令国 相原 嘉之 後期 月曜日 4時限 C306  
家の形成過程(2)

考古資料を素材に多面的な検討を行い、総合的に飛鳥の王宮・王都を解明することにより、律令国家の形成過程を解明する。また、多方面からアプローチするこの研究法は、考古学における歴史研究の方法論を模索するモデルケースとなる。

不定期に実施するレポート作成により、講義内容を理解しているかを問う。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100229304&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100229304&opi=se0020&svw=1)

教科書 プリントを配布



美術工芸史学特殊講義(一)：仏像と地域史 大河内 智之 前期 水曜日 2時限 B213

仏像(神像を含む)は、信仰の場と密接に結びつきながら、それを必要とした人・集団・地域の画期において制作され、また維持されてきた。仏像がいつ造像され、どのように伝来したのかを追求することで、仏像はそれが伝来してきた地域の歴史の一断面を語りかけてくれる。この授業では仏像が持つ情報を分析する方法を検討し、そこから地域の歴史を叙述する手法について検討する。

講義時に実施する学習到達度確認50%、レポート50%。

仏像から地域史を見つめる視点について理解し、自らの研究テーマにフィードバック出来ているか確認する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100228001&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100228001&opi=se0020&svw=1)

教科書 適宜論文やプリントを配布する



美術工芸史学特殊講義(二)：熊野信仰の美術 大河内 智之 後期 水曜日 2時限 B213

熊野信仰とは、紀伊半島南部の熊野地域で発生したローカルな神祇信仰をもとに、平安時代後期に仏教・山岳信仰と接近する中で阿弥陀信仰と融合して神々の性格が変わり、多数の院の御幸(熊野詣)などを経て全国に爆発的に広まった、日本文化史上に注目される信仰の粹組みである。熊野信仰との関わりのなかで生み出された美術資料を一望しながら、信仰の表象としての美術資料を歴史の中に位置づけ、また美術資料から読み解くことのできる歴史について考える。

講義時に実施する学習到達度確認50%、レポート50%。

熊野信仰について基本的な知識を獲得し、自らの研究テーマにフィードバック出来ているか確認する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100228002&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100228002&opi=se0020&svw=1)

教科書 適宜論文やプリントを配布する



美術工芸史学特殊講義(三) : 日本絵画の技法について 米沢 玲 前期 金曜日 2時限 B213

対面講義を行う。日本美術史上の代表的な作品の内容、様式、制作の状況などを復習し、それぞれの作品のもつ研究課題を講説する。各人の研究課題を持ち寄り、技法上の問題を検討することも予定している。順番は見学すべき展覧会の状況によって入れ替わる可能性がある。

授業参加度40%(出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に配付する)。レポート60%(評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100228003&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100228003&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布



美術工芸史学特殊講義(四) : 説話画とテキスト 米沢 玲 後期 金曜日 2時限 B213

絵巻物や大画面説話画の代表的な作品の内容、絵画様式、制作の状況などを講説する。

授業参加度40%(出席点ではない。積極性などの評価基準については授業中に配付する)。レポート60%(評価基準については講義中にチェックリストを配付する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100228004&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100228004&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学特殊講義(一) : 文化財の保存修復 魚島 純一 前期 月曜日 3時限 J406

文化財保存環境のさまざまな要因ごとの研究、文化財の種別ごとに保存修復、科学分析の実例を講義し、文化財保存・継承のあるべき姿を探究する。現地見学もおこなう。

日常の研究態度(授業に対する積極性、講義中の質問などを重視)、期末レポート(各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価)などを総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100231501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100231501&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学特殊講義(二) : 文化財の保存修復 魚島 純一 後期 月曜日 3時限 J406

文化財保存環境のさまざまな要因ごとの研究、文化財の種別ごとに保存修復、科学分析の実例を講義し、文化財保存・継承のあるべき姿を探究する。

日常の研究態度(授業に対する積極性、講義中の質問などを重視)、期末レポート(各自の研究内容を的確にまとめているかなどを評価)などを総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100231502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100231502&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



情報処理特殊講義(一) : 文化財を対象とした画像計測方法、レーザ計測方法、図面化方法について学ぶ。 正司 哲朗 前期 月曜日 5時限 J203.  
前期 月曜日 5時限 J208

講義形式では、国内外で行われている大型遺跡を対象としたデジタルアーカイブについて、映像を交えて紹介する。また、大型遺跡などを対象にした画像計測、3次元スキャナの原理について概説する。実習形式では、図面化、文化遺産の画像計測、レーザ計測の原理と操作方法、3Dプリンタについて学ぶ。

成績は、レーザ計測課題(30点)、図面化課題(30点)、最終レポート課題(40点)により評価する。各課題は、計測原理を理解し、文化財のデジタル化の課題が明らかにされているかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100232501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100232501&opi=se0020&syw=1)

教科書 illustratorトレーニングブック CG2018/2017/2015/2014/CC/GS6対応 / 広田正康 . ソーテック社 , 018 .



情報処理特殊講義(二) : 情報技術を活用した有形・無形文化財のデジタル化に関する基礎知識の習得と応用力を養う。 正司 哲朗 後期 月曜日 5時限 J203.  
後期 月曜日 5時限 J208

デジタルアーカイブの基本となるカメラの原理や違いについて紹介する。次に、カラーマネジメントについて解説し、さらに、画像処理や展示パネル作成に必要な各種ソフトウェアの操作方法について説明する。最後に、展示パネルの作成方法を解説する。

成績は、カメラの原理に関する課題(20点)、画像処理に関する課題(30点)、カラーマネジメントに関する課題(20点)、展示パネル作成に関する課題(30点)で評価する。各課題は、基本用語の理解、問題点、操作方法、デザイン性などが正しく理解できているかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100232502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100232502&opi=se0020&syw=1)

教科書 web教材利用



情報処理特殊講義(三) : 文化財を対象とした画像計測方法、レーザ計測方法、図面化方法について学ぶ。 正司 哲朗 前期 金曜日 3時限 J203.  
前期 金曜日 3時限 J208

講義形式では、国内外で行われている大型遺跡を対象としたデジタルアーカイブについて、映像を交えて紹介する。また、大型遺跡などを対象にした画像計測、3次元スキャナの原理について概説する。実習形式では、図面化、文化遺産の画像計測、レーザ計測の原理と操作方法、3Dプリンタについて学ぶ。

成績は、レーザ計測課題(30点)、図面化課題(30点)、最終レポート課題(40点)により評価する。各課題は、計測原理を理解し、文化財のデジタル化の課題が明らかにされているかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100232503&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100232503&opi=se0020&syw=1)

教科書 illustratorトレーニングブック CG2018/2017/2015/2014/CC/GS6対応 / 広田正康 . ソーテック社 , 018 .



情報処理特殊講義(四)：情報技術を活用した有形・無形文化財のデジタル化 正司 哲朗  
に関する基礎知識の習得と応用力を養う。

後期 金曜日 3時限 J203.  
後期 金曜日 3時限 J208

デジタルアーカイブの基本となるカメラの原理や違いについて紹介する。次に、カラーマネジメントについて解説し、さらに、画像処理や展示パネル作成に必要な各種ソフトウェアの操作方法について説明する。最後に、展示パネルの作成方法を解説する。



成績は、カメラの原理に関する課題(20点)、画像処理に関する課題(30点)、カラーマネジメントに関する課題(20点)、展示パネル作成に関する課題(30点)で評価する。各課題は、基本用語の理解、問題点、操作方法、デザイン性などが正しく理解できているかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100232504&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100232504&opi=se0020&syw=1)

教科書 web教材利用

文化財修復実習：文化財保存修復技術の習得

魚島 純一

通年 その他 その他 その他

奈良大学・京都芸術大学・京都嵯峨美術大学・京都市立芸術大学・東北芸術工科大学が結成する文化財保存修復大学院インターンシップ協議会が国宝装こう師連盟と協定して、同連盟加盟工房にておよそ1か月の研修をおこない、技術と理念を習得する。



国宝装こう師連盟加盟工房での技術習得度、受講態度、熱意などを総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100235000&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100235000&opi=se0020&syw=1)

教科書 国宝装こう師連盟より配布される

文献史学特論(一)：核時代を検証する：日米関係を中心に

高橋 博子

前期 月曜日 3時限 C201

本講義では広島・長崎の原爆投下や冷戦下で実施された米核実験について、米公文書(マンハッタン計画文書・米原子力委員会文書・米国務省文書など)と、被ばくした人々による証言に注目して検証する。また2017年に国連で採択された核兵器禁止条約など、核廃絶に向けての具体的な動向について取り上げる。さらに米国における原爆・核関連資料の状況について取り上げ、核の時代における日米関係を理解する。



「核の戦後史」についてのレポート(40%)。「核時代を考える」についてのレポート(40%) そのほかコメント(20%)。レポートの評価方法は以下の点を重視する。

- ・課題を読んでいるか
- ・自分の視点で論述しているか
- ・論拠を示し、説得力があるか
- ・歴史的探究心があるか

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280101&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280101&opi=se0020&syw=1)

教科書 核の戦後史 / 木村朗・高橋博子 . 創元社 , 2016年 . 9784422300542

文献史学特論(二)：中央アジアの歴史－中央アジアにおける国民国家の成 立－ 川本 正知

後期 火曜日 3時限 C104

中央アジアとは歴史的にいかなる地域であるかをさまざまな角度から概説する。特に乾燥地帯としての生活の特徴、オアシスおよびオアシス都市のあり方、山間部および砂漠に住む遊牧民の生活、多くの宗教共同体の存在など、今日の中央アジアとその歴史を考える上において基礎的な知識をまず確認する。次に、それらの基礎的な地理的概念の上に、1991年に独立した5つの「国民国家」について国家、国民、民族、文化、伝統などの内容を明らかにしていく。次にこれらの基礎的な知識を前提として、中国に属する新疆ウイグル自治区のウイグル人問題、フェルガナ盆地の原理主義イスラムといったような中央アジアをめぐる今日の問題を解説する。



平常点50%(授業にたいする積極性、課題に真摯にとり組む姿勢を重視)

学期末のレポートによる学習到達度確認50%(中央アジアとはどういった地域であるかを理解しているかどうかを評価する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280102&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280102&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学特論(四)：植物を通してみる人とモノの交流史

久保 利永子

前期 金曜日 1時限 C104

啓蒙の時代(18世紀)のヨーロッパには科学的関心によって国境を越えて結ばれた人的ネットワークが存在した。スウェーデンのカール・リンネは精力的に植物分類体系の構築に取り組み、彼の弟子たちは植物標本採集のために世界各地へ旅立った。植物園は最先端の科学研究の舞台となり、19世紀になると園芸業者やプラントハンター(植物採集者)が世界を舞台に活躍するようになる。本講義ではヨーロッパ、アジアなど異なる地域の人々が植物を通してつながり、モノやコトの交流が行われる様子を社会的に考察する。



授業毎の課題等(70%)と期末レポート(30%)。課題は講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視し、期末レポートは必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280104&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280104&opi=se0020&syw=1)

教科書 毎回、教材(プリント)を配布する

文献史学特論(五) : 「人の移動」よりみる近代日本

長澤 一恵

前期 水曜日 5時限 C203

明治維新後の開国による日本の国際社会への参加は、常に「人の移動」ともなうものであった。とくに日本「帝国」の形成の過程では、欧米、東アジア、太平洋地域の諸社会との間で多くの人口が相互に移動し、移民、租界・租借地、植民地支配といったかたちでの様々な社会接触を経験することとなる。講義では、日本と深い関わりをもつ地域のうち、《中国大陸》を取り上げて、日本帝国の内外に移動する人々を通して戦前期のアジア・太平洋の国際関係について検討するとともに、「人の移動」とそれにともなう国籍、土地所有権、教育権など諸権利の獲得や社会参加への取り組み、そして国際問題の解決について具体的に考察する。



2つの祖国、複数の社会の間で揺れ動く人々の法的権利やアイデンティティを探ることで、近代「国民国家」観念を相対化する視点をも養うことが出来るのではないかと考える。

学習到達度確認40%(試験を行い、講義内容から知識問題、史料問題、論述問題など多角的に理解度を確認する)、授業中に提出する課題レポート30%(図書館・資料館・博物館およびWebアーカイブ調査などを利用して積極的に学習し幅広い知識と深い理解を得たうえでレポートを作成する)、平常点30%(講義内容をノートに取るなど集中して理解を深めること)、を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280105&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280105&opi=se0020&syw=1)

教科書 教科書は使用せず、授業プリントを配布します。

文献史学特論(六) : 排除と包摂の地域史

奥本 武裕

前期 火曜日 3時限 C202

容易に克服できない差別や排除の意識の歴史をたどる。近現代の部落問題に多くの時間をあてることになるが、その理解を深めるために、前近代の社会史にも視野を広げ、多角的に解明していく。そのうえで差別を克服する道筋について社会の持つ包摂という側面にも注視して学びを深めていきたい。なお、この科目は、実務経験のある教員が授業を担当する。担当教員が、企業や団体等の現場における人権啓発に従事した経験もふまえて授業を進めていく。



質問に対する応答、コメントシートの記述などから授業に対する積極性を評価する(30%)。期末レポートの提出を求め、問題意識や論理的な展開などを総合的に評価する(70%)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280106&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280106&opi=se0020&syw=1)

教科書 担当者から資料を配付する

文献史学特論(七) : 大元ウルス(元寇)と中世日本一秀吉はなぜ中国侵攻を

前期 月曜日 2時限 C301

選んだのかについて地域民衆の視点から講義する

鎌倉時代の後期、13世紀末～14世紀前半の動乱について、歴史教科書に出てくるような史実、蒙古襲来・悪党蜂起・蝦夷叛乱・両統迭立・得宗専制・弘安徳政・永仁徳政令・元弘大地震などの史実を説明し、意義を問い直しつつ解明する。この時代には、現代の日本社会を生き抜くうえで不可欠な知恵と教訓が溢れている。日本史の学界では、なぜ鎌倉幕府が滅びたのか、説明できない未解決の謎になっている。このエニグマに迫ろう。



15回の講義は3つの視点から鎌倉時代を考えたものだが、外交・神戦・革命それぞれについての理解度、相互の関係について毎回授業の最後にリブライを行うので、その回答と日常の学習姿勢・熱意から総合的に判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280107&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280107&opi=se0020&syw=1)

教科書

文献史学特論(八) : 近世日本の貧困から現代社会を考える

木下 光生

後期 月曜日 2時限 C104

21世紀の日本は、世界に冠たる「自己責任大好き」社会であり、貧困の公的救済に対して非常に冷たい社会となっている。その歴史的背景に何があるのかを、17世紀以来の長期的かつ比較史的な目線で検討し、貧困救済をめぐる現代日本社会の歴史的な位置を考察していきたい。



期末レポート。大学院生らしく、先行研究を十分ふまえたうえで、講義内容に対して批判的な姿勢がとれているか、を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280108&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280108&opi=se0020&syw=1)

教科書 毎回プリントを配布

文献史学特論(十) : 伊勢参りからみる近世社会

安田 真紀子

前期 月曜日 4時限 C204

江戸時代に爆発的に流行した伊勢参りに焦点をあて、具体的な史料から伊勢参りが発展した背景について考察し、近世庶民の社会観を見直す。



授業期間内に課すレポート70%(講義の内容を正確に把握し、問題意識を持って自分の考えを適切に論じることができているかを総合的に評価する)、授業中随時行う課題30%(基本的な語句の理解、史料内容の理解など講義内容の理解度を確認する)によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280110&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280110&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリントを配布する

文献史学特論(十一)：近世近代移行期における政治社会の形成と「政党」 出水 清之助 前期 木曜日 2時限 C203

19世紀後半の日本で起こった明治維新は、身分制社会を解体するとともに、新たな政治社会の形成を促しました。この授業では、近世から近代にかけて、いかなる政治社会が模索されたのかについて、具体的な事例から検討していきます。その際、特に明治期における「政党」の形成過程に注目します。党派を忌避する観念の強い近世以来の日本社会に、西洋からもたらされた「政党」は、いかなる正当性を示しながら定着していったのでしょうか。移行期の日本社会の状況を踏まえながら、政党の存在を歴史的に問い直します。



①学期末レポートの提出(60%)

授業内容を踏まえつつ、自身の考えを論理的に説明できているかが評価のポイントとなります。

②コメントペーパーによる意見・質問の提出(40%)

興味深かった点、疑問に思った点、考えたことなどを、自身の言葉で書けているかが評価のポイントになります。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280111&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280111&opi=se0020&syw=1)

教科書 毎回プリントを配布するため、使用しない。

文献史学特論(十二)：日本古代の国家と政治—到達点としての摂関政治— 吉江 崇 前期 水曜日 3時限 C201

日本における古代国家の様相を政治史という側面から把握し、古代日本の特質について理解することを目的とする。摂関政治の全盛期ともいえる10世紀後葉から11世紀前葉にかけての政治動向を取り上げ、先行学説を紹介するとともに批判的に検証を行う。こうした作業を通じて、国家の様相やその変遷を客観的に捉える視座を養うことを目指す。



平常点15%(授業への積極的な態度を重視)、小レポート25%(講義内容を自分の言葉でまとめる)、定期試験60%(講義内容の理解及びそれに関する自身の考えの獲得を論述形式で問う)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280112&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280112&opi=se0020&syw=1)

教科書

文献史学特論(十三)：発掘調査や木簡等から読み解く奈良時代史 山本 祥隆 後期 土曜日 2時限 C201

日本史の中において古代、特に奈良時代史はユニークかつ重要な位置を占め、研究対象として好適である。また、奈良時代史を考究することは他の時代や地域の歴史に対する理解の相対化や深化にも資する。本講義では、講師が実際に携わった発掘調査の成果や平城宮・京跡出土木簡等に基づき、より生き生きとした歴史像の構築を目指すことにより、奈良時代史に対する理解を深めることを目標とする。また、歴史の舞台となった奈良で学べる利点を活かすため、学外実習も積極的に行うことを計画している。



期末に、古代史に関するレポートの提出を課す。自ら課題を設定し必要な情報を収集できているか、自分の考えを展開できているかなど、オリジナリティを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280113&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280113&opi=se0020&syw=1)

教科書 特になし

文献史学特論(十四)：中世武家の法と裁判/鎌倉時代編 外岡 慎一郎 後期 火曜日 2時限 C205

中世武家法の端緒を開いた御成敗式目と、数ある鎌倉幕府法令のなかで(鎌倉時代もその後も、さらに今でも)もっとも著名な「徳政令」を素材に、武家法の「思想」と「実践」(裁判はその最たる場面)について、裁許状(判決文)などを駆使しながら立体的に論じていく。



e-learningに掲示された課題に対し提出された答案の採点(総合点)を基準に評価する。学部生より質の高い答案を期待している。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280114&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280114&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学特論(十五)：高麗王朝の歴史を学ぶ 安田 純也 前期 月曜日 2時限 C103

この授業では、朝鮮半島の歴史の形成、展開を振り返るが、今年度は高麗王朝を取り上げる。高麗は約500年の長きにわたって朝鮮半島を支配した王朝であり、朝鮮の伝統文化と中国から伝来した文化が調和をなした時代である。また、高麗の文化財の多くは日本列島各地に伝存しており、高麗は日本と関わりの深い王朝である。授業では、韓国、日本の学界における研究成果を踏まえつつ、高麗王朝の歴史について論じる。



小テスト40%

2回行う。理解度と説明能力を審査する

レポート20%

1回課す。指定の文献を踏まえ、まとめる能力などを審査する

上記以外40%

質問、宿題など

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280115&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280115&opi=se0020&syw=1)

教科書

文献史学特論(十六)：中国古代史概説 葉 勝 前期 木曜日 3時限 C202

中国は隣国として古来より日本と密接な交流があり、日本の文化・社会・制度などにも大きな影響を与えてきた。また、現在の国際社会において中国の重要性はいよいよ高まってきている。そのような中国を深く理解するには、いわばその原型とも言える古代中国の知識が不可欠である。本授業では、文明の萌芽期である新石器時代から、中国最初の帝国である秦漢時代に至るまでの基礎的知識を学ぶことで、大きな歴史の流れをつかむ。



平常点60%(授業の復習として、授業最後に問題を書いたコメントシートを配り、回答を記入してもらい、4点×15回。また質問など積極的な姿勢を評価する)

期末試験40%(定期試験期間(16週目)に実施。)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280116&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280116&opi=se0020&syw=1)

教科書

文献史学特論(十七)：東アジア世界をめぐるイエズス会士群像 阿久根 晋 後期 月曜日 4時限 C201

いわゆる「大航海時代」、ポルトガルとスペインがアフリカ・「新世界」(アメリカ)・アジアの各地で勢力拡大を図るなか、カトリックの諸修道会も海外ミッションの推進に努めた。なかでも新興のイエズス会は、活動領域の広がり、先駆的な布教戦略と通信システム、残した記録の豊かさなどの点でユニークな存在であった。本講義では、16・17世紀の東アジア世界におけるイエズス会士の多面的な活動を追いかけ、そこで見られた東西文化の接触・衝突・融和について探究する。



\* 平常点40%…授業内課題の提出、授業への積極的参加(発問への応答など)

\* 期末レポート60%…独自のテーマ設定、課題解決に向けた適切な文献の活用、全体の構成・叙述面などの観点から評価

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280117&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280117&opi=se0020&syw=1)

教科書 配布資料とプレゼンテーションスライドを使用

文献史学特論(十八)：13-14世紀の西アジア 谷口 淳一 後期 火曜日 2時限 C203

西アジアでは、10世紀にアッバース朝国家が解体した後、新たな国家や社会のしくみが形成されていった。マムルーク朝時代の前半にあたる13世紀後半から14世紀は、その新たな国家体制と社会のしくみが一通り完成をみた時期にあたる。本講義では、この時期におけるエジプトとシリアの歴史を、政治、軍事、国家体制、社会など複数の側面から論じる。ただし、それ以前の時代との関係の理解を深めるために、最初の4回は、イスラームが創始された7世紀から13世紀に至る西アジア史の概略を説明する。



毎回の講義最後の10分間程度で実施する小論述で評価する(100%)。講義内容を正しく理解したうえで、発展的な議論を展開しているか、達意の文章となっているか等の観点から総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280118&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280118&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学特論(十九)：動力と運輸の発達からみる、社会と生活の変化 坂元 正樹 前期 火曜日 2時限 C301

現代に生きる我々にとって、電気や自動車がなくはならない当たり前存在であるのと同じように、昔の人々にとっては水車や馬車が、そして後には蒸気機関が、生活において必要不可欠なものであった。この講義では、動力の発達という観点から、科学、技術、産業の発展について学習する。過去の人々の生活について理解を深めると同時に、現代の社会や生活についても知識を広め、動力やエネルギーの将来についても考えていきたい。



レポート:60%

平常点(毎回、簡単な課題や授業への感想、質問などをGoogle Formsで提出):40%

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280119&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280119&opi=se0020&syw=1)

教科書 毎回プリントを配布する。

文献史学特論(二十)：中世ヨーロッパにおける誓約団体の展開 佐藤 専次 後期 水曜日 4時限 C101

ヨーロッパ中世に現れる多様な社会集団は、しばしば誓約を媒介して成立した。その初期においてはフランク王国のギルド、中世盛期以降になると都市・農村のコミュニティ、教師・学生の共同体である大学も誓約団体であり、さらにスイスという国家そのものも誓約団体から始まっている。ヨーロッパ中世では、このような誓約団体(コンユラティオ)の広範囲な展開からギルド、都市共同体、大学、国家など独特な制度が生まれた。講義では、中世における誓約団体の展開について論じ、誓約とはヨーロッパ中世の人々にとって、どのような意味を持っていたのかについて述べる。



学習到達度確認80% 講義内容を的確に理解し、かつそれを正確に文章化できるかで判断する。

小テスト20% 講義内容について感想・質問を書いてもらう。これによって、いかに講義を理解したか判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280120&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280120&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

文献史学特論(二十一)：近代イギリスにおける探検の社会史 久保 利永子 後期 金曜日 1時限 C104

大きな変革を経験した19世紀、イギリス人は世界各地でさまざまな形の「探検」を行っていた。こうした探検は「文明化の使命」、「科学への貢献」といった美しいスローガンとともに圧倒的な社会的支持を獲得していた。本講義では、とくに北極探検とアフリカ探検に注目し、そのような探検事業の本質と社会的意味、それを支持した19世紀のイギリス社会について理解を深め、さらには科学と政治の関係、他者理解、ナショナリズム、帝国主義、ジェンダーといった今日的な問題についても言及する予定である。



授業毎の課題等(70%)と期末レポート(30%)。課題は講義に取り組む姿勢や講義内容の理解などを重視し、期末レポートは必要かつ適切な情報に基づく議論を論理的に展開しているか評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280121&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280121&opi=se0020&syw=1)

教科書 毎回プリントを配布する

文献史学特論(二十二)：古代ギリシアにおける市民身分と祭祀 山内 暁子 前期 水曜日 2時限 C202

本講義では、古代ギリシアのポリスにおける市民身分と祭祀について考察を試みる。歴史学の基本である文献史料だけでなく、遺物や遺跡、また画像などの「モノ」資料も使用する。それによって現段階で史料から読み取れることを考察し、さらなる展望について検討する。歴史学の基本的な史料解釈に始まり、現代的・学際的な研究手法についても目を向けながら、様々な歴史考察の可能性を考えてみたい。



授業中に出される課題2回(25点×2)と、最終課題(30点)を評価の中心とします。最終課題については、提出していない受講者は単位取得意思がないものとみなしますので、提出をお願いします。Google Classroomで質問や感想を受け付け、私が回答しつつ、ディスカッションになるようにしたいと考えています。Google Classroomへの「質問・感想」の書き込みも評価の対象(20点)となるので、頑張ってください。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280122&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280122&opi=se0020&svw=1)

教科書

文献史学特論(二十三)：日本古代の馬と牧について考える 吉川 敏子 前期 金曜日 1時限 B211

馬の伝来からはじめて、律令国家による馬の統制や、制度の変遷などについて、史学や考古学の先行研究もふまえて講義する。配付される史料や参考文献を用いて考察し、期末レポートとしてまとめることを課す。



期末レポートで評価する。レポートでは史料を用いて考察し、正しい文章で論理的に叙述することを求めるので、受講や読書を通じて、史料の読解力や思考力を養い、十分な推敲をすることが求められる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280123&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280123&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

考古学特論(三)：倭人の祭祀考古学 小林 青樹 後期 月曜日 4時限 C101

縄文時代と弥生時代における人々の祭祀・儀礼・宗教・信仰といった精神世界、心の世界を研究する認知考古学や祭祀考古学の基本的な方法について解説する。そして、古墳時代にいたる日本の先史時代の祭祀・儀礼の意味を考える。



小レポート30%(毎回の講義内容を把握しているか)、レポート70%(学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか)。特にオリジナリティを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280203&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280203&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

考古学特論(四)：縄文文化と弥生文化 小林 青樹 前期 月曜日 4時限 C202

縄文時代と弥生時代の遺跡や遺物から、どのように縄文人の生活や社会の復元ができるのか。土器の見方、動植物考古学など、縄文文化と弥生文化に関する基本的な方法について取り上げる。



小レポート30%(毎回の講義内容を把握しているか)、レポート70%(学んだ課題の文献を正確に読めているか、また論理的な展開をしているか、必要な情報を収集し自分の考えを展開できるか)。特にオリジナリティを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280204&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280204&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

考古学特論(五)：弥生・古墳時代鉄製武器の研究 豊島 直博 前期 金曜日 3時限 C202

弥生時代と古墳時代の遺跡から出土した鉄製武器を手がかりに、当時の政治と社会を考える



講義の内容に関するA4・1枚程度のレポートに、授業中の質問・発言等を加味する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280205&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280205&opi=se0020&svw=1)

教科書

考古学特論(六)：古墳時代の葬制からみた社会と思想 岡林 孝作 後期 水曜日 4時限 C301

古墳時代の葬制を対象とした考古学的分析を通じて、当該時代の社会構造、権力構造、死生観の実態を考察する。具体的には、竪穴式石室・横穴式石室などの埋葬施設、木棺・石棺の諸類型、副葬品配列やモガリ儀礼といった葬送儀礼を主たる分析対象とし、階層性・地域性・時期的変遷に着目した比較検討を行う。考古資料の検討を基盤としつつ、文献史学、文化人類学、文化財科学との接点も意識し、古墳時代葬制の総合的理解を目指すとともに、資料読解力および論理的思考力の深化を図る。



授業への積極性など平常点(30%)、授業の内容に関するレポート(到達目標に照らし、考古資料の理解度および論理的思考力・表現力を総合的に評価)(70%)によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280206&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280206&opi=se0020&svw=1)

教科書 プリントを配布

考古学特論(八)：埋蔵文化財行政学 史跡指定と専門知識 近江 俊秀 前期 水曜日 3時限 C103

重要な遺跡を制度によって保護する方法として文化財保護法第109条による史跡指定がある。史跡指定のために必要な調査と、史跡として価値づけを行うために必要な調査について実際に教員が担当した遺跡を例にあげ、必要な調査と遺跡の評価の仕方について学ぶ。特に、考古学に加え文献史料等、遺跡の評価を多角的に行う必要がある寺院跡など古代の遺跡の史跡指定を例として取り上げる。



平常点50%(講義中の質問など、積極的な態度を重視)、レポート50%(遺跡保護のために必要な専門知識についての理解度、専門職員が果たすべき役割についての理解度を評価する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280208&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280208&opi=se0020&svw=1)

教科書 なし

考古学特論(九)：埋蔵文化財行政学 史跡指定と専門知識 近江 俊秀 後期 月曜日 5時限 B224

重要な遺跡を制度によって保護する方法として文化財保護法第109条による史跡指定がある。史跡指定のために必要な調査と、史跡として価値づけを行うために必要な調査について実際に教員が担当した遺跡を例にあげ、必要な調査と遺跡の評価の仕方について学ぶ。特に、考古学に加え文献史料等、遺跡の評価を多角的に行う必要がある城跡など中世以降の遺跡の史跡指定を例として取り上げる。



平常点50% (講義中の質問など、積極的な態度を重視)、レポート50% (遺跡保護のために必要な専門知識についての理解度、専門職員が果たすべき役割についての理解度を評価する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280209&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280209&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

美術工芸史学特論(一)：絵巻物の研究 米沢 玲 後期 金曜日 4時限 C205

絵巻物の代表的な作品の内容、絵画様式、制作の状況などを講説する。順番は入れ替わる可能性がある。e-learningにより資料配付、参考サイトの掲示も行う。e-learningの登録コードは講義開始前にポータルで掲示する。



平常e-learning課題60% レポート40%(レポートの評価基準は、講義中に配付する「日本語表現チェックリスト」の基準に従う)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280301&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280301&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

美術工芸史学特論(二)：正倉院と正倉院宝物 関根 俊一 前期 月曜日 1時限 C301

正倉院の歴史、建物(校倉)を概観し、ここに伝来した宝物について様々な視点から考察する。毎回プリントを配布し、パワーポイントで画像を提示しながら、講義形式で進めるが、随時、コメントシートの提出を求め受講者の理解度を確認する。必要に応じて正倉院宝物以外の工芸品についても言及する。「モノ」から情報を読み取る力が身につくよう配慮しながら進める。「カラー印刷」した配布プリントは、画像が細部まで必ずしも明瞭でないので、必要に応じて「参考書」等に掲載の画像で確認しておくこと。



学習到達度確認(50%)、コメントシート等(35%)、授業への取り組み姿勢(15%)で総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280302&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280302&opi=se0020&syw=1)

教科書

美術工芸史学特論(三)：日本・東洋美術制作論 米屋 優 後期 金曜日 2時限 C204

古代から近代に至る東洋、日本の美術の制作に関する言説を読みながら、当時の人々が美術を如何に捉えていたか、美術を制作することの意味をどのように考えていたかを探る。そのことを通じて、日本における近代的な自我を持った美術家が誕生する過程を検証する。



毎回、授業時間中に小テストを行い、学習到達度確認を行う。以上の平常点と最終授業日に実施する学習到達度確認により成績を評価する。出席数が不足していた(6回以上の欠席)場合は評価できない。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280303&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280303&opi=se0020&syw=1)

教科書 毎回資料を配布する

美術工芸史学特論(四)：江戸時代のやまと絵について 宮崎 もも 前期 水曜日 2時限 C301

江戸時代のやまと絵の展開について注目する授業です。江戸時代のやまと絵系の流派—土佐派・住吉派・琳派・復古やまと絵派—を中心に取りあげます。江戸時代の絵画史の概要をおさえつつ、やまと絵系の絵師たちの代表的作品を詳しく観察し、その表現の特色や制作背景について考察します。



授業ごとの小問題への対応 30点  
定期試験の点数 70点

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280304&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280304&opi=se0020&syw=1)

教科書

美術工芸史学特論(五)：東アジアの壁画—文化財学としての視点による壁画芸術の理解 岡田 健 前期 月曜日 2時限 C202

従来の壁画研究は、考古学・美術史・宗教学・歴史学・保存科学・修復技術の各分野が個別にその成果を出してきた。しかし壁画芸術がその主題を画像と様式によって表現できるのは、それを実現するための壁画材料と絵画技法があったからである。また、壁画は埋葬空間や宗教空間に配置され、被葬者や副葬品、仏像・仏具などとともにその機能を果たしたことを理解する必要がある。



いっぽう古代の壁画はすべてが著しく劣化しており、これを復元的に見ることができなければ、壁画の真の姿に迫ることができない。

本講義では、長年にわたる敦煌莫高窟をはじめとする中国壁画の調査研究を実践し、高松塚古墳壁画・キトラ古墳壁画の保存修復事業、法隆寺金堂壁の保存活用事業に関わった経験等を活かし、文化財学としての総合的な視点を持って壁画芸術を見ることを論じる。

最終的にレポートによって15回の授業の理解度を評価して成績を判定する。他の概説書やAIなどを引用するだけのレポートには厳しい評価をする。出席数が不足していたり(6回以上の欠席)、レポートの未提出がある場合は評価できない。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280305&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280305&opi=se0020&syw=1)

教科書

保存修復学特論(一)：文化財の自然科学的調査の目的や方法に関する知識 渡辺 智恵美 後期 水曜日 3時限 C301  
を身につける。

自然科学的手法を用いて文化財を調査する文化財科学という分野を理解するために、材質や産地、損傷状況や製作技法などの目的に応じた調査方法について、事例をあげながら講義する。また、文化財分野への応用の歴史や今後の方向性、調査の理念についても理解できるようにする。あわせて、調査用機器を見学し、機器操作や試料の作製方法等についてもより理解を深める。



授業への取り組み方(一例: 予習用に出された課題の内容と提出状況、質問など)、授業中に実施する学習到達度小テスト、および期末レポートにより評価します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280401&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280401&opi=se0020&syw=1)

教科書

保存修復学特論(二)：日本の書画文化財を守るための保存科学とその役割 金 旻貞 前期 月曜日 1時限 C202

本講義では、紙、絹、木などの自然素材からレーヨンなどの工業製品まで、多様な素材で作られた書画文化財の保存方法について学ぶ。特に書画文化財に焦点を当て、保存科学の視点を取り入れた授業を通じて、文化財保存の重要性と技術を深めることを目的としている。保存科学が文化財保護において果たす役割を理解し、理論だけでなく実践的な保存方法を学ぶことで、学生は保存科学の実務的な意義を実感できるようになる。



レスポンスカード: 45%

各回の授業後に提出するレスポンスカードは、授業内容に対する理解を深め、学びを定着させるための重要な評価項目である。評価は3点×15回=45点で、全体の45%を占める。

定期試験: 55%

16週目の前期試験期間に実施される定期試験は、最終評価の55%を占める。試験内容は授業で学んだ内容に基づくが、レポート課題に変更される場合があるため、その際は事前に案内がある。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280402&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280402&opi=se0020&syw=1)

教科書

保存修復学特論(三)：これから文化財保全に関わる方々の基礎的素養とし 横山 操 後期 火曜日 3時限 C203

文化財を「科学の目」で捉える視点を養います。各材質の劣化プロセスを科学的に理解するだけでなく、最新の分析技術と保存倫理、さらには伝統技法と科学的知見の融合について、実地研修を含めた多角的な視点から講義を行います。

本授業では、テキストやスライドを用いた座学を中心に、文化財資料を構成する材料の特性や劣化のメカニズムについて科学的な視点から学びます。講義では劣化した資料の画像や具体的な事例を多く提示し、劣化要因の特定や分析手法について考察を深めます。



また、教室での学びに加え、実際に文化財の修理・保全が行われている現場での「学外研修(実地研修)」を実施します。本物を直接見て、専門家の解説を聞くことで、伝統技法と最新科学の実際や保存倫理のあり方を理解することを目指します。

これらの過程を通じ、文化財の保存に関わる基礎的な思考力・判断力を養い、最終的なレポート課題において自らの考えを論理的に記述できる能力を身につけます。

1 出席

2 レポート課題の提出

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100280403&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100280403&opi=se0020&syw=1)

教科書

# 文化財史料学専攻博士後期課程

## 履修方法

1. 課程の修了要件は、課程に3年以上在学し、下記の授業科目の中から指導教員が担当する特殊研究を含め**12単位以上**修得し（12単位中には、原則として指導教員が担当する科目を複数年にわたって履修した単位を含むものとする）、博士学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。  
\*研究指導は、指導教員が担当する特殊研究の中で行う。
2. 履修に際しては博士学位取得のためのガイドライン〔課程博士〕(P23)、『COLLEGE LIFE』の大学院学則、学位規程、文学研究科履修規則等で確認しておくこと。

## 2026年度 開講科目一覧表

曜 日 時 限	科 目 名	担 当 者	開講 期 間	配 当 年 次	単 位 数	聴講等 可 否	Nコード	履修上の注意事項
月・3	日本史特殊研究Ⅰ	海津 一朗	前期	1・2・3	2	×	CHJH-701G	
月・3	日本史特殊研究Ⅱ	海津 一朗	後期	1・2・3	2	×	CHJH-702G	
水・5	日本史特殊研究Ⅲ	河内 将芳	前期	1・2・3	2	×	CHJH-703G	
水・5	日本史特殊研究Ⅳ	河内 将芳	後期	1・2・3	2	×	CHJH-704G	
水・1	日本史特殊研究Ⅴ	渡辺 晃宏	前期	1・2・3	2	×	CHJH-705G	
水・1	日本史特殊研究Ⅵ	渡辺 晃宏	後期	1・2・3	2	×	CHJH-706G	
金・5	美術工芸史特殊研究Ⅰ	大河内智之	前期	1・2・3	2	×	CHAH-701G	
金・5	美術工芸史特殊研究Ⅱ	大河内智之	後期	1・2・3	2	×	CHAH-702G	
※	美術工芸史特殊研究Ⅲ	—	—	1・2・3	2	—	CHAH-703G	
※	美術工芸史特殊研究Ⅳ	—	—	1・2・3	2	—	CHAH-704G	
火・2	考古学特殊研究Ⅰ	相原 嘉之	前期	1・2・3	2	×	CHAR-701G	
火・2	考古学特殊研究Ⅱ	相原 嘉之	後期	1・2・3	2	×	CHAR-702G	
水・3	考古学特殊研究Ⅲ	豊島 直博	前期	1・2・3	2	×	CHAR-703G	
水・3	考古学特殊研究Ⅳ	豊島 直博	後期	1・2・3	2	×	CHAR-704G	
月・5	保存修復学特殊研究Ⅰ(一)	今津 節生	前期	1・2・3	2	×	CHPS-701G	
月・1	保存修復学特殊研究Ⅰ(二)	比佐陽一郎	前期	1・2・3	2	×	CHPS-701G	
月・5	保存修復学特殊研究Ⅱ(一)	今津 節生	後期	1・2・3	2	×	CHPS-702G	
月・1	保存修復学特殊研究Ⅱ(二)	比佐陽一郎	後期	1・2・3	2	×	CHPS-702G	
火・1	史料学特殊研究Ⅰ	吉川 敏子	前期	1・2・3	2	×	CHHS-701G	
火・1	史料学特殊研究Ⅱ	吉川 敏子	後期	1・2・3	2	×	CHHS-702G	
月・3	国際史料学特殊研究Ⅰ	山崎 岳	前期	1・2・3	2	×	CHIH-701G	
月・3	国際史料学特殊研究Ⅱ	山崎 岳	後期	1・2・3	2	×	CHIH-702G	
※	国際史料学特殊研究Ⅲ	—	—	1・2・3	2	—	CHIH-703G	
※	国際史料学特殊研究Ⅳ	—	—	1・2・3	2	—	CHIH-704G	
その他	学 位 論 文	共同担当	不定期	3	0		CHDT-701G	

※本年度開講せず。

研究指導は、指導教員による特殊研究などにおいて行う。したがって、12単位中には、原則として指導教員が担当する科目を複数年にわたって履修した単位を含むものとする。

日本史特殊研究I：研究課題と実証の構築 日本中世史 海津 一朗 前期 月曜日 3時限 J205

21世紀の歴史学において問題作として日本史・世界史学界を席卷した藤木久志説を史学史的に総括・克服する  
藤木説に対する理解の精度と関係史料の読み込みの精度から判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100401400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100401400&opi=se0020&syw=1)

教科書



日本史特殊研究II：日本中世史の基本的な研究概念・論争・アイテムについて 海津 一朗 後期 月曜日 3時限 J205  
て、史料に即して講読する

前半では基本論文を解説しつつ、要となる史料・方法を抽出して検討する。後半は、各自の問題関心に即して報告を中心  
に批判検討する。授業の順序については前後させる教育上の配慮がありうる。

大学院生にふさわしい執着心で取り組めたか(毎回の課題を克服できたか)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100401500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100401500&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



日本史特殊研究III：日本中世史料の研究 河内 将芳 前期 水曜日 5時限 その他

受講生による研究報告と史料の読解をまじえて授業を展開する。研究報告では、博士論文作成に資する発表とそれ  
に対する質疑応答のくり返しをおこなう。また、史料の読解でも、博士論文作成に資する史料の読解をとおして、その理解  
を深めるとともに、議論を重ねて、研究の段階へとすすめるように鍛錬していく。

研究報告の内容(100%)(報告内容の充実度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100401600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100401600&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



日本史特殊研究IV：日本中世史料の研究 河内 将芳 後期 水曜日 5時限 その他

受講生による研究報告と史料の読解をまじえて授業を展開する。研究報告では、博士論文作成に資する発表とそれ  
に対する質疑応答のくり返しをおこなう。また、史料の読解でも、博士論文作成に資する史料の読解をとおして、その理解  
を深めるとともに、議論を重ねて、研究の段階へとすすめるように鍛錬していく。

研究報告の内容(100%)(報告内容の充実度を重視する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100401700&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100401700&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



日本史特殊研究V：日本古代史料の研究 渡辺 晃宏 前期 水曜日 1時限 その他

次の2点を行う。

- 1、受講生による研究発表を、半期に一人2～4回行い、その内容について、質疑応答を繰り返しながら、研究を深め  
る。
- 2、受講生の研究分野に近い史料をとりあげ、一緒に読み進めながら、論点を掘り下げてゆく。したがって、受講生が決  
まっていない段階では、どの史料を読むかは未定である(以下では、仮に賦役令集解を読む場合を例示する)。  
1の研究発表の合間に2の史料研究を挟んでゆく。

報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100401800&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100401800&opi=se0020&syw=1)

教科書



日本史特殊研究VI：日本古代史料の研究 渡辺 晃宏 後期 水曜日 1時限 その他

次の2点を行う。

- 1、受講生による研究発表を、半期に一人2～4回行い、その内容について、質疑応答を繰り返しながら、研究を深め  
る。
- 2、受講生の研究分野に近い史料をとりあげ、一緒に読み進めながら、論点を掘り下げてゆく。したがって、受講生が決  
まっていない段階では、どの史料を読むかは未定である(以下では、仮に賦役令集解を読む場合を例示する)。  
1の研究発表の合間に2の史料研究を挟んでゆく。

報告内容の充実度と、授業に対する積極性を重視して、総合的に判断する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100401900&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100401900&opi=se0020&syw=1)

教科書



美術工芸史特殊研究I：日本美術史研究 大河内 智之 前期 金曜日 5時限 B213

作品に関する様々なアプローチを可能とするための方法を習得する一環として、前期は主として彫刻作品を念頭におい  
て考察を進めるが、最終的には履修者との相談で内容の修正を行ったうえで決定する。

課題発表の内容(50%)、研究活動の報告(50%)によって評価する。各自が取り上げた作品について、問題点を設定  
し、実証的・論理的に解決への道筋が付けられているかを評価の重要ポイントとする。個々のテーマが異なるので、平  
常時の教員との質疑応答も重視する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100403500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100403500&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜、プリントを配布する



美術工芸史特殊研究II：日本美術史研究

大河内 智之

後期 金曜日 5時限 B213

作品に関する様々なアプローチを可能とするための方法を習得する。彫刻史と地域史という観点を中心に考案を進めるが、最終的には履修者との相談で内容の修正を行ったうえで決定する。

課題発表の内容(50%)、研究状況報告(50%)によって評価する。各自が取り上げた作品について、問題点を設定し、実証的・論理的に解決への道筋が付けられているかを評価の重要ポイントとする。個々のテーマが異なるので、平常時の教員との質疑応答も重視する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100403600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100403600&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜プリントを配布する



考古学特殊研究I：考古学研究の深化。

相原 嘉之

前期 火曜日 2時限 J406

この特殊研究は、受講生の学術研究テーマに従って指導をしていきます。考古学を中心とした研究を前進させ、すぐれた博士論文をまとめられるように、資料の取り扱い、分析方法を点検し、先行研究を越える研究の達成を目指します。

平常点50%(講義への取り組み、講義中のディスカッションへの積極的な参加)、学習到達度50%(歴史考古学の理解度と学融合的な研究の技法の理解度)にもとづいて評価します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100405500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100405500&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学特殊研究II：考古学研究の深化。

相原 嘉之

後期 火曜日 2時限 J406

この特殊研究は、受講生の学術研究テーマに従って指導をしていく。考古学研究を前進させ、すぐれた研究論文をまとめられるように、資料の取り扱い、分析方法を点検し、先行研究を越える研究の達成を目指す。

平常点50%(講義への取り組み、講義中のディスカッションへの積極的な参加)、学習到達度50%(歴史考古学の理解度と学融合的な研究の技法の理解度)にもとづいて評価します。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100405600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100405600&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学特殊研究III：日本と海外の考古学の比較研究

豊島 直博

前期 水曜日 3時限 J406

イギリス考古学の影響を受けて発展した日本考古学は、詳細な観察、記録作成技術の高さにおいて、世界でも高い評価を得ている。一方では、理論研究の低調さや国際的視野の不足などの課題も指摘されている。この演習では、学位論文の成果を受けて独自の研究を進展させるとともに、外国の考古学についても成果を学び、新たな研究視点の開拓を目指す。

具体的には、各自の作業を継続してその成果を発表し、外国考古学については個別論文を読んで内容を議論する。

学生自身の研究内容をまとめた期末レポートと、発表時に作成した資料を加味して、独自性を基準に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100405700&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100405700&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



考古学特殊研究IV：日本と海外の考古学の比較研究

豊島 直博

後期 水曜日 3時限 J406

イギリス考古学の影響を受けて発展した日本考古学は、詳細な観察、記録作成技術の高さにおいて、世界でも高い評価を得ている。一方では、理論研究の低調さや国際的視野の不足などの課題も指摘されている。この演習では、学位論文の成果を受けて独自の研究を進展させるとともに、外国の考古学についても成果を学び、新たな研究視点の開拓を目指す。

具体的には、各自の作業を継続してその成果を発表し、外国考古学については個別論文を読んで内容を議論する。

学生自身の研究内容をまとめた期末レポートと、発表時に作成した資料を加味して、独自性を基準に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100405800&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100405800&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学特殊研究I(一)：文化財の科学調査と保存・修復に関する学術論 今津 節生

前期 月曜日 5時限 J206

文作成に向けた基礎的講義

ディプロマ・ポリシーを達成するために必要なカリキュラムとして、文化財の科学的研究に必要な理論を講義し、理論に基づいた実際の研究例や保存・修復事例について具体的に講義する。また、学生の研究発表に基づいて互いに討論する。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。

ディプロマ・ポリシーに従い、研究者として生涯にわたり主体的に活躍できる有為の人材を育成するために必要な基礎的理論の習得を基準とする。具体的には研究発表の内容(50%)・期末レポートの内容(50%)による評価を行なう。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100406601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100406601&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学特殊研究I(二)：文化財の科学調査と保存・修復に関する学術論 比佐 陽一郎

前期 月曜日 1時限 J406

文作成に向けた基礎的講義

ディプロマ・ポリシーを達成するために必要なカリキュラムとして、文化財の科学的研究に必要な理論を講義し、理論に基づいた実際の研究例や保存・修復事例について具体的に講義する。また、学生の研究発表に基づいて互いに討論する。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。

ディプロマ・ポリシーに従い、研究者として生涯にわたり主体的に活躍できる有為の人材を育成するために必要な基礎的理論の習得を基準とする。具体的には研究発表の内容(50%)・期末レポートの内容(50%)による評価を行なう。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100406602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100406602&opi=se0020&syw=1)

教科書 必要に応じてプリントを配布。



保存修復学特殊研究Ⅱ(一)：様々な文化財の科学調査と保存・修復に関する 今津 節生 後期 月曜日 5時限 J206  
 学術論文作成に向けた講義

様々な文化財の科学調査の研究手法・研究例・保存処理例を講義するとともに、機器分析・保存処理も行う。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。前期の講義よりも、さらに実務の習得を重視し、論理性を高める。

ディプロマ・ポリシーに従い、研究者として生涯にわたり主体的に活躍できる有為の人材を育成するために必要な基礎的理論の習得を基準とする。具体的には研究発表の内容(50%)・期末レポートの内容(50%)による評価を行なう。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100406701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100406701&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



保存修復学特殊研究Ⅱ(二)：様々な文化財の科学調査と保存・修復に関する 比佐 陽一郎 後期 月曜日 1時限 J406  
 学術論文作成

様々な文化財の科学調査の研究手法・研究例・保存処理例を講義するとともに、機器分析・保存処理も行う。また、学生の研究の発表と討論も合わせ行う。講義では研究方法の独自性と理論的思考を重視して、研究者としての自立を促す。前期の講義よりも、さらに実務の習得を重視し、論理性を高める。

ディプロマ・ポリシーに従い、研究者として生涯にわたり主体的に活躍できる有為の人材を育成するために必要な基礎的理論の習得を基準とする。具体的には研究発表の内容(50%)・期末レポートの内容(50%)による評価を行なう。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100406702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100406702&opi=se0020&syw=1)

教科書 必要に応じてプリントを配布。



史料学特殊研究Ⅰ：古代氏族の系譜 吉川 敏子 前期 火曜日 1時限 B207

「円珍俗姓系図」「海部氏系図」などを研究対象とする。史料を読解した上で、先行研究を読んで論旨を整理し、系図が持つ問題点を抽出する。その問題点について各自で検討し、発表し、ディスカッションする。それぞれの系譜・系図についてこれらを繰り返す中で、史料に込められた古代人の認識を各自で考え、学期末に研究レポートを作成する。

授業中の発表(40%)とレポート(60%)とで評価する。先行研究の理解、史料の分析・洞察、論理的な考察・論証などの達成度を評価対象とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100407100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100407100&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配付



史料学特殊研究Ⅱ：古代氏族の系譜 吉川 敏子 後期 火曜日 1時限 B207

「上宮記逸文」「賀茂県主系図」などを研究対象とする。史料を読解した上で、先行研究を読んで論旨を整理し、系図が持つ問題点を抽出する。その問題点について各自で検討し、発表し、ディスカッションする。それぞれの系譜・系図についてこれらを繰り返す中で、史料に込められた古代人の認識を各自で考え、学期末に研究レポートを作成する。

授業中の発表(40%)とレポート(60%)とで評価する。先行研究の理解、史料の分析・洞察、論理的な考察・論証などの達成度を評価対象とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100407200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100407200&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配付



国際史料学特殊研究Ⅰ：東洋史学研究指導 山崎 岳 前期 月曜日 3時限 その他

博士論文の執筆を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。

平時の授業への取り組みによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100408500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100408500&opi=se0020&syw=1)

教科書



国際史料学特殊研究Ⅱ：東洋史学研究指導 山崎 岳 後期 月曜日 3時限 その他

博士論文の執筆を見すえ、以下の三点について、議論を通じて理解を深める。一、特定の研究主題を選んで発表する。二、東洋史の文献を輪読する。三、研究の前提となる技術的な事項を講義する。

平時の授業への取り組みによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100408600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100408600&opi=se0020&syw=1)

教科書



# 地理学専攻修士課程

## 履修方法

1. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、次頁の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に次頁の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。
2. 演習は、4科目8単位を履修すること。  
\*研究指導は、指導教員が担当する演習中で行うので、指導教員が担当する演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを必ず履修すること。
3. 特殊講義は、「自然地理学分野」「人文地理学分野」「地誌学分野」の各分野からそれぞれ2科目ずつ、合計6科目12単位を選択履修すること。
4. 残りの6科目12単位は、指導教員以外の演習（事前に担当教員の了解を得ること。単位として認定する。）、上記3で選択した以外の特殊講義、及び「共通分野」の科目（ただし、特論の履修は4科目8単位までとし、履修に際しては事前に指導教員と相談すること。）から選択履修できる。各分野の特殊講義及び共通分野の科目については、担当者の変更があれば重複履修を認める。2科目4単位については、文学研究科の他専攻の講義科目から履修することもできる。
5. 履修に際しては、修士論文提出要領（P19）、『COLLEGE LIFE』の大学院学則、学位規程、文学研究科履修規則等で確認しておくこと。
6. 専修免許状「社会」「地理歴史」を希望する学生は、P26「専修免許状の取得について」を、「GIS専門学術士」を希望する学生は、P28「GIS専門学術士取得について」を確認すること。

## 2026年度 地理学専攻 開講科目一覧表

曜 日 限 時	科 目 名	担当者 ★は非常勤講師	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の注意事項
金・5	自然地理学分野	自然地理学演習Ⅰ(一)	羽佐田紘大	前期	1	2	×	GEPH-601S
金・5		自然地理学演習Ⅱ(一)	羽佐田紘大	後期	1	2	×	GEPH-602S
金・5		自然地理学演習Ⅲ(一)	羽佐田紘大	前期	2	2	×	GEPH-603S
金・5		自然地理学演習Ⅳ(一)	羽佐田紘大	後期	2	2	×	GEPH-604S
水・4		自然地理学演習Ⅰ(二)	木村 圭司	前期	1	2	×	GEPH-601S
水・4		自然地理学演習Ⅱ(二)	木村 圭司	後期	1	2	×	GEPH-602S
水・4		自然地理学演習Ⅲ(二)	木村 圭司	前期	2	2	×	GEPH-603S
水・4		自然地理学演習Ⅳ(二)	木村 圭司	後期	2	2	×	GEPH-604S
金・4		自然地理学(地形)特殊講義(一)	羽佐田紘大	前期	1・2	2	○	GEPH-501L
金・4		自然地理学(地形)特殊講義(二)	羽佐田紘大	後期	1・2	2	○	GEPH-501L
水・5		自然地理学(気候)特殊講義(一)	木村 圭司	前期	1・2	2	○	GEPH-502L
水・5		自然地理学(気候)特殊講義(二)	木村 圭司	後期	1・2	2	○	GEPH-502L
水・5		自然地理学(環境)特殊講義(一)	芝田 篤紀	前期	1・2	2	○	GEPH-503L
水・5		自然地理学(環境)特殊講義(二)	芝田 篤紀	後期	1・2	2	○	GEPH-503L
月・5	人文地理学分野	人文地理学演習Ⅰ(一)	古関 喜之	前期	1	2	×	GEHG-601S
月・5		人文地理学演習Ⅱ(一)	古関 喜之	後期	1	2	×	GEHG-602S
月・5		人文地理学演習Ⅲ(一)	古関 喜之	前期	2	2	×	GEHG-603S
月・5		人文地理学演習Ⅳ(一)	古関 喜之	後期	2	2	×	GEHG-604S
火・3		人文地理学演習Ⅰ(二)	土平 博	前期	1	2	×	GEHG-601S
火・3		人文地理学演習Ⅱ(二)	土平 博	後期	1	2	×	GEHG-602S
火・3		人文地理学演習Ⅲ(二)	土平 博	前期	2	2	×	GEHG-603S
火・3		人文地理学演習Ⅳ(二)	土平 博	後期	2	2	×	GEHG-604S
※		人文地理学(農村)特殊講義(一)	—	—	1・2	2	—	GEHG-501L
※		人文地理学(農村)特殊講義(二)	—	—	1・2	2	—	GEHG-501L
金・1		人文地理学(歴史)特殊講義(一)	土平 博	前期	1・2	2	○	GEHG-502L
金・1		人文地理学(歴史)特殊講義(二)	土平 博	後期	1・2	2	○	GEHG-502L
火・2		人文地理学(文化)特殊講義(一)	★岡橋 秀典	前期	1・2	2	○	GEHG-503L
火・2		人文地理学(文化)特殊講義(二)	★岡橋 秀典	後期	1・2	2	○	GEHG-503L
水・3	人文地理学(都市)特殊講義(一)	稲垣 稜	前期	1・2	2	○	GEHG-504L	
水・3	人文地理学(都市)特殊講義(二)	稲垣 稜	後期	1・2	2	○	GEHG-504L	
水・2	地誌学分野	地域・地誌学演習Ⅰ(一)	芝田 篤紀	前期	1	2	×	GETS-601S
水・2		地域・地誌学演習Ⅱ(一)	芝田 篤紀	後期	1	2	×	GETS-602S
水・2		地域・地誌学演習Ⅲ(一)	芝田 篤紀	前期	2	2	×	GETS-603S
水・2		地域・地誌学演習Ⅳ(一)	芝田 篤紀	後期	2	2	×	GETS-604S
火・3		地域・地誌学演習Ⅰ(二)	三木 理史	前期	1	2	×	GETS-601S
火・3		地域・地誌学演習Ⅱ(二)	三木 理史	後期	1	2	×	GETS-602S
火・3		地域・地誌学演習Ⅲ(二)	三木 理史	前期	2	2	×	GETS-603S
火・3		地域・地誌学演習Ⅳ(二)	三木 理史	後期	2	2	×	GETS-604S
月・4		地域・地誌学演習Ⅰ(三)	稲垣 稜	前期	1	2	×	GETS-601S
月・4		地域・地誌学演習Ⅱ(三)	稲垣 稜	後期	1	2	×	GETS-602S
月・4		地域・地誌学演習Ⅲ(三)	稲垣 稜	前期	2	2	×	GETS-603S
月・4		地域・地誌学演習Ⅳ(三)	稲垣 稜	後期	2	2	×	GETS-604S
※		地域・地誌学(日本)特殊講義(一)	—	—	1・2	2	—	GETS-501L
※		地域・地誌学(日本)特殊講義(二)	—	—	1・2	2	—	GETS-501L
※	地域・地誌学(先進地域)特殊講義(一)	—	—	1・2	2	—	GETS-502L	
※	地域・地誌学(先進地域)特殊講義(二)	—	—	1・2	2	—	GETS-502L	
火・4	地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義(一)	三木 理史	前期	1・2	2	○	GETS-503L	
火・4	地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義(二)	三木 理史	後期	1・2	2	○	GETS-503L	
※	共通	地理情報学特殊講義(一)	—	—	1・2	2	—	GECO-501L
※		地理情報学特殊講義(二)	—	—	1・2	2	—	GECO-501L
※		自然地理学特論(一)	—	—	1・2	2	—	GECO-502L
金・5		自然地理学特論(二)	木村 圭司	後期	1・2	2	○	GECO-502L
※		人文地理学特論(一)	—	—	1・2	2	—	GECO-503L
火・2		人文地理学特論(二)	土平 博	後期	1・2	2	○	GECO-503L
※		人文地理学特論(三)	—	—	1・2	2	—	GECO-503L
※		地域・地誌学特論(一)	—	—	1・2	2	—	GECO-504L
火・1		地域・地誌学特論(二)	三木 理史	後期	1・2	2	○	GECO-504L
月・1		地域・地誌学特論(三)	稲垣 稜	後期	1・2	2	○	GECO-504L
その他		国内巡検計画法Ⅰ	稲垣 稜	前期不定期	1・2	1	×	GECO-505P
その他		国内巡検計画法Ⅱ	稲垣 稜	後期不定期	1・2	1	×	GECO-506P
その他		外国巡検計画法Ⅰ	古関 喜之	前期不定期	1・2	1	×	GECO-507P
その他		外国巡検計画法Ⅱ	古関 喜之	後期不定期	1・2	1	×	GECO-508P
その他	学 位 論 文	共同担当	不定期	2	0		GEDT-601G	

※本年度開講せず

自然地理学演習I(一)：自然地理学、特に地形学に関する修士論文作成に向 羽佐田 紘大 前期 金曜日 5時限 J314  
 けての準備(前半)

地形学に関する論文を読み込んで従来の研究動向を理解するとともに、テーマや調査対象地域の設定方法や資料収集方法を学ぶ。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100302501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100302501&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。



自然地理学演習II(一)：自然地理学、特に地形学に関する修士論文作成に 羽佐田 紘大 後期 金曜日 5時限 J314  
 向けての準備(後半)

地形学の研究に関する、データの分析方法、図表による表現方法、論文の執筆方法、研究発表方法を学ぶ。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100302601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100302601&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。



自然地理学演習III(一)：修士論文の作成(前半) 羽佐田 紘大 前期 金曜日 5時限 J314

自然地理学、特に地形学に関する修士論文の作成を目指す。

授業への参加状況(出席状況、中間発表の内容、議論への参加の程度など)で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100302701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100302701&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜紹介する。



自然地理学演習IV(一)：修士論文の作成(後半) 羽佐田 紘大 後期 金曜日 5時限 J314

夏休みまでに収集した各種資料・データを分析し、その結果を図表にまとめ、最終的に修士論文を完成させる。

授業への参加状況(出席状況、中間発表の内容、議論への参加の程度など)で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100302801&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100302801&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。



自然地理学演習I(二)：自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する修士 木村 圭司 前期 水曜日 4時限 J206  
 論文作成に向けての準備

自然地理学のうち、特に気候学・水文学をテーマとする修士論文作成のための準備を行う。学術論文を輪読して既存研究に関する理解を深め、調査・解析方法を学び、論文の作成方法を体得する。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100302502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100302502&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない



自然地理学演習II(二)：自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する修 木村 圭司 後期 水曜日 4時限 J206  
 士論文作成に向けての準備

自然地理学のうち、特に気候学・水文学をテーマとする修士論文作成のための準備を行う。学術論文を輪読して既存研究に関する理解を深め、調査・解析方法を学び、論文の作成方法を体得する。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100302602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100302602&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない



自然地理学演習III(二)：自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する修 木村 圭司 前期 水曜日 4時限 J206  
 士論文の作成

自然地理学のうち、特に気候学・水文学をテーマとする修士論文の作成を行う。また、修士論文を作成するために、関連する学術論文を輪読し、先行研究で残されている課題などを整理する。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100302702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100302702&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない



自然地理学演習IV(二)：自然地理学のうち、特に気候学・水文学に関する修 木村 圭司 後期 水曜日 4時限 J206  
 士論文の作成

自然地理学のうち、特に気候学・水文学をテーマとする修士論文の作成を行う。また、修士論文を作成するために、関連する学術論文を輪読し、先行研究で残されている課題などを整理する。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100302802&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100302802&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない



自然地理学(地形)特殊講義(一)：地形学の基本的事項 羽佐田 紘大 前期 金曜日 4時限 J314

本講義では、さまざまな地域、規模の地形を対象として、それらの特徴や形成過程、成因などについて解説していく。講義中に多くの図や写真を示し、視覚的に理解できるように努める。さらに、地形図などを用いながら、対象地域の地形の特徴と人々の暮らしとの関係を理解していく。



小テスト(基本的な内容を理解しているかを確認)や小課題(講義内容を基に考察できているかを確認)により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100313501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100313501&opi=se0020&syw=1)

教科書 毎回教材を配布

自然地理学(地形)特殊講義(二)：さまざまな地形への理解 羽佐田 紘大 後期 金曜日 4時限 J314

本講義では、さまざまな地域、規模の地形を対象として、それらの特徴や形成過程、成因などについて、多数の空中写真や地形図を基に解説していく。



小テスト(基本的な内容を理解しているかを確認)や小課題(講義内容を基に考察できているかを確認)により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100313502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100313502&opi=se0020&syw=1)

教科書 毎回教材を配布

自然地理学(気候)特殊講義(一)：自然地理学のうち、水文学・気候学に関する理論を知り、世界の最新の研究結果に触れる。 木村 圭司 前期 水曜日 5時限 J206

主に気候学的内容を扱う。さまざまな時間スケールと空間スケールで展開する気候学的内容を多面的に把握し、その相互関係や人間への影響などについて解説・考察する。



小テストと複数回のレポート等により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100314501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100314501&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない

自然地理学(気候)特殊講義(二)：自然地理学のうち、水文学に関する理論を知り、世界の最新の研究結果に触れる。 木村 圭司 後期 水曜日 5時限 J206

主に水文学的内容を扱う。さまざまな時間スケールと空間スケールで展開する気候学・水文学的内容を多面的に把握し、その相互関係や人間への影響などについて解説・考察する。



小テストと複数回のレポート等により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100314502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100314502&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない

自然地理学(環境)特殊講義(一)：自然地理学からみる地球環境(前半) 芝田 篤紀 前期 水曜日 5時限 J315

自然地理学とは、地球環境を構成する諸要素を総合的・有機的に捉える地理学の一分野であるが、環境の要素には人間もまた含まれる。この講義では、日本や世界各地の自然環境の基本やそのしくみを学び、その多様さや関係性についての理解を目指す。



第15回の授業内で実施する確認テストによって、到達目標に示した項目に対する到達度を評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100315501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100315501&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。

自然地理学(環境)特殊講義(二)：自然地理学からみる地球環境(後半) 芝田 篤紀 後期 水曜日 5時限 J315

この講義では、自然地理学(環境)特殊講義(一)の授業内容を踏まえ、災害・防災や持続可能社会などといった環境との関わりで人間が直面する問題を通じて、自然環境と人間との相互作用的關係を理解し、説明する能力の獲得を目指す。



第15回の授業内で実施する確認テストによって、到達目標に示した項目に対する到達度を評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100315502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100315502&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。

人文地理学演習I(一)：修士論文作成に向けた人文地理学の演習を通じて、古関 喜之 前期 月曜日 5時限 地理実習室(A114)  
論理的思考力、コミュニケーション能力、地域をみる視点を養成した上で、修士での研究基礎を構築する。

農村地理学・農業地理学に関する修士論文作成に向け、研究テーマを設定する。具体的には自分の興味関心に沿ったテーマの文献を収集し講読することを通して、自ら研究課題を設定し、資料を収集し、現地調査を実施するための基礎的な調査能力を身につける。そのための指導を行う。



授業への参加意欲を平常点として評価し、それに発表、討論の評価を加える。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100306501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100306501&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない

人文地理学演習II(一)：修士論文作成に向けた人文地理学の演習を通じて、古関 喜之 後期 月曜日 5時限 地理実  
論理的思考力、コミュニケーション能力、地域をみる視点を養成した上で、修士 習室(A114)  
での研究基礎を構築する。

人文地理学演習 I の成果をふまえて、農村や農業、農産物流通、フードシステムなどに関して、研究課題を明確にし、  
調査地域を選定し、研究構想、調査計画について指導する。

授業への参加意欲を平常点として評価し、それに発表、討論の評価を加える。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100306601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100306601&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない



人文地理学演習III(一)：修士論文作成に向けた人文地理学の演習を通じて、古関 喜之 前期 月曜日 5時限 地理実  
論理的思考力、コミュニケーション能力、地域をみる視点を養成した上で、修士 習室(A114)  
での研究基礎を構築する。

研究や論文執筆の実践力を高めるため、研究および論文執筆の方法論を学習するとともに、それをもとに実際に論文  
の準備を進め、発表と質疑により、実践的研究指導を行う。

授業への参加意欲を平常点として評価し、それに発表、討論の評価を加える。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100306701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100306701&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない



人文地理学演習IV(一)：修士論文作成に向けた人文地理学の演習を通じ 古関 喜之 後期 月曜日 5時限 地理実  
て、論理的思考力、コミュニケーション能力、地域をみる視点を養成した上で、 習室(A114)  
修士での研究基礎を構築する。

研究や論文執筆の実践力を高めるため、研究および論文執筆の方法論を学習するとともに、それをもとに実際に論文  
の準備を進め、発表と質疑により、実践的研究指導を行う。

授業への参加意欲を平常点として評価し、それに発表、討論、課題(成果物)の評価を加える。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100306801&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100306801&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない



人文地理学演習I(二)：人文地理学に関する資料収集や調査の実施 土平 博 前期 火曜日 3時限 B316

人文地理学に関する修士論文を作成するために、地域構造、社会生活、経済活動、歴史的な経緯などにとくに留意し、  
各自、研究テーマを設定する。地域や空間の諸問題を解き明かすために、指導教員は地図の活用、景観調査の実施  
方法について関連づけながら指導する。

資料分析の結果、各自の研究テーマに沿った発表、討論を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100306502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100306502&opi=se0020&syw=1)

教科書 ジオ・パルNEOー地理学・地域調査便利帖 / 野間晴雄ほか . 海青社, 2017 . 978-4-86099-315-3 C0025



人文地理学演習II(二)：人文地理学に関する資料収集や調査の実施と修士 土平 博 後期 火曜日 3時限 B316  
論文の準備

人文地理学に関する修士論文を作成するために、地域構造、社会生活、経済活動、歴史的な経緯などにとくに留意し、  
各自、研究テーマを設定する。地域や空間の諸問題を解き明かすために、指導教員は景観調査・聞き取り調査・アン  
ケート調査の実施方法について関連づけながら指導する。

資料分析の結果、各自の研究テーマに沿った発表、討論を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100306602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100306602&opi=se0020&syw=1)

教科書 ジオ・パルNEOー地理学・地域調査便利帖 / 野間晴雄ほか . 海青社, 2017 . 978-4-86099-315-3 C0025



人文地理学演習III(二)：修士論文作成にむけた人文地理学に関する演習一 土平 博 前期 火曜日 3時限 B316  
分析と報告を中心に

各自が人文地理的な研究テーマにそって資料収集や地域調査をおこなって分析し、その結果をまとめていながら、修  
士論文の作成を目指す。その際に指導教員は必要な調査方法や分析、まとめ方について一貫して指導する。

資料分析の結果、各自の研究テーマに沿った発表、討論を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100306702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100306702&opi=se0020&syw=1)

教科書 ジオ・パルNEOー地理学・地域調査便利帖 / 野間晴雄ほか . 海青社, 2017 . 978-4-86099-315-3 C0025



人文地理学演習IV(二)：修士論文作成にむけた人文地理学に関する演習一 土平 博 後期 火曜日 3時限 B316  
修士論文の完成にむけて

各自が人文地理的な研究テーマにそって資料収集や地域調査をおこなって分析し、その結果をまとめていながら、修  
士論文の作成を目指す。指導教員はその際に必要な調査方法や分析、まとめ方について一貫して指導する。

資料分析の結果、各自の研究テーマに沿った発表、討論を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100306802&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100306802&opi=se0020&syw=1)

教科書 ジオ・パルNEOー地理学・地域調査便利帖 / 野間晴雄ほか . 海青社, 2017 . 978-4-86099-315-3 C0025



人文地理学(歴史)特殊講義(一)：地域と地誌書 土平 博 前期 金曜日 1時限 J205

近世や近代に記された地誌書の解説を通じて歴史地誌について関心を深める。、その一方で現代の地理的諸現象をとらえながら、地域の深層に迫っていく。受講生の関心によって地域を設定し、また境界の問題についてとりあげ、討論していく。そのうえで指定地域の地誌書をまとめる。

研究に取り組む姿勢、授業内容に関する討論、課題の内容によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100318501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100318501&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし。



人文地理学(歴史)特殊講義(二)：地籍資料と景観 土平 博 後期 金曜日 1時限 J205

近世・近代の地籍資料をもとに、土地の丈量や帳簿、絵図・地図について説明していく。一見、数字と文字の羅列にすぎない管理帳簿であるが、それは土地の状態を知ることができる貴重な資料である。土地の所有関係や履歴といった本来の作成の目的にあった情報が得られるだけでなく、地理学の景観研究では有用な資料となり、土地の変化にとどまらず景観の変化を追い求めることができる可能性を秘めている。そのようなユニークな地籍資料についてさまざまな角度から解説をしていく。

研究に取り組む姿勢、授業内容に関する討論、課題の内容によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100318502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100318502&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



人文地理学(文化)特殊講義(一)：我々の生活は様々な地域と深い関わりをもっている。急速に過疎化する山村もその一つである。国民から見えにくくなっている現代の山村の特徴、課題、その将来像を検討する。 岡橋 秀典 前期 火曜日 2時限 地理実習室(A114)

過疎化が進む日本の山村について、地理学的な視点からその存立構造を論ずる。さらに、その将来像についても検討する。

授業への参加度、期末のレポートによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100320501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100320501&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



人文地理学(文化)特殊講義(二)：我々の生活は様々な地域と深い関わりをもっている。急速に過疎化する山村もその一つである。国民から見えにくくなっている現代の山村の特徴、課題、その将来像を検討する。 岡橋 秀典 後期 火曜日 2時限 地理実習室(A114)

過疎化が進む日本の山村について、地理学的な視点からその存立構造を論ずる。山村のむらおこし、山村問題の構造などから、日本の山村の存立構造を総合的に考察する。

授業への参加度、期末のレポートによる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100320502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100320502&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



人文地理学(都市)特殊講義(一)：地域は多様な姿を見せているが、そうした 稲垣 稜 前期 水曜日 3時限 J208.  
様々な地域事象についての都市地理学的な見方を提示する 前期 水曜日 3時限 J315

現代社会は、多様であると同時に共通性も持っている。こうした事象を理解しようとする、非常に多岐にわたる点を理解しなければならない。この授業では、地理学に入門するにあたって、特に理解しておいた方がよいと思われるテーマを厳選し、基礎的な事象を中心に取り上げる。

授業中に実施する小テストをもとに評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100317501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100317501&opi=se0020&syw=1)

教科書



人文地理学(都市)特殊講義(二)：地域は多様な姿を見せているが、そうした 稲垣 稜 後期 水曜日 3時限 J208.  
様々な地域事象についての都市地理学的な見方を提示する 後期 水曜日 3時限 J315

現代社会は、多様であると同時に共通性も持っている。こうした事象を理解しようとする、非常に多岐にわたる点を理解しなければならない。この授業では、地理学に入門するにあたって、特に理解しておいた方がよいと思われるテーマを厳選し、基礎的な事象を中心に取り上げる。

授業中に実施する小テストをもとに評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100317502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100317502&opi=se0020&syw=1)

教科書



地域・地誌学演習I(一)：地域の自然環境に関する修士論文作成に向けての 芝田 篤紀 前期 水曜日 2時限 地理実習室(A114)  
準備(前半)

地域研究、地誌学のうち、特に地域の自然環境に関連する論文を読み、従来の研究動向を理解するとともに、テーマや調査対象地域の設定方法や資料収集方法を学ぶ。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310501&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。



地域・地誌学演習II(一)：地域の自然環境に関する修士論文作成に向けての 芝田 篤紀 後期 水曜日 2時限 地理実  
準備(後半) 習室(A114)

地域研究、地誌学のうち、特に地域の自然環境に関するデータの分析方法、図表による表現方法、論文の執筆方法、  
研究発表方法を学ぶ。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310601&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310601&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。



地域・地誌学演習III(一)：地域の自然環境に関する修士論文の作成(前半) 芝田 篤紀 前期 水曜日 2時限 地理実  
習室(A114)

地域研究、地誌学のうち、特に地域の自然環境をテーマとする修士論文の作成を行う。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310701&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310701&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。



地域・地誌学演習IV(一)：地域の自然環境に関する修士論文の作成(後半) 芝田 篤紀 後期 水曜日 2時限 地理実  
習室(A114)

地域研究、地誌学のうち、特に地域の自然環境をテーマとする修士論文の作成を行う。

作業状況・発表・討論を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310801&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310801&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。



地域・地誌学演習I(二)：修士論文作成に向けた地誌学に関する卒業演習を 三木 理史 前期 火曜日 3時限 J203.  
通じて、コミュニケーション能力を養えるように努める。 前期 火曜日 3時限 J315

地誌学(特に人文分野)に関する修士論文作成を通じて、地域構造、社会生活、経済活動、人口変化、に留意し、その  
過程で地形図の利用と作業、空間データの利用と作業にもさらなる磨きをかけ、現地調査では景観調査、聞き取り調  
査、質問票調査、地図化を一貫して指導する。

報告・討論を平常点(50%)として評価し、それにレポートの評価(50%)を加えて評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310502&opi=se0020&syw=1)

教科書 最新版 大学生のためのレポート・論文術 / 小笠原 喜康 . 講談社, 2018 . 9784065135020 ジオ・パルNEO  
—地理学・地域調査便利帖 / 野間 晴雄ほか . 海青社, 2012 . 9784860992651



地域・地誌学演習II(二)：修士論文作成に向けた地誌学に関する卒業演習を 三木 理史 後期 火曜日 3時限 J203.  
通じて、コミュニケーション能力を養えるように努める。 後期 火曜日 3時限 J315

地誌学(特に人文分野)に関する修士論文作成を通じて、地域構造、社会生活、経済活動、人口変化、に留意し、その  
過程で地形図の利用と作業、空間データの利用と作業にもさらなる磨きをかけ、現地調査では景観調査、聞き取り調  
査、質問票調査、地図化を一貫して指導する。

報告・討論を平常点(50%)として評価し、それにレポートの評価(50%)を加えて総合評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310602&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310602&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



地域・地誌学演習III(二)：修士論文作成に向けた地誌学に関する卒業演習を 三木 理史 前期 火曜日 3時限 J203.  
通じて、コミュニケーション能力を養えるように努める。 前期 火曜日 3時限 J315

地誌学(特に人文分野)に関する修士論文作成を通じて、地域構造、社会生活、経済活動、人口変化、に留意し、その  
過程で地形図の利用と作業、空間データの利用と作業にもさらなる磨きをかけ、現地調査では景観調査、聞き取り調  
査、質問票調査、地図化を一貫して指導する。

報告・討論を平常点(50点)として評価し、それにレポートの評価(50点)を加えて総合評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310702&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310702&opi=se0020&syw=1)

教科書 最新版 大学生のためのレポート・論文術 / 小笠原 喜康 . 講談社, 2018 . 9784065135020



地域・地誌学演習IV(二)：修士論文作成に向けた地誌学に関する卒業演習 三木 理史 後期 火曜日 3時限 J203.  
を通じて、コミュニケーション能力を養えるように努める。 後期 火曜日 3時限 J315

地誌学(特に人文分野)に関する修士論文作成を通じて、地域構造、社会生活、経済活動、人口変化、に留意し、その  
過程で地形図の利用と作業、空間データの利用と作業にもさらなる磨きをかけ、現地調査では景観調査、聞き取り調  
査、質問票調査、地図化を一貫して指導する。

報告・討論を平常点(50点)として評価し、それにレポートの評価(50点)を加えて総合評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310802&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310802&opi=se0020&syw=1)

教科書



地域・地誌学演習I(三) : 地域・地誌学に関する資料文献収集や調査の実施 稲垣 稜

前期 月曜日 4時限 地理実  
験室(A129)前期 月曜日 4  
時限 J208

地域・地誌学に関する修士論文を作成するために、空間構造、経済活動、文化活動などにとくに留意し、研究テーマを設定する。さまざまな地域の諸問題を解明するため、地図の活用、データ収集、文献資料の読み方について指導する。発表、討論を総合して評価する。



[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310503&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310503&opi=se0020&syw=1)

教科書

地域・地誌学演習II(三) : 地域・地誌に関する文献収集や調査の実施 稲垣 稜

後期 月曜日 4時限 地理実  
験室(A129)後期 月曜日 4  
時限 J208

都市構造、地域形成、空間構造などに関して、研究テーマを設定する。それらの諸問題を解き明かすために、聞き取り調査・アンケート調査の実施方法について指導する。



発表、討論を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310603&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310603&opi=se0020&syw=1)

教科書

地域・地誌学演習III(三) : 地域・地誌学に関する修士論文の資料文献収集や 稲垣 稜  
調査の実施

前期 月曜日 4時限 地理実  
験室(A129)前期 月曜日 4  
時限 J208

地域・地誌学に関する修士論文を作成するために、空間構造、経済活動、文化活動などにとくに留意し、研究テーマを設定する。さまざまな地域の諸問題を解明するため、地図の活用、データ収集、文献資料の読み方について指導する。発表、討論を総合して評価する。



[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310703&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310703&opi=se0020&syw=1)

教科書

地域・地誌学演習IV(三) : 地域・地誌に関する修士論文の完成 稲垣 稜

後期 月曜日 4時限 地理実  
験室(A129)後期 月曜日 4  
時限 J208

都市構造、地域形成、空間構造などに関して、修士論文を作成する。そのために、聞き取り調査・アンケート調査の実施方法について指導する。



発表、討論を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100310803&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100310803&opi=se0020&syw=1)

教科書

地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義(一) : 日本植民地としての樺太に関 三木 理史  
する歴史地理学的考察を通じて、地誌学とはどのように地域を分析するのかを  
考える。

前期 火曜日 4時限 J208.  
前期 火曜日 4時限 J315

樺太の植民地地形形成史に関する担当者の自著を中心に授業を構成するが、それはあくまで議論の「素材提供」であり、目的はそれにもとづく討論を通じたディスカッション能力の錬磨に置く。以下の講義計画は「目次」を提示したもので、それをすべて講義するわけではない。受講生の関心や傾向を考慮し、適当と考える「素材」で講義を行う。そのためテーマや内容の変更があり得る。



レポート(50点)と平常点(討論など50点)を合計して100点で評価する。レポートは基本概念の確認をと講義内容の正確な理解の検証、討論ではコミュニケーション能力を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100322501&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100322501&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

地域・地誌学(発展途上地域)特殊講義(二) : 日本植民地としての樺太に関 三木 理史  
する歴史地理学的考察を通じて、地誌学とはどのように地域を分析するのかを  
考える。

後期 火曜日 4時限 J208.  
後期 火曜日 4時限 J315

樺太の植民地地形形成史に関する担当者の自著を中心に授業を構成するが、それはあくまで議論の「素材提供」であり、目的はそれにもとづく討論を通じたディスカッション能力の錬磨に置く。以下の講義計画は「目次」を提示したもので、それをすべて講義するわけではない。受講生の関心や傾向を考慮し、適当と考える「素材」で講義を行う。そのためテーマや内容の変更があり得る。



レポート(50点)と平常点(50点)を合計して100点で総合評価する。レポートは基本概念の確認と講義内容の正確な理解の検証し、討論ではコミュニケーション能力を評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100322502&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100322502&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし

自然地理学特論(二) : ArcGIS Proを使った、高度なGIS技術の修得 木村 圭司 後期 金曜日 5時限 地理実習室(A114)

各自が所有するWindows11のノートパソコンを持参し、ArcGIS Proをインストールした後、GISを使いこなせるようにしていく。毎回の授業で、課題が与えられ、期日までに提出することで、授業の理解を深め、技術を定着させる。GIS解析に関して、実践的で、かなり高度な内容を含む。

毎回だされる課題を期日までにGoogle Classroomに提出(50%)と、期末レポート(50%)を合算して評価する。毎回の課題提出者を出席者とし、出席が8回以下の受講生は評価の対象としない。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100380102&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100380102&opi=se0020&syw=1)

教科書 特になし



人文地理学特論(二) : 近世城下町と「陣屋町」 土平 博 後期 火曜日 2時限 C403

江戸期の城下町は全国各地に建設された代表的な近世都市といえる。まずは、城下町の成立、形態と構造に関する先行研究の成果を紹介していく。その一方で城下町に類似した陣屋町について紹介していく。その後、城・城下町ならびに陣屋・陣屋町を比較しながら、その相違を明らかにしていく。その際、とくに陣屋・陣屋町の特徴を見いだすことを目標とする。また、「陣屋町」の概念規定に取り組んできた先行研究をふまえて問題点を整理し、今後の研究課題についても検討する。さらに、町並み保存の対象になっている陣屋町についても紹介していく。以下の通り実施する。なお、オンラインでの実施を含む。

学習到達度確認(講義の内容を正確に把握しているかを論述形式で問う)60%と平常授業時の課題(授業に対する積極性ならびに基本的な語句の理解度等講義内容の理解度を確認する)40%によって評価する。オンラインで実施する内容を含む。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100380202&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100380202&opi=se0020&syw=1)

教科書 使用しない。



地域・地誌学特論(二) : 交通地理学の位置づけや諸説をできるだけ幅広く、 三木 理史 後期 火曜日 1時限 C401  
紹介し、地理学の交通研究を概説する。

系統地理学の一分野に位置づけられる交通地理学の基礎的事項をできるだけ幅広く講義して理解してもらう。講義では、まず青木栄一「交通地理学を考える(一)」を講読することで、その学的成立を概観したうえで、これまでの研究内容をできるだけ幅広く概説する。またノートテイクにおけるPCの活用を歓迎する。

授業内試験または学期末レポート(50点前後)と平常点を合計して100点で評価する。3分2以上の出席を受験条件とする。また、平常点加算のために平常レポートを課すこともある。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100380302&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100380302&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



地域・地誌学特論(三) : 日本の都市の特徴の考察 稲垣 稜 後期 月曜日 1時限 A130

現代の日本では、全人口の7~8割が都市に居住している。それゆえ、都市は、日本全体の中でもきわめて重要な位置にあるといえる。この授業では、都市の経済社会的な状況を理解したうえで、さまざまな地域の特性が把握できるようになることを目的とする。

授業内での小課題により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100380303&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100380303&opi=se0020&syw=1)

教科書 日本の都市百選 第1集 / 牛垣雄矢ほか・古今書院、2023年・9784772261227



国内巡検計画I : 国内巡検を実施するために必要な準備を学ぶ 稲垣 稜 前期 その他 その他 学外

日帰りの小巡検、3~4泊の国内大巡検の計画を実際に行う。そしてその計画について議論を行って修正を重ね、実際の巡検に取り入れていく

計画された巡検案の完成度により評価を行う。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_10033010&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_10033010&opi=se0020&syw=1)

教科書 指定しない



国内巡検計画II : 国内巡検を実施するために必要なまとめ方を学ぶ 稲垣 稜 後期 その他 その他 学外

日帰りの小巡検、3~4泊の国内大巡検の計画を実際に行ったあと、効果的なまとめができるようにする

計画されたまとめ方の完成度により評価を行う。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_10033020&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_10033020&opi=se0020&syw=1)

教科書 指定しない



外国巡検計画I : 台湾を訪問し、日本と異なる自然・人文・社会・文化を実体験する 古関 喜之 前期 その他 その他 学外

台湾の多くの地理的事象を観察する予定である。これらを現地で実体験し、国際社会への視野を広げる。

事前学習への取り組み、報告書の内容などから総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100331100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100331100&opi=se0020&syw=1)

教科書 随時配布する。



外国巡検計画Ⅱ：台湾を訪問し、日本と異なる自然・人文・社会・文化を実体 古関 喜之

後期 その他 その他 学外

台湾の多くの地理的事象を観察する予定である。これらを現地で実体験し、国際社会への視野を広げる。  
事前学習への取り組み、報告書の内容などから総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026.1.100331200&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026.1.100331200&opi=se0020&svw=1)

教科書 随時配布する。

---



# 社会学研究科

※各科目の担当者のうち、担当者名の前に★のついている担当者は、非常勤講師です。

※臨床心理学コースは、他専攻・コース、科目等履修生、聴講生及び特別聴講学生の履修は認めていません。



# 社会学専攻修士課程 社会文化研究コース

## 履修について

1. 社会学専攻には、「社会文化研究コース」と「臨床心理学コース」がある。コース決定後は、コースの変更はできない。  
コースにより履修科目が異なるため、科目履修に際しては充分注意すること。
2. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、所定の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に所定の授業科目の中から最低20単位以上修得していること。

## 「社会文化研究コース」の履修方法

①演習科目は、「社会文化研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の4科目8単位を修得すること。

\*研究指導は、指導教員が担当する演習において行う。主研究指導者は演習担当教員とし、他に2名の大学院担当教員を充てる。

研究指導者は入学年度の4月の教員ガイダンスにて決定する。

②選択必修科目は、A群から10科目20単位以上、B群から2科目4単位以上を選択履修すること。

③「専門社会調査士」の資格を希望する学生は、P29「専門社会調査士取得について」を確認すること。

④社会文化研究コース生で、社会心理学特論Ⅰ・Ⅱの履修を希望するものは、選択A群の社会心理学特論Ⅰ・Ⅱを履修すること。

臨床心理学コースで開講される選択必修C群の社会心理学特論の履修は認めない。もし、履修して合格しても社会文化研究コースの選択A群の科目として認めない。

## 2026年度 社会学専攻 社会文化研究コース 開講科目一覧表

曜日 時限	科目名		担当者	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の注意事項
火・3	必 修	社会文化研究演習Ⅰ(一)	吉村 治正	前期	1	2	×	SOSO-601S	毎年度2科目以上 合計4科目8単位を 修得すること
火・4		社会文化研究演習Ⅰ(二)	與久田 巖	前期	1	2	×	SOSO-601S	
水・3		社会文化研究演習Ⅰ(三)	村上 史朗	前期	1	2	×	SOSO-601S	
火・4		社会文化研究演習Ⅰ(四)	太田 仁	前期	1	2	×	SOSO-601S	
火・3		社会文化研究演習Ⅱ(一)	吉村 治正	後期	1	2	×	SOSO-602S	
火・4		社会文化研究演習Ⅱ(二)	與久田 巖	後期	1	2	×	SOSO-602S	
水・3		社会文化研究演習Ⅱ(三)	村上 史朗	後期	1	2	×	SOSO-602S	
火・4		社会文化研究演習Ⅱ(四)	太田 仁	後期	1	2	×	SOSO-602S	
火・3		社会文化研究演習Ⅲ(一)	吉村 治正	前期	2	2	×	SOSO-603S	
火・4		社会文化研究演習Ⅲ(二)	與久田 巖	前期	2	2	×	SOSO-603S	
水・3		社会文化研究演習Ⅲ(三)	村上 史朗	前期	2	2	×	SOSO-603S	
火・4		社会文化研究演習Ⅲ(四)	太田 仁	前期	2	2	×	SOSO-603S	
火・3		社会文化研究演習Ⅳ(一)	吉村 治正	後期	2	2	×	SOSO-604S	
火・4		社会文化研究演習Ⅳ(二)	與久田 巖	後期	2	2	×	SOSO-604S	
水・3		社会文化研究演習Ⅳ(三)	村上 史朗	後期	2	2	×	SOSO-604S	
火・4		社会文化研究演習Ⅳ(四)	太田 仁	後期	2	2	×	SOSO-604S	
火・1	選 群 A	社会学特論Ⅰ	吉村 治正	前期	1・2	2	○	SOSO-501L	10科目20単位 以上を修得 すること
火・1		社会学特論Ⅱ	吉村 治正	後期	1・2	2	○	SOSO-502L	
※		文化人類学特論Ⅰ	—	—	1・2	2	—	SOSA-501L	
※		文化人類学特論Ⅱ	—	—	1・2	2	—	SOSA-502L	
火・3		社会心理学特論Ⅰ	村上 史朗	前期	1・2	2	○	SOSP-501L	
火・3		社会心理学特論Ⅱ	村上 史朗	後期	1・2	2	○	SOSP-502L	
金・3		応用社会学特論Ⅰ	尾上 正人	前期	1・2	2	○	SOSO-503L	
金・3		応用社会学特論Ⅱ	尾上 正人	後期	1・2	2	○	SOSO-504L	
※		応用人類学特論Ⅰ	—	—	1・2	2	—	SOSA-503L	
※		応用人類学特論Ⅱ	—	—	1・2	2	—	SOSA-504L	
火・5		応用社会心理学特論Ⅰ	與久田 巖	前期	1・2	2	○	SOSP-503L	
火・5		応用社会心理学特論Ⅱ	與久田 巖	後期	1・2	2	○	SOSP-504L	
月・2		情報学特論Ⅰ	正司 哲朗	前期	1・2	2	○	SOSB-501L	
金・4		情報学特論Ⅱ	正司 哲朗	後期	1・2	2	○	SOSB-502L	
※		経済学特論Ⅰ	—	—	1・2	2	—	SOSC-501L	
※		経済学特論Ⅱ	—	—	1・2	2	—	SOSC-502L	
水・1		経営学特論Ⅰ	倉 光巖	前期	1・2	2	○	SOSD-501L	
水・1		経営学特論Ⅱ	倉 光巖	後期	1・2	2	○	SOSD-502L	
水・3		選 群 B	社会調査法特論	吉村 治正	前期	1・2	2	○	
水・3	多変量解析法特論		吉村 治正	後期	1・2	2	○	SOSR-502L	
月・1	質的調査法特論		中原洪二郎	前期	1・2	2	○	SOSR-503L	
月・1	統計解析法特論		中原洪二郎	後期	1・2	2	○	SOSR-504L	
その他	必修	学位論文	共同担当	不定期	2	0	△	SODT-601G	

※本年度開講せず

社会文化研究演習I(一)：社会学的思考の修得 吉村 治正 前期 火曜日 3時限 B317

学部の卒論と異なり、修士論文では自らの学問的立脚点を問われる。学問としての立場の不明瞭な論文は、研究論文として認められない。そこで本科目では、社会学という学問の基本的性格を改めて整理・確認する作業を行う。

授業への貢献度ならびに期末レポート。上記授業内容のうち、指示したテーマについてレポートを作成、提出してもらう。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100620101&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100620101&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



社会文化研究演習I(二)：社会心理学に関する修士論文の研究指導(1) 與久田 巖 前期 火曜日 4時限 J206

先行研究の精読を通して研究テーマを設定し、問題意識を明確化する。そして、研究計画の立案を行う。

演習への取り組み姿勢50%(授業に向けての課題などを評価)、各回の発表内容50%(報告内容の質を評価)により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100620102&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100620102&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



社会文化研究演習I(三)：規範の社会心理学 村上 史朗 前期 水曜日 3時限 B317

社会心理学のみならず、哲学、法学、経済学など社会科学全般において、規範は主要な概念のひとつである。本演習では、議論の基礎となる知見を共有するために、心理学に限らず規範に関する文献を講読する。併せて、それらの知見を批判的に再検討し、各自の研究の視座を確立することを目的とする。

毎回の小レポート(30%:理解度の確認)、演習への取り組み姿勢(20%:準備や質疑の質を評価)、最終レポート(50%:研究計画書の質を評価)を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100620103&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100620103&opi=se0020&syw=1)

教科書 資料を配付する。



社会文化研究演習I(四)：対人関係の基礎理論を学ぶ(愛着理論・対人認知・太田 仁 前期 火曜日 4時限 B118  
社会心理学と臨床心理学の接点を知る) -2

本ゼミでは、対人心理学を基盤として、人と人との相互作用が心理的適応や精神的健康にどのような影響を及ぼすかを検討する。1年次前期では、愛着理論を中心に、対人関係の形成・維持・変容を説明する基礎理論を学び、社会心理学と臨床心理学を架橋する視点を養う。

授業参加・討論(40%)  
ミニレポート(60%)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100620104&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100620104&opi=se0020&syw=1)

教科書



社会文化研究演習II(一)：既存研究レビューの技能修得 吉村 治正 後期 火曜日 3時限 B317

修士論文をどのようなテーマにするにせよ、修士論文では、そのテーマについてどのような学問的立場からどのような議論が展開されているかを整理し、その上で社会学という自らの学問的立場からどのように議論を展開するかが問われる。本科目では、履修者各自の修士論文テーマについて、他の学問領域を含めた、いわば見取り図を描き、その中で自己の研究を位置づける作業を行う。

学期末に修士論文テーマに関する既存研究をまとめたレポートを作成してもらい、これを評価の主たる対象とする。なお、このレポートは実際に修士論文を作成する際の基礎資料となる。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100620201&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100620201&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



社会文化研究演習II(二)：社会心理学に関する修士論文の研究指導(2) 與久田 巖 後期 火曜日 4時限 J206

研究計画に沿って予備調査を実施、解析し、考察を行い、本研究に備える。

演習への取り組み姿勢50%(授業に向けての課題などを評価)、各回の発表内容50%(報告内容の質を評価)により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100620202&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100620202&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



社会文化研究演習II(三)：研究計画の立案 村上 史朗 後期 水曜日 3時限 B317

研究計画立案のためには、(1)テーマ設定、(2)そのテーマの先行研究のレビュー、(3)そのテーマの研究展望と当該研究の学問的意義、等の整理が必要となる。発表と修正を繰り返しつつ、研究計画のブラッシュアップを図る。

毎回の課題(30%:内容を評価)、演習への取り組み姿勢(30%:準備や授業時の発言を評価)、最終レポート(40%:研究計画書を評価)を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100620203&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100620203&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



社会文化研究演習II(四)：相補性理論と孤独・排除の心理学	太田 仁	後期 火曜日 4時限 B118 -2
<p>2年次では自殺予防心理学を主題とする。前期ではJoinerの自殺の対人関係理論を中心に、所属感の欠如・負担感と自殺念慮の関連を社会心理学的・臨床心理学的観点から検討する。</p> <p>授業参加(30%) 文献要約・レポート(70%)</p> <p><a href="https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620204&amp;opi=se0020&amp;syw=1">https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620204&amp;opi=se0020&amp;syw=1</a></p> <p>教科書</p>		
社会文化研究演習III(一)：社会調査データの入手計画の立案	吉村 治正	前期 火曜日 3時限 B317
<p>修士論文では既存研究のレビューだけでなく、新しい発見が求められる。これに必要な新しい情報を、時間・労力・経費・その他の制約の中でどのように効率的に入手・分析するかを学んでもらう。</p> <p>学期末に修士論文経過報告を兼ねたレポートを提出してもらい、これを評価の対象とする。</p> <p><a href="https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620301&amp;opi=se0020&amp;syw=1">https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620301&amp;opi=se0020&amp;syw=1</a></p> <p>教科書 なし</p>		
社会文化研究演習III(二)：社会心理学に関する修士論文の研究指導(3)	與久田 巖	前期 火曜日 4時限 J206
<p>予備調査を踏まえて本研究の研究計画を作成し、本研究を実施、解析し、考察する。</p> <p>演習への取り組み姿勢50%(授業に向けての課題などを評価)、各回の発表内容50%(報告内容の質を評価)により総合的に評価する。</p> <p><a href="https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620302&amp;opi=se0020&amp;syw=1">https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620302&amp;opi=se0020&amp;syw=1</a></p> <p>教科書 なし</p>		
社会文化研究演習III(三)：修士論文研究の実践	村上 史朗	前期 水曜日 3時限 B317
<p>履修生の研究計画に基づき、研究の実践と進捗報告、経過に関する討論を中心に行い、学期内に研究データの収集を完了させる。</p> <p>演習への取り組み姿勢(50%:課題の準備等を評価)、各回の報告内容(50%:報告内容の質を評価)、を総合して評価する。</p> <p><a href="https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620303&amp;opi=se0020&amp;syw=1">https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620303&amp;opi=se0020&amp;syw=1</a></p> <p>教科書 なし</p>		
社会文化研究演習III(四)：対人関係ゼミIII — Joinerの自殺の対人関係理論 —	太田 仁	前期 火曜日 4時限 B118 -2
<p>2年次では自殺予防心理学を主題とする。前期ではJoinerの自殺の対人関係理論を中心に、所属感の欠如・負担感と自殺念慮の関連を社会心理学的・臨床心理学的観点から検討する。</p> <p>・討論への貢献(40%) ・研究レポート(60%)</p> <p><a href="https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620304&amp;opi=se0020&amp;syw=1">https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620304&amp;opi=se0020&amp;syw=1</a></p> <p>教科書</p>		
社会文化研究演習IV(一)：修士論文作成指導	吉村 治正	後期 火曜日 3時限 B317
<p>本科目では、修士論文作成のための具体的な指導(論文構成・既存研究レビューの論点確認・データ処理の内容確認・註および図表の書式指導など)を行う。</p> <p>提出された修士論文の内容を評価対象とする。</p> <p><a href="https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620401&amp;opi=se0020&amp;syw=1">https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620401&amp;opi=se0020&amp;syw=1</a></p> <p>教科書 なし</p>		
社会文化研究演習IV(二)：社会心理学に関する修士論文の研究指導(4)	與久田 巖	後期 火曜日 4時限 J206
<p>予備研究、本研究を踏まえて修士論文を完成させる。授業は発表とディスカッションを中心に進める。</p> <p>演習への取り組み姿勢50%(授業に向けての課題などを評価)、各回の発表内容50%(報告内容の質を評価)により総合的に評価する。</p> <p><a href="https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620402&amp;opi=se0020&amp;syw=1">https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620402&amp;opi=se0020&amp;syw=1</a></p> <p>教科書 なし</p>		
社会文化研究演習IV(三)：修士論文研究指導	村上 史朗	後期 水曜日 3時限 B317
<p>各自が修士論文研究のテーマについて社会心理学的なアプローチから研究を行うとともに、その経過について討論を通じてブラッシュアップを重ね、修士論文としてふさわしい研究成果を得る。</p> <p>演習への取り組み(50%:課題への準備等を評価)、各回の報告(50%:発表内容の質を評価)、を総合して評価する。</p> <p><a href="https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620403&amp;opi=se0020&amp;syw=1">https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&amp;sk=2026_1_100620403&amp;opi=se0020&amp;syw=1</a></p> <p>教科書 なし</p>		

社会文化研究演習Ⅳ(四)：対人関係ゼミⅣ 太田 仁 後期 火曜日 4時限 B118  
 — Schneidman・Van Orden理論と統合的自殺予防 — -2

後期では、Schneidman、Van Ordenらの理論を取り上げ、対人関係と心理的苦痛の理解を深化させる。理論統合を通して、実践的自殺予防モデルの構築を目指す。

- ・発表・討論(50%)
- ・最終レポート(50%)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100620404&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100620404&opi=se0020&syw=1)

教科書



社会学特論Ⅰ：コミュニティ調査の方法論に関する専門書(洋書)の輪読 吉村 治正 前期 火曜日 1時限 J314

S. Lieberman "Makint It Count"を参加者全員で輪読する。社会科学の専門書の読解法を、一年間の授業を通じて体得してもらう。履修者の能力に合わせてペースを加減するが、一年間で一冊の本を読み切ることを目標とする。

授業への参加度・貢献度を評価の対象とする。学期末にノートの提出を求めることがある。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100621100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100621100&opi=se0020&syw=1)

教科書 Making It Count:The Improvement of Social Research and Theory / Stanley Lieberman . University of California Press , 1987 . 978-0520060371



社会学特論Ⅱ：コミュニティ調査の方法論に関する専門書(洋書)の輪読 吉村 治正 後期 火曜日 1時限 J314

S. Lieberman "Makint It Count"を参加者全員で輪読する。社会科学の専門書の読解法を、一年間の授業を通じて体得してもらう。履修者の能力に合わせてペースを加減するが、一年間で一冊の本を読み切ることを目標とする。

授業への参加度・貢献度を評価の対象とする。学期末にノートの提出を求めることがある。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100621200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100621200&opi=se0020&syw=1)

教科書 Making It Count:The Improvement of Social Research and Theory / Stanley Lieberman . University of California Press , 1987 . 978-0520060371



社会心理学特論Ⅰ：道徳性の社会心理学 村上 史朗 前期 火曜日 3時限 J314

近年の道徳心理学研究で中心的な役割を果たすジョナサン・ハイトの著作の購読を中心に、適宜ディスカッションを行い理解を深める。

発表(内容およびプレゼンテーション:50%)及びディスカッションへの貢献(積極性と建設的批判:50%)を総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100637100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100637100&opi=se0020&syw=1)

教科書 社会はなぜ左と右にわかれるのか:対立を超えるための道徳心理学 / ジョナサン・ハイト . 紀伊國屋書店 , 2014 . 978-4-314-01117-4



社会心理学特論Ⅱ：文化的規範と社会的認知 村上 史朗 後期 火曜日 3時限 J314

文化と社会的認知を中心に、近年の研究論文を輪読し、その内容についてディスカッションする。取り上げる文献は、JPSPをはじめとする社会心理学分野の主要な雑誌論文を中心に選定する。

発表(40%:課題論文の内容の報告)、ディスカッションへの貢献(25%:発言内容と積極性)、授業内課題への取り組み(35%:毎回の提出コメント)を総合して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100637200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100637200&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



応用社会学特論Ⅰ：日本社会の特殊性を、雇用・階層・福祉から見る 尾上 正人 前期 金曜日 3時限 J206

アベグレンが「日本的経営」を定式化して半世紀以上が経つが、その衰退・崩壊を説く議論が何度も現れた一方で、実態としては根強く存続している。また、日本国民の「中流意識」も、総中流社会の終焉が何度も言われながら、いまだに高い割合を維持している。これらに代表される、日本社会の過去・現在・未来について展望したい。この授業では、日本社会の特殊性について文献講読を中心に授業を進め、折に触れて教員によるレクチャーとディスカッションを行なう形式をとる。

授業中の発表の内容(文献を読みこなし上での確かな意見・論点を付け加えているか)60%、授業に対する積極性40%(講義中の質問、他の発表者に対する意見表明などを積極的に行なっているかどうか)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100622500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100622500&opi=se0020&syw=1)

教科書 日本社会のしくみ / 小熊英二 . 講談社 , 2019 . 4065154294



応用社会学特論Ⅱ：日本人論を批判的に見る 尾上 正人 後期 金曜日 3時限 J206

日本人の性質を「集団主義」「恥」「甘え」といった概念で特異的に捉える議論がかつては隆盛していたが、現在ではそれらに対する批判的な論調も勢いを増している。この授業では日本人論についての文献講読を中心に授業を進め、折に触れて教員によるレクチャーとディスカッションを行なう形式をとる。

授業中の発表の内容(文献を読みこなし上での確かな意見・論点を付け加えているか)60%、授業に対する積極性40%(講義中の質問、他の発表者に対する意見表明などを積極的に行なっているかどうか)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100622600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100622600&opi=se0020&syw=1)

教科書 「日本人」という、うそ / 山岸俊男 . 筑摩書房 , 2015 . 448043304X



応用社会心理学特論Ⅰ：集団浅慮の社会心理学 與久田 巖 前期 火曜日 5時限 J206

アーヴィング・L・ジャンスの著作の講読を中心に行い、ディスカッションを通して、集団浅慮についての社会心理学的な理解を深める。

発表50%：発表内容を評価する。  
ディスカッション30%：発表内容を踏まえた上で自己の見解を論理的に展開しているか評価する。  
学期末レポート20%：自己の見解を論理的に記述しているか評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100623500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100623500&opi=se0020&syw=1)

教科書 集団浅慮：政策決定の大失敗の心理学的研究 / アーヴィング・L・ジャンス(著)細江達郎(訳)・新曜社、2022 . ISBN 978-4-7885-1770-7 C1011



応用社会心理学特論Ⅱ：影響力と説得の社会心理学 與久田 巖 後期 火曜日 5時限 J206

ロバート・チャルディーニの著作の講読を中心に行い、適宜ディスカッションを通して、影響力と説得についての社会心理学的な理解を深める。

発表50%：発表内容を評価する。  
ディスカッション30%：発表内容を踏まえた上で自己の見解を論理的に展開しているか評価する。  
学期末レポート20%：自己の見解を論理的に記述しているか評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100623600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100623600&opi=se0020&syw=1)

教科書 PRE-SUATION：影響力と説得のための革命的瞬間 / ロバート・チャルディーニ・誠信書房、2017 .



情報学特論Ⅰ：社会調査に必要なWebアンケートの設計と実装を行う。 正司 哲朗 前期 月曜日 2時限 B309

紙ベースとWebアンケートの違いについて解説する。次に、シンプルなWebアンケートを実装するために必要な技術として、HTML言語、PHP言語、SQL言語に概説する。最後に独自アンケートを設計・実装する方法について説明する。

成績は、HTMLに関する課題(20点)、PHP言語に関する課題(20点)、SQL言語に関する課題(20点)、Webアンケートに関する課題(40点)で評価する。各課題では、正しく機能しているかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100624100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100624100&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布



情報学特論Ⅱ：社会調査で得られたデータを統計分析するための基礎を学ぶ。 正司 哲朗 後期 金曜日 4時限 B309

R言語を学び、統計処理の基本について解説し、実際に社会調査で得られたデータを分析し、データを解釈する方法について説明する。

成績は、一変数に関する課題(20点)、二変数に関する課題(20点)、検定と推定に関する課題(20点)、多変数解析に関する課題(20点)、発表課題(20点)で評価する。各課題は、正しく統計処理が行われているかどうかを評価基準とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100624200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100624200&opi=se0020&syw=1)

教科書 Rによる統計解析 / 青木繁伸・オーム社、2009 .



経営学特論Ⅰ：企業が外部の利害関係者に対して、経営成績や財政状態を報告する目的で実施している財務会計を総合的かつ体系的に講義する。 倉 光巖 前期 水曜日 1時限 B118-1

企業と外部の利害関係者との間で行われる情報提供機能や利害調整機能を果たす財務会計と会計ルールに則って作成された財務諸表について研究する。本講義においては財務会計の基礎的な知識から上級レベルまでを講義し、企業会計原則、証券取引法、会社法のもとで、企業が財務会計を行う内容や我が国の会計基準を包括的に取り上げる。本講義のテキストには桜井久勝著『財務会計講義』(最新版)を使用する。

講義の中で行う質問への回答内容と講義期間中の試験成績を総合的に判断して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100625100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100625100&opi=se0020&syw=1)

教科書 財務会計講義(第27版) / 桜井久勝・中央経済社、2026 . 9784502583612



経営学特論Ⅱ：企業が外部の利害関係者に報告している財務諸表の分析を通じて、企業の諸特性を評価するための手法を体系的に講義する。 倉 光巖 後期 水曜日 1時限 B118-1

投資者や債権者をはじめとする外部利害関係者は自己の利益を守るため、投資対象企業に対し、合理的な経済的意思決定を行おうとするが、その際には企業の収益性、リスクの程度、成長性などを判断基準とする。本講義においては企業が公表する財務諸表を情報源泉として企業の収益性・安定性・成長性を評価するための技術を講義する。本講義のテキストには桜井久勝著『財務諸表分析』(最新版)を使用する。

講義の中で行う質問への回答内容と講義期間中に行う試験成績を総合的に判断して評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100625200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100625200&opi=se0020&syw=1)

教科書 財務諸表分析(第9版) / 桜井久勝・中央経済社、2024 . 978-4-502-48991-4



社会調査法特論：社会調査の設計 吉村 治正 前期 水曜日 3時限 J314

社会調査を計画・実施していくうえでの具体的な知識を教授し、実践的な技能を習得してもらう。

平常点および提出物(期末レポート)。上記内容に関して学期末にレポートの提出を求める。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100626100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100626100&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



多変量解析法特論：多変量解析の技法の理解 吉村 治正 後期 水曜日 3時限 J314

社会調査データの分析に必要な多変量解析の技術を、講義と実際の調査データの分析演習を通じて習得してもらう。学期末にデータファイルを渡すので、これを分析しレポートとしてまとめてもらう。このレポートを評価対象とする。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100626300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100626300&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



質的調査法特論：質的調査における主観的世界の自己観察 中原 洪二郎 前期 月曜日 1時限 B118  
-1

ともすれば、質的調査は量的調査と対比的に語られ、主観性が高く客観性が低いことが「科学的研究」の方法論として不適切であるとの批判を招く。しかし両者の違いは単に主観性/客観性の高低ではなく、観察の中心的な対象が分析装置としての自己なのか、あるいは外部装置による分析結果としての他者なのか、という点にある。何を言っているのか分からない諸君は、ぜひこの講義を受講してもらいたい。

総合評価=毎回の課題評価(100%)

課題の評価基準:(要求課題に沿っている and 講義の内容を踏まえている and 論理的に一貫している) and (独自の視点が盛り込まれている or 批判的視点が盛り込まれている)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100626500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100626500&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜資料を配付する



統計解析法特論：社会学的研究における多変量データ解析の理解 中原 洪二郎 後期 月曜日 1時限 B118  
-1

この講義では、統計的分析の理論的な理解を重視する。その上で、実際に社会学的研究論文で用いられている実例を引きながら、分析結果の意味を読み取るスキルと、実際に分析を行うスキルの両方に関する課題をこなすことで、応用的な力をつける。

総合評価=毎回の課題評価(100%)

課題の評価基準:(要求課題に沿っている and 講義の内容を踏まえている and 論理的に一貫している) and (独自の視点が盛り込まれている or 批判的視点が盛り込まれている)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100626700&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100626700&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜資料を配付する





# 社会学専攻修士課程 臨床心理学コース

## 履修について

1. 専攻には、「社会文化研究コース」と「臨床心理学コース」がある。コース決定後は、コースの変更はできない。  
コースにより履修科目が異なるため、科目履修に際しては充分注意すること。
2. 課程の修了要件は、課程に2年以上在学し、所定の授業科目の中から32単位以上修得し、修士の学位論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。なお、修士の学位論文を提出する場合は、1年次終了時に所定の授業科目の中から**最低20単位以上**修得していること。

## 「臨床心理学コース」の履修方法

- ①演習科目は、「臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」及び「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・臨床心理査定演習Ⅱ」の6科目12単位を必修とする。  
\*研究指導は、指導教員が担当する「臨床心理学演習」において行う。主研究指導者は演習担当教員とし、他に2名の大学院担当教員を充てる。  
研究指導者は入学年度の4月の教員ガイダンスで決定する。
- ②実習科目は、「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習」の2科目4単位を必修とする。
- ③特論科目は「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」及び「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）・臨床心理面接特論Ⅱ」の4科目8単位を必修とする。
- ④「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）・臨床心理面接特論Ⅱ」「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・臨床心理査定演習Ⅱ」「臨床心理基礎実習」の必修科目（14単位）は、1年次で修得すること。
- ⑤「臨床心理実習」（必修科目2単位）は、「臨床心理基礎実習」を修得した者に限り、2年次で履修することができる。
- ⑥選択必修科目より4科目8単位以上を選択履修するものとする。
- ⑦臨床心理学コースにおいて、臨床心理士資格試験及び公認心理師試験の受験資格を取得しようとする場合の履修方法については、『COLLEGE LIFE』の「奈良大学大学院社会学研究科社会学専攻 臨床心理学コースに関する履修内規」を確認すること。

2026年度 社会学専攻 臨床心理学コース 開講科目一覧表

曜日 時限	科目名	担当者 ★は非常勤講師	開講 期間	配当 年次	単位数	聴講等 可否	Nコード	履修上の 注意事項
※	臨床心理学演習Ⅰ(一)	—	—	1	2	—	SOCP-601S	
※	臨床心理学演習Ⅰ(二)	—	—	1	2	—	SOCP-601S	
月・1	臨床心理学演習Ⅰ(三)	磯部美也子	前期	1	2	×	SOCP-601S	
月・1	臨床心理学演習Ⅰ(四)	今井由樹子	前期	1	2	×	SOCP-601S	
月・1	臨床心理学演習Ⅰ(五)	林 郷子	前期	1	2	×	SOCP-601S	
※	臨床心理学演習Ⅱ(一)	—	—	1	2	—	SOCP-602S	
※	臨床心理学演習Ⅱ(二)	—	—	1	2	—	SOCP-602S	
月・1	臨床心理学演習Ⅱ(三)	磯部美也子	後期	1	2	×	SOCP-602S	
月・1	臨床心理学演習Ⅱ(四)	今井由樹子	後期	1	2	×	SOCP-602S	
月・1	臨床心理学演習Ⅱ(五)	林 郷子	後期	1	2	×	SOCP-602S	
※	臨床心理学演習Ⅲ(一)	—	—	2	2	—	SOCP-603S	
※	臨床心理学演習Ⅲ(二)	—	—	2	2	—	SOCP-603S	
月・2	臨床心理学演習Ⅲ(三)	磯部美也子	前期	2	2	×	SOCP-603S	
月・2	臨床心理学演習Ⅲ(四)	今井由樹子	前期	2	2	×	SOCP-603S	
月・2	臨床心理学演習Ⅲ(五)	林 郷子	前期	2	2	×	SOCP-603S	
※	臨床心理学演習Ⅳ(一)	—	—	2	2	—	SOCP-604S	
※	臨床心理学演習Ⅳ(二)	—	—	2	2	—	SOCP-604S	
月・2	臨床心理学演習Ⅳ(三)	磯部美也子	後期	2	2	×	SOCP-604S	
月・2	臨床心理学演習Ⅳ(四)	今井由樹子	後期	2	2	×	SOCP-604S	
月・2	臨床心理学演習Ⅳ(五)	林 郷子	後期	2	2	×	SOCP-604S	
水・1	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	鈴木 孝・星野 修一	前期	1	2	×	SOCP-501S	
火・2	臨床心理査定演習Ⅱ	林 郷子	後期	1	2	×	SOCP-502S	
金3・4	臨床心理基礎実習	磯部美也子・今井由樹子	通年	1	2	×	SOCP-503T	
金3・4	臨床心理実習	鈴木・林・星野	通年	2	2	×	SOCP-605T	
月・2	臨床心理学特論Ⅰ	星野 修一	前期	1	2	×	SOCP-504L	
水・4	臨床心理学特論Ⅱ	今井由樹子	後期	1	2	×	SOCP-505L	
火・1	臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)	林 郷子	前期	1	2	×	SOCP-506L	
水・5	臨床心理面接特論Ⅱ	鈴木 孝	後期	1	2	×	SOCP-507L	
火・2	A群 臨床心理学研究法特論	林郷子・村上史朗	前期	1・2	2	○	SOCP-508L	
水・3	心理統計法特論	中原洪二郎	後期	1・2	2	○	SOSE-501L	
水・2	B群 発達心理学特論	磯部美也子	前期	1・2	2	○	SODP-501L	
火・4	教育心理学特論	林 郷子	後期	1・2	2	○	SOCP-509L	
火・2	C群 社会心理学特論	太田 仁	前期	1・2	2	○	SOSP-501L	
金・1	犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	今井由樹子	後期	1・2	2	○	SOCP-510L	
木・1	D群 障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	★加藤 敬	後期	1・2	2	○	SODP-502L	
木・2	精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)	★武本 一美	前期	1・2	2	○	SOME-501L	
木・1	心身医学特論	★武本 一美	前期	1・2	2	○	SOME-502L	
水・3	E群 投映法特論	星野 修一	前期	1・2	2	×	SOCP-512L	
土・1	心理療法特論	★前田 泰宏	前期	1・2	2	×	SOCP-515L	
その他	心理実践実習Ⅰ	磯部・林・今井・鈴木・星野	不定期	1	2	×	SOCP-516T	
その他	心理実践実習Ⅱ	磯部・林・今井・鈴木・星野	不定期	2	8	×	SOCP-606T	
その他	F群 学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開)	磯部美也子	後期集中	1・2	2	○	SOCP-513L	
金・2	グループアプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践)	★黒崎 優美	後期	1・2	2	○	SOCP-514L	
金・2	産業・組織心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	與久田 巖	前期	1・2	2	○	SOSP-503L	
月・2	心理教育特論(心の健康教育に関する理論と実践)	鈴木 孝	後期	1・2	2	○	SOCP-516L	
その他	必修 学位論文	共同担当	不定期	2	0	—	SODT-601G	

※本年度開講せず

【注】

1. 本コースは、(財)日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定大学院である。

臨床心理学演習I(三) : 臨床心理学に関する修士論文の研究指導(1)、発達 磯部 美也子 前期 月曜日 1時限 B320  
臨床の実践演習

心理臨床の基本や発達臨床についての知識の習得のための文献購読およびワーク。  
各自の研究テーマに沿って、研究計画を立てる。文献検索と、発表、討議を重ねてテーマを確定する。  
予備調査、面接などを行い、予備研究 I として発表する。心理臨床の基礎的研究の方法を身につける。  
演習への参画度(発表内容・討議)と、レポートにより評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630103&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630103&opi=se0020&syw=1)

教科書



臨床心理学演習I(四) : 臨床心理学に関する修士論文の研究指導(1) 今井 由樹子 前期 月曜日 1時限 B216

主に先行研究による文献学習を通して、研究テーマや問題意識を明確化する。また、研究目的と方法論について検討し、研究計画を作成する。

演習への参加態度(主体的・積極的取り組み)、発表内容・研究計画書等(必要な資料の収集、適切な問題設定)により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630104&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630104&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



臨床心理学演習I(五) : 臨床心理学に関する修士論文の研究指導(1) 林 郷子 前期 月曜日 1時限 J206

主に先行研究による文献学習を通して、研究テーマや問題意識を明確化する。また、方法論についての検討を行い、研究計画を作成する。履修者による発表と討議を中心に進める。

演習への参加態度(主体的・積極的取り組み)、発表内容・研究計画書等(必要な資料の収集、適切な問題設定)により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630105&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630105&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



臨床心理学演習II(三) : 臨床心理学に関する修士論文の研究指導(2) 発達 磯部 美也子 後期 月曜日 1時限 B320  
臨床に関する実践演習

各自の研究テーマに沿って、研究計画を立てる。文献検索と、発表、討議を重ねてテーマを確定する。予備調査、面接などを行い、予備研究として発表を行う。発達臨床場面に必要な技術・技能について演習する。

演習への参画度(発表・討議)と、レポートにより評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630203&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630203&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



臨床心理学演習II(四) : 臨床心理学に関する修士論文の研究指導(2) 今井 由樹子 後期 月曜日 1時限 B216

演習 I で作成した研究計画を再検討し、研究方法について探求する。研究計画の問題と目的、方法を作成し、データ収集の準備を行う。

演習への参加態度(主体的・積極的取り組み)、研究(必要な資料の収集、適切な問題意識や方法の設定)の進捗状況により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630204&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630204&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



臨床心理学演習II(五) : 臨床心理学に関する修士論文の研究指導(2) 林 郷子 後期 月曜日 1時限 J206

演習 I で作成した研究計画に基づき、予備研究を行う。その結果を受けて研究計画を再検討し、本研究に向けての準備を行う。履修者の発表と討議を中心として進める。

演習への参加態度(主体的・積極的取り組み)、発表内容・予備研究に関するレポート等(必要な資料の収集、適切な問題意識や方法の設定)により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630205&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630205&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



臨床心理学演習III(三) : 臨床心理学に関する修士論文の研究指導(3) 磯部 美也子 前期 月曜日 2時限 B320

各自の研究テーマに沿って研究計画を立案し、文献検索、データ収集、結果、考察を行う。個々の院生の進捗状況に合わせながら、演習を進めていく。また、発達臨床の実践演習を行う。

演習への参画度、レポート、発表で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630303&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630303&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



臨床心理学演習Ⅲ(四)：臨床心理学に関する修士論文の研究指導(3) 今井 由樹子 前期 月曜日 2時限 B216

演習Ⅰ・Ⅱで作成した研究計画に基づいて、本研究を実施する。研究データを収集・分析し、考察を進める。履修者による発表と討議を中心として進める。

演習への参加態度(主体的・積極的な取り組み)、発表内容・研究の進捗状況等(必要な資料の収集、適切な研究計画)に基づいて、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630304&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630304&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



臨床心理学演習Ⅲ(五)：臨床心理学に関する修士論文の研究指導(3) 林 郷子 前期 月曜日 2時限 J206

演習Ⅰ・Ⅱで作成した研究計画に基づいて、本研究を実施する。研究データを収集・分析し、考察を進める。履修者による発表と討議を中心として進める。

演習への参加態度(主体的・積極的な取り組み)、発表内容・研究の進捗状況等(必要な資料の収集、適切な研究計画)に基づいて、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630305&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630305&opi=se0020&svw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



臨床心理学演習Ⅳ(三)：臨床心理学に関する修士論文の研究指導(4) 磯部 美也子 後期 月曜日 2時限 B320

各自の研究テーマに沿って修士論文を完成させるにあたり、個々に進めていく。論文を完成させて発表し、相互に討議する。

演習への参加態度、完成した修士論文及び発表で評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630403&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630403&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



臨床心理学演習Ⅳ(四)：臨床心理学に関する修士論文の研究指導(4) 今井 由樹子 後期 月曜日 2時限 B216

研究計画に基づいて、修士論文を完成させる。履修生による発表と討議を中心に進める。

演習への参加態度、研究への取り組み状況、発表内容、完成した修士論文の内容等により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630404&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630404&opi=se0020&svw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



臨床心理学演習Ⅳ(五)：臨床心理学に関する修士論文の研究指導(4) 林 郷子 後期 月曜日 2時限 J206

研究計画に基づいて、修士論文を完成させる。履修生による発表と討議を中心に進める。

演習への参加態度、研究への取り組み状況、発表内容、完成した修士論文の内容等により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100630405&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100630405&opi=se0020&svw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)：心理的アセスメントの意義、各心理的アセスメントの理論と実践方法 共同 鈴木 孝・星野 修一 前期 水曜日 1時限 J314

心理的アセスメントは、的確なクライアント理解のために、そして心理学的支援の方針を決定し、その効果を評価するために必要なものである。心理的アセスメントの役割と目的について明確にし、実施する場合の倫理的配慮について学ぶ。心理的アセスメントである観察、面接及び心理検査について、実習を通して、その実施法、解釈について学ぶ。また、その結果の相談、助言、指導等への応用について学ぶ。

平常の授業への参加状況(態度、発表、ディスカッション等)、レポートの内容等により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100632300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100632300&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜、プリント資料を配布する



臨床心理査定演習Ⅱ：心理的アセスメント、人格検査・知能検査の施行と解釈、心理支援への応用 林 郷子 後期 火曜日 2時限 B316

心理的アセスメントの基礎理解を前提として、人格検査(投射法・描画法)や知能検査(ウエクスラー式他)の意義と理論を整理する。その上で各検査の施行と解釈、所見の作成に関する実習を行う。

平常の授業への参加状況(主体的・積極的な態度、発表、ディスカッション等)、レポートの内容等により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100632200&opi=se0020&svw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100632200&opi=se0020&svw=1)

教科書 適宜、プリント資料を配布する。



臨床心理基礎実習：臨床心理実践の基本的態度や技能、倫理を学び、あわせて臨床心理実習に向けての基礎事項を学ぶ。 共同.磯部 美也子.今井 由樹子 通年 金曜日 3時限 B316

臨床心理実習は、臨床心理士として現場経験の豊富な教員のもと、グループワークや心理面接のロールプレイ、ケース・カンファレンス査定実習等を通じて、臨床心理面接(査定面接を含む)及び臨床心理査定の基本的スタンスと技能の基盤の習得を目指す。学内実習と学外(現場)実習を含む。

平常の学内外の実習授業への参加状況(態度、発表、ディスカッション、検査実習等)、実習レポートの内容等により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100633100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100633100&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜、プリント資料を配布する



臨床心理実習：臨床心理実習 共同.林 郷子.鈴木 孝.星野 修一 通年 金曜日 3時限 B317

臨床心理面接(査定面接を含む)のロールプレイやグループワーク等を通して、その基本的スタンスと技能の基礎の修得を目指す。本学附属の心理相談施設における担当事例に対するグループ・スーパーヴィジョンおよびケースカンファレンスでの発表・検討を通して、心理臨床の実践力を身につける。ケース担当の際は個別スーパーヴィジョンを受けることを必須とする。

授業への参加状況(主体的・積極的の態度、発表、ディスカッション等)、レポートの内容等により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100633200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100633200&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜、プリント資料を配布する。



臨床心理学特論I：臨床心理学原論(定義、歴史、展望、援助論、倫理)を学ぶ。 星野 修一 前期 月曜日 2時限 B318

臨床心理学の歴史や倫理、研究領域について学び、事例を含めた文献や研究論文、教員の臨床経験等を通して心理臨床の現場から得られる知見について学びを深める。

講義への参加状況、小レポート(30%)、レポート課題(70%)で評価を行う。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100634300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100634300&opi=se0020&syw=1)

教科書



臨床心理学特論II：心理的援助論 心理臨床実践モデル 臨床心理学の課題 今井 由樹子 後期 水曜日 4時限 J314  
と展望

幅広い実証研究論文に触れることで、臨床心理学の独自性と実証性の重要性を理解する。心理臨床家としての原点を学び、討論により考えを深める。

授業に対する積極性(講義中の質問、討論における参加状況とリーダーシップ)、レポート(課題を正確に理解し、議論を深める)により評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100634400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100634400&opi=se0020&syw=1)

教科書 資料を配布する



臨床心理面接特論I(心理支援に関する理論と実践)：臨床心理面接の理論と実際(I) 林 郷子 前期 火曜日 1時限 B316

臨床心理面接における代表的な心理療法について学修する。受講生による文献講読、レジュメ作成、発表、ディスカッション、実習等を通して、各種心理療法の理論と方法について理解を深め、心理臨床家としての基本的スタンスを身につける。

授業への参加状況(主体的・積極的の態度、発表、ディスカッション等)、レポート等(心理療法理論の理解、実践への適切な活用)により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100634700&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100634700&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜、プリント資料を配布する。



臨床心理面接特論II：臨床心理面接の理論と技法に関する概説 鈴木 孝 後期 水曜日 5時限 J314

- ①臨床心理面接の理論の学習
- ②臨床心理面接の技法学習
- ③臨床心理面接事例の理解と対応

平常点40%(出席率だけでなく、質問やプレゼンテーション、積極的受講態度により評価する)、学習到達度確認60%(臨床心理面接の理論と技法、心理的障害の特性や心理的支援のポイントの理解を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100634600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100634600&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



臨床心理学研究法特論：臨床心理学研究における方法論 共同.林 郷子.村上 史朗 前期 火曜日 2時限 B316

本講義の前半では、臨床心理学において用いられる主要な研究方法を、研究論文を通して概観する。後半では、例として一つの研究を計画し、仮説を立て、検証方法を検討することまでの研究プロセスを実際に体験しながら、臨床心理学的研究方法について学修する。

授業への積極的な参加、寄与(発表等)、レポート等(適切な研究計画)により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100635100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100635100&opi=se0020&syw=1)

教科書 必要に応じて配付する



心理統計法特論：心理学的研究における多変量データ解析の理解

中原 洪二郎

後期 水曜日 3時限 B118  
-1

この講義では、統計的分析の理論的な理解を重視する。その上で、実際に心理学的研究論文で用いられている事例を引きながら、分析結果の意味を読み取るスキルと、実際に分析を行うスキルの両方に関する課題をこなすことで、応用的な力をつける。

総合評価=毎回の課題評価(100%)

課題の評価基準:(要求課題に沿っている and 講義の内容を踏まえている and 論理的に一貫している) and (独自の視点が盛り込まれている or 批判的視点が盛り込まれている)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100635200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100635200&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜資料を配付する



発達心理学特論：生涯発達の考え方にたったひとりの発達に関する、臨床に結 磯部 美也子

前期 水曜日 2時限 B318

人間の発達について、生涯発達の視点から包括的に考える。最初に、発達における各時期の課題について学ぶ。特に、臨床心理士として児童の相談にあたってきた知見から、定型発達だけでなく、その阻害要因としての虐待や障害をはじめ、愛着、認知発達、心の理論、ことばの獲得、環境、発達障害等の問題も取り扱う。また、乳児期、幼児期、児童期、青年期のそれぞれの発達の課題と発達支援の在り方について検討する。

平常点、講義への参画状況、講義中の質問、意見発表を評価する。(30%)、レポートの完成度、発表の充実度を重視・テスト 発達心理学に関する異本事項の理解度を評価する。(70%)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100636100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100636100&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



教育心理学特論：教育と心理臨床

林 郷子

後期 火曜日 4時限 J314

教育と心理臨床は密接な関連のある領域で、教育の場において、もしくは教育との連携のもと、さまざまな心理臨床の実践がなされている。本講義では、教育心理学の中でも、子どもの心理臨床と関わり深い領域を取り上げて、子どもをめぐる課題について検討する。文献講読と発表、討議を中心として行う。

授業への主体的・積極的な参加態度、発表・レポート等(自身の見解を深められているか)により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100636200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100636200&opi=se0020&syw=1)

教科書 プリント配布もしくは適宜指示する。



社会心理学特論：援助要請の心理学

太田 仁

前期 火曜日 2時限 J206

まず、援助行動の影響過程および被援助行動の影響過程を学ぶ。次に、援助要請行動の過程を各ステージ別の課題と共に支援の方法を学ぶ。

小レポート(40%=授業課題への適合度、論理的な構成、科学的な記述の3点を評価する)+各授業での質疑応答(30%=準備の程度、意見表明の誠実さなどを評価する)+最終レポート(30%=テーマ選択の根拠の合理性、キーワードの適正な使用、科学的な記述を評価する)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100637000&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100637000&opi=se0020&syw=1)

教科書



犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)：非行・犯罪行 今井 由樹子

後期 金曜日 1時限 J315

少年警察補導職員及び臨床心理士・公認心理師としての経験に基づき授業を展開する。司法犯罪心理学領域における臨床活動と心理専門職の役割を学ぶ。非行・犯罪行動の背景・要因・プロセスを理解し、具体的な介入方法を学ぶ。加害と被害の関係を理解し、支援の実際と課題を考える。

授業への参加状況(積極的な参加、テーマを掘り下げた発表、ディスカッション等)、レポート等により総合的に判断する。レポートでは、課題を正確に捉え、参考資料を確実に読みこなし、考察が論理的な展開となっているかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100637700&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100637700&opi=se0020&syw=1)

教科書 なぜ君は絶望と闘えたのか / 門田隆将・新潮社文庫、2010・978-4101231426 資料を配布する



障害者(児)心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開)：発達障害 加藤 敬

後期 木曜日 1時限 J314

公認心理師が制度化され、心理は医療、福祉、教育、産業、司法など様々な領域で活躍しているが、発達障害の方に出会わない日はないほどの現状である。こうした状況に備えるため、発達障害をめぐる様々な知識を調べ学習や講義を通じて学んでいく

平常点50%(講義中の質問や積極的な態度を重視)、学習到達度50%(発達障害を理解するための基本的概念を正しく理解している)発表内容の充実度の重視

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100638500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100638500&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開)：精神疾患の中 武本 一美 前期 木曜日 2時限 J206  
 で、身体因の関与が大きいと考えられる諸疾患について、その疾患概念、心理  
 的な患者理解、治療、患者支援について学ぶ。

身体因の関与が大きいと考えられる精神疾患を、DSM-5に沿って学習する。毎回テーマとする疾患について予習し、それ  
 を講義でプレゼンテーションしてもらい、それを共に検討する。精神医学的な知見と心理学的な見方を、対比させ学  
 習する。

毎回の予習とその講義中のプレゼンテーション、受講態度によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100638600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100638600&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜資料を配布します。



心身医学特論：精神疾患の中で、心因の関与が大きいと考えられる諸疾患に 武本 一美 前期 木曜日 1時限 J206  
 ついて、その疾患概念、心理的な患者理解、治療、患者支援について学ぶ。

心因の関与が大きいと考えられる精神疾患を、DSM-5に沿って学習する。毎回テーマとする疾患について予習し、それ  
 を講義でプレゼンテーションしてもらい、それを共に検討する。精神医学的な知見と心理学的な見方を、対比させ学  
 習する。

毎回の予習とその講義中のプレゼンテーション、受講態度によって評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100638400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100638400&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜資料を配布します。



投映法特論：投映法に関する理論と技法の概説 星野 修一 前期 水曜日 3時限 J206

ロールシャッハテストの理論と実施法を習得し、ロールプレイによる試行の実施の後、結果の整理法、解釈法を学ぶ。  
 また、健常者の協力者を対象に実施練習と、コーディング練習を行う。その後、事例を用いて、解釈の練習を行う。

平常点40%(出席率がベース。質問や討論への参加など受講態度を加味する。)、レポート60%(最終レポートを中心と  
 するが、コーディング、構造一覧表の作成、解釈の適切性や論理性を加味する。)

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100639100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100639100&opi=se0020&syw=1)

教科書



心理療法特論：心理療法への統合的アプローチ 前田 泰宏 前期 土曜日 1時限 B224

近年、心理療法は、単一学派の理論モデル・技法によるアプローチから、諸種の理論や技法を統合的に有効活用する  
 段階に入ったと言われている。本講義では、その基盤となる諸理論やエビデンスを踏まえながら、心理療法統合や統合  
 的心理療法の理念/基本概念/方法について学ぶ。授業では、学んだことの振り返り、提示課題への取り組み、発表、  
 ディスカッション、ロールプレイ等を通して、個々のクライアントに適合する臨床実践の基礎となる知識/態度/方法を身  
 につける。

平常点(授業中の質問や応答、課題への真摯な取り組みなど、積極的な姿勢を重視)+レポート(心理療法統合や統  
 合的心理療法に関する知識や理解度を評価)により、総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100639500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100639500&opi=se0020&syw=1)

教科書 なし



心理実践実習I：心理臨床活動の実践(1) 共同.林 郷子.磯部 通年 その他 その他 その他  
 美也子.今井 由樹子.  
 鈴木 孝.星野 修一

本学附属の心理相談施設(臨床心理センター)および学外実習施設において実習を行う。施設見学や心理面接、  
 チームアプローチ等を通して、心理支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成を行い、心理支  
 援に必要な知識・技能・態度等を修得する。また、多職種連携や地域連携について体験し、その意義を学ぶ。ケース・カン  
 ファレンスやスーパーヴィジョンを通して、活動内容について適宜検討を行う。

実習への参加状況や研修記録、カンファレンスへの参加態度等により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100633500&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100633500&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜、資料を配布する。



心理実践実習II：心理臨床活動の実践(2) 共同.林 郷子.磯部 通年 その他 その他 その他  
 美也子.今井 由樹子.  
 鈴木 孝.星野 修一

本学附属の心理相談施設(臨床心理センター)および学外実習施設において実習を行う。心理検査、心理面接、チ  
 ムアプローチ等を通して、心理支援を要する者等の理解とニーズの把握、心理面接および支援計画の作成を行い、心  
 理支援に必要な知識・技能・態度等を修得する。また、多職種連携や地域連携について、実践的に学ぶ。ケース・カン  
 ファレンスやスーパーヴィジョンを通して、活動内容について適宜検討を行う。

実習への参加状況や研修記録、カンファレンスへの参加態度等により総合的に評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100633600&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100633600&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜、資料を配布する。



学校臨床心理学特論(教育分野に関する理論と支援の展開) : 学校心理臨床 磯部 美也子 後期 その他 その他 B216  
の理論と実際

学校におけるいじめ、不登校、発達障害、問題行動、緊急支援など、学校臨床心理士(スクールカウンセラー)が扱う事例は多岐にわたっている。学校臨床の構造の理解や、連携の在り方、事例の展開など、研究や具体的な事例を通して学校臨床について学ぶ。教員がスクールカウンセラーとして実際に経験したことも取り上げる。

授業への参画度・発表・レポート(70% 講義中の質問、意見発表、レポートの完成度を重視)、確認テスト(30% 講義に関する基本的事項の理解度を評価する)。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100640100&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100640100&opi=se0020&syw=1)

教科書



グループ・アプローチ特論(家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践) : グループアプローチの理論と実際 黒崎 優美 後期 金曜日 2時限 J206

グループアプローチとは、集団精神療法をはじめとする集団に焦点を当てた心理学的接近法の総称です。本科目では、家族、学校、職場、地域社会等の集団において生じるさまざまな臨床心理学的課題に対するグループアプローチについて、文献講読、素材や事例の検討、討議を通じて理解を深め、それぞれの集団生活や臨床活動への応用力を高めることをめざします。

平常点(50%) … 授業への参加貢献

提出物(30%) … 授業レポート

課題発表(20%) … 独創性、論理性

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100640200&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100640200&opi=se0020&syw=1)

教科書



産業・組織心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開) : 公認心 與久田 巖 前期 金曜日 2時限 B216  
理師養成における産業・組織心理学の理解

心の専門家養成講座の著作の講読を中心に行い、適宜ディスカッションを通して、公認心理師養成における産業・組織心理学の理解を深める。

発表50% : 発表内容を評価する。

ディスカッション30% : 発表内容を踏まえた上で自己の見解を論理的に展開しているか評価する。

学期末レポート20% : 自己の見解を論理的に記述しているか評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100640300&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100640300&opi=se0020&syw=1)

教科書 産業心理臨床実践: 個(人)と職場・組織を支援する / 金井篤子、森田美弥子、松本真理子 . ナカニシヤ出版, 2016 . 978-4779510649



心理教育特論(心の健康教育に関する理論と実践) : 心の健康教育の理論 鈴木 孝 後期 月曜日 2時限 J205  
心の健康教育の実践

心の健康とはどのような状態を指すのか、予防とはいかにあるべきかについて、ストレス理論、疾病理論、コミュニケーション理論から学ぶ。子育て支援、学校領域、地域コミュニティにおいて健康を脅かされる事態が発生した場合に、いかに心の健康の普及を図るための教育を行えばよいのか、情報を提供すればよいのかについて学ぶ。

授業への参加状況(積極的な参加、テーマを掘り下げた発表、ディスカッション等)、レポート等により総合的に判断する。レポートでは、課題を正確に捉え、参考資料を正確に読みこなし、論理的な展開となっているかを評価する。

[https://portal.nara-u.ac.jp/aa\\_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026\\_1\\_100640400&opi=se0020&syw=1](https://portal.nara-u.ac.jp/aa_web/syllabus/se0030.aspx?me=EU&sk=2026_1_100640400&opi=se0020&syw=1)

教科書 適宜、プリント資料を配布する



---

## 奈良大学大学院履修要項

2026年3月31日発行

編集 奈良大学  
発行 総合研究所・大学院事務室

〒631-8502  
奈良市山陵町1500  
電話0742-41-9508

印刷 共同精版印刷株式会社

〒630-8013  
奈良市三条大路2丁目2-6  
電話0742-33-1221

---

